

平成 19 年度（第 51 回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

授業改善

## 授業改善を図るための校内授業研究の 進め方に関する研究

- 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の  
作成と活用をとおして -

### 研究協力校

奥州市立水沢小学校  
紫波町立紫波第三中学校

### 研究協力員

北上市立鬼柳小学校	教諭	松本	祥子
一関市立中里小学校	教諭	叶内	博行
紫波町立紫波第三中学校	教諭	熊谷	啓子
県立釜石南高等学校	教諭	目時	一哉

平成 20 年 1 月 8 日  
岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室・情報教育室  
夏井 敬雄 松葉 覚  
鈴木 敏彦 谷木 啓恭

## 目 次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
研究結果の分析と考察	2
1 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する基本的な考え方	2
(1) 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による授業研究の推進	2
(2) 学校全体と教師個人の二つの側面による校内授業研究の推進	2
(3) 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点，及び学校全体と教師個人の二つの側面による校内授業研究を推進するための主な手立て	3
(4) 校内授業研究の推進の仕方	4
(5) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」について	6
2 本研究の基本的な考え方を取り入れた実践について	6
(1) 研究協力校及び研究協力員における実践内容	6
(2) 研究協力校及び研究協力員における実践概要	7
3 アンケート調査の分析と考察	11
(1) 調査の目的と内容	11
(2) 調査結果の分析と考察	11
4 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成	17
(1) ガイドブック（試案）修正・改善の視点	17
(2) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成	18
5 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究のまとめ	18
(1) ワークショップ型研究の実践から	18
(2) 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組から	18
研究のまとめ	19
1 研究の成果	19
2 今後の課題	20

<おわりに>

【引用文献】

【参考文献】

## I 研究目的

本県の教育の最重要課題である「学力向上」のためには、日々の授業が児童生徒にとって「わかる授業」となるよう、教員が力量を磨き授業改善に努めることが何よりも大切であり、そのためには、研修・研究の充実が必要である。特に各校で校内研修として取り組む授業研究は、児童生徒の実態に即して、日常的、継続的に授業改善に取り組むうえで、大変有効である。

本県でも、小・中学校を中心に、校内授業研究が盛んに行われており、教員の授業改善の力を高める場となっている。しかし、近年、授業研究会が感想の交流に終始したり、研究テーマに基づいた実証授業がその場限りで日常の教育活動に反映されなかったりして、授業改善につながらないなど、校内授業研究が十分に機能しなくなっている状況が見受けられる。

このような状況を改善するためには、各校の実態に応じた校内授業研究の進め方の視点を示したり、そこで活用できるシートを作成し活用を図ったりするなど、評価・分析の視点を明確にした具体的な授業の振り返りができるようにし、そこで得た気づきを授業改善につなげていくようにする必要がある。

そこで、この研究は、「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成と活用をとおして、教員が授業の評価・分析を協力しながら行う校内授業研究の進め方について明らかにし、授業改善に役立てようとするものである。

## II 研究の方向性

教師一人一人が授業改善を図るための校内授業研究は、どうあればよいのかということについて明らかにし、校内授業研究の進め方の視点や具体的な方策、留意点等についてまとめる。それらを実践をとおして吟味・検討し「校内授業研究の進め方ガイドブック」として提示することとする。

## III 研究の年次計画

### 1 第1年次（平成18年度）

- (1) 授業改善を図る校内授業研究の進め方についての基本構想の立案
- (2) 「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」の作成

### 2 第2年次（平成19年度）

- (1) 研究協力校における校内授業研究の改善にかかわる実践
- (2) 実践結果の分析・考察
- (3) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成
- (4) 研究のまとめ

## IV 本年度の研究内容与方法

### 1 目 標

「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」に基づいた実践を行い、本研究の基本的な考え方の有効性を明らかにするとともに、ガイドブック（試案）に修正・改善を加え「校内授業研究の進め方ガイドブック」として提示する。

### 2 内容与方法

- (1) 研究協力校・研究協力員における「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」に基づく実践（実践）

- (2) アンケート調査の分析・考察（質問紙法）
- (3) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成（文献法）
- (4) 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究のまとめ

### 3 研究協力校

奥州市立水沢小学校

紫波町立紫波第三中学校

## V 研究結果の分析と考察

### 1 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する基本的な考え方

授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する基本的な考え方と、「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」については、本研究第1年次（平成18年度）で提示した。その概要を以下の(1)～(5)で示す。

#### (1) 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による授業研究の推進

ドナルド・ショーンは、現代の専門家は「活動過程における省察」を原理とする「反省的実践」において専門性を発揮していると主張した。佐藤学（1996）の文献から「反省的実践」について述べた部分を引用する。『技術的実践』が、どんな状況にも有効な科学的な技術と原理を基礎とするのに対して、『反省的実践』は、経験によって培った暗黙知を駆使して問題を省察し、状況と対話しつつ反省的思考（デューイ）を展開して複雑な状況に生起する複合的な問題の解決にクライアント（顧客）と連帯して取り組むという。この『反省的実践』の様式を教育に導入したのが『反省的授業（reflective teaching）』である。『反省的授業』は、授業に関する一般化された科学的原理やプログラムを教室に適用する『技術的実践』としての授業に対抗する概念であり、教室の『出来事』に対する洞察と省察と反省という教師の『実践的認識』を基盤として成立する授業を意味している。」

「反省的実践」と「技術的実践」という視点から、各学校の校内授業研究を見つめる。校内授業研究会において、仮説を具体化した指導が協議的となる場合は、「技術的実践」に当てはまると言えよう。一方、仮説にかかわらない特定場面における特定の子どもについての教師のかかわり方が協議的になる場合があるが、このようなことは「反省的実践」に当てはまると言えよう。「技術的実践」はどの教室にも通用する一般的な技術原理を探究し、「反省的実践」は教室の中で起こった特有の出来事、その場の教師や子どもたちの活動・経験の意味を探究していくものである。

各学校の校内授業研究会の協議では、「技術的実践」と「反省的実践」の双方が取り上げられている。ただし、各学校は「仮説・検証型」で研究に取り組んでいることが多いため、協議は「技術的実践」の部分がクローズアップされている。また、研究紀要や研究通信等でも「技術的実践」中心にまとめられることが多い。しかし、「技術的実践」としての授業の限界が指摘されていることから、「反省的実践」の視点からの授業の分析・検討、まとめ等が必要である。校内授業研究会の協議を含め授業研究を推進していく際には、「技術的実践」と「反省的実践」の双方の視点をもつことが必要である。

#### (2) 学校全体と教師個人の二つの側面による校内授業研究の推進

県内の各学校の校内授業研究におけるまとめは、研究紀要として、設定した研究テーマや仮説についてまとめられていることが多い。ところが、教師一人一人の授業改善がどうなされた

のか、また、授業力量がどのように発展したのかについては、ほとんどふれられていない。言い換えると、「技術的実践」についてはまとめられるが、「反省的実践」についてはふれていない状況が多い。一人一人の授業力量や授業改善の「反省的実践」にかかわることは、教師個人にまかされているのである。「反省的実践」について、校内授業研究の中に位置付けられるとともに、計画的に取り扱われ協議され、まとめられていく必要がある。具体的には、校内授業研究会の協議の際に、「技術的実践」の視点から校内研究テーマについての成果と課題を明らかにしていくこと、そして、授業提供者固有の「反省的実践」の成果と課題も明らかにしていくということが考えられる。また、研究紀要と同様に教師個人の「反省的実践」にかかわる成果と課題、課題改善の方向性を明らかにしていく取組の一例として、ポートフォリオ作成によるリフレクションが考えられる。

(3) 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点、及び学校全体と教師個人の二つの側面による校内授業研究を推進するための主な手立て

前記1の(1)と(2)で述べた、「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点、及び学校全体と教師個人の二つの側面による校内授業研究を推進するための主な手だてとして、本研究では「ワークショップ型研究会」と「授業力アップ・ポートフォリオの取組」を提案する。

ア ワークショップ型研究会について

(ア) ワークショップ型研究会の進め方

ワークショップ型研究会の進め方（一例）を【資料1】に示す。

【資料1】ワークショップ型研究会の進め方（一例）

<p>《事前準備・授業参観》 各自に付箋紙を渡しておく。 参観者は、付箋紙に気付いたことを記入しながら参観する。</p> <p>《研究会》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業者による提案授業の説明 授業者は、以下のようなことについて述べる。 ○校内研究テーマにかかわり、①提案授業で配慮したこと②実際授業を行ってみたいの反省等 ○校内研究テーマ以外のことで、①提案授業で配慮したこと②実際授業を行ってみたいの反省等</li> <li>2 質疑 協議の前に確認しておきたいことについて質問を取る。</li> <li>3 グループ協議 4～6人程度のグループを構成し、授業を分析し成果と課題を明らかにする。 ・ワークシート上に各自の付箋紙を貼り出す ・付箋紙の内容によりグループ化し、小見出しを付ける ・グループ化したもの同士の関係を議論し、関係を線や文章で表す ・成果と課題を明らかにする ・課題については、改善の方向性を見出す ※授業者は、グループ協議に加わってよい</li> <li>4 グループ発表 グループごとに話し合った内容を発表し、情報の共有化を図る。</li> <li>5 全体協議 グループ発表を受け、全体で共通確認すべきことを協議する。</li> <li>6 各自の振り返り 研究会での学びから、各自明日以降の実践に取り入れていきたいこと等を確認する。</li> </ol>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>付箋紙の色の例</b></p> <p>ピンク：研究テーマに関すること ブルー：それ以外のこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ワークシートの例（模造紙に作成）</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">(+)</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">導入</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">展開</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">終末</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px dashed black; border-bottom: 1px solid black;"></td> <td style="border-right: 1px dashed black; border-bottom: 1px solid black;"></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; text-align: center;">(-)</td> <td style="border-right: 1px dashed black; text-align: center;"></td> <td style="border-right: 1px dashed black; text-align: center;"></td> <td style="text-align: center;"></td> </tr> </table> </div>	(+)	導入	展開	終末					(-)			
(+)	導入	展開	終末										
(-)													

(イ) ワークショップ型研究会により期待できること

- ・自分の考えを付箋紙に記入し、それをもとに協議することから、参加者の研究会への主体的な参加がなされる
- ・小グループでの話し合いは全体での話し合いより気軽にできることから、学び合いの機

会が多くなる

- ・用いる付箋紙の色分けを工夫（例「ピンク：研究テーマに関すること」「ブルー：それ以外のこと」）したり，ワークシートの様式を工夫したりすることにより，「技術的実践」と「反省的実践」のそれぞれについて成果と課題が明確になる
- ・KJ法を用いて，付箋紙をグループ化したり，付箋紙のグループ同士を関係付けたりする過程で，授業の分析・考察が深まる
- ・成果と課題が視覚的にも明確になるとともに，話し合った過程が記録として残る

イ 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組について

(ア) 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取り組み方

「授業力アップ・ポートフォリオ」とは，教師が自分の授業力量向上や授業改善を目的として日々の実践に取り組み，それをリフレクションするために取りためた資料等をポートフォリオしたものである。

「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組の仕方（一例）を【資料2】に示す。

### 【資料2】授業力アップ・ポートフォリオの取組の仕方（一例）

#### 《自己課題解決に向けた計画立案》

- ・以下の表の視点や具体的な内容等を参考にし，自分が向上を目指すものを決める。（自己課題の設定）

視 点	具体手的な内容
○教育に対する姿勢	使命感，熱意，教育観等
○授業構想	教材解釈，教材・教具開発，授業計画，評価計画，環境構成等
○学習集団マネジメント	児童・生徒理解，統率力，人間関係構築力，学習意欲の喚起等
○指導法	授業実施に関する技術（発問，板書，学習形態，発言への対応等），指導と評価の一体化，環境構成等

- ・課題解決がなされた姿を考える（ゴール像の明確化）
- ・課題解決のための方策を考える
- ・課題解決に向けたスケジュールを立てる

#### 《ポートフォリオの作成》

- ・自己の取組をファイルに綴じ込む（パソコン等を利用してデジタルポートフォリオにする方法もあり）

※綴じ込むものの例

- 指導案 □学習プリント □研究会記録 □研究レポート □教材研究メモ □参考文献のコピー
- 研修会資料 □実践についての所感 □授業のビデオや写真 等

※留意点

- ・初めは，どんどん時系列で綴じ込んでいく
- ・途中で，整理する（整理する際は，上記の表の視点等を参考にする）

#### 《シェアリング》

- ・作成したポートフォリオをもちより，学びあったり，助言をもらったりする（学年団で，教科部会で，全校研修会で）

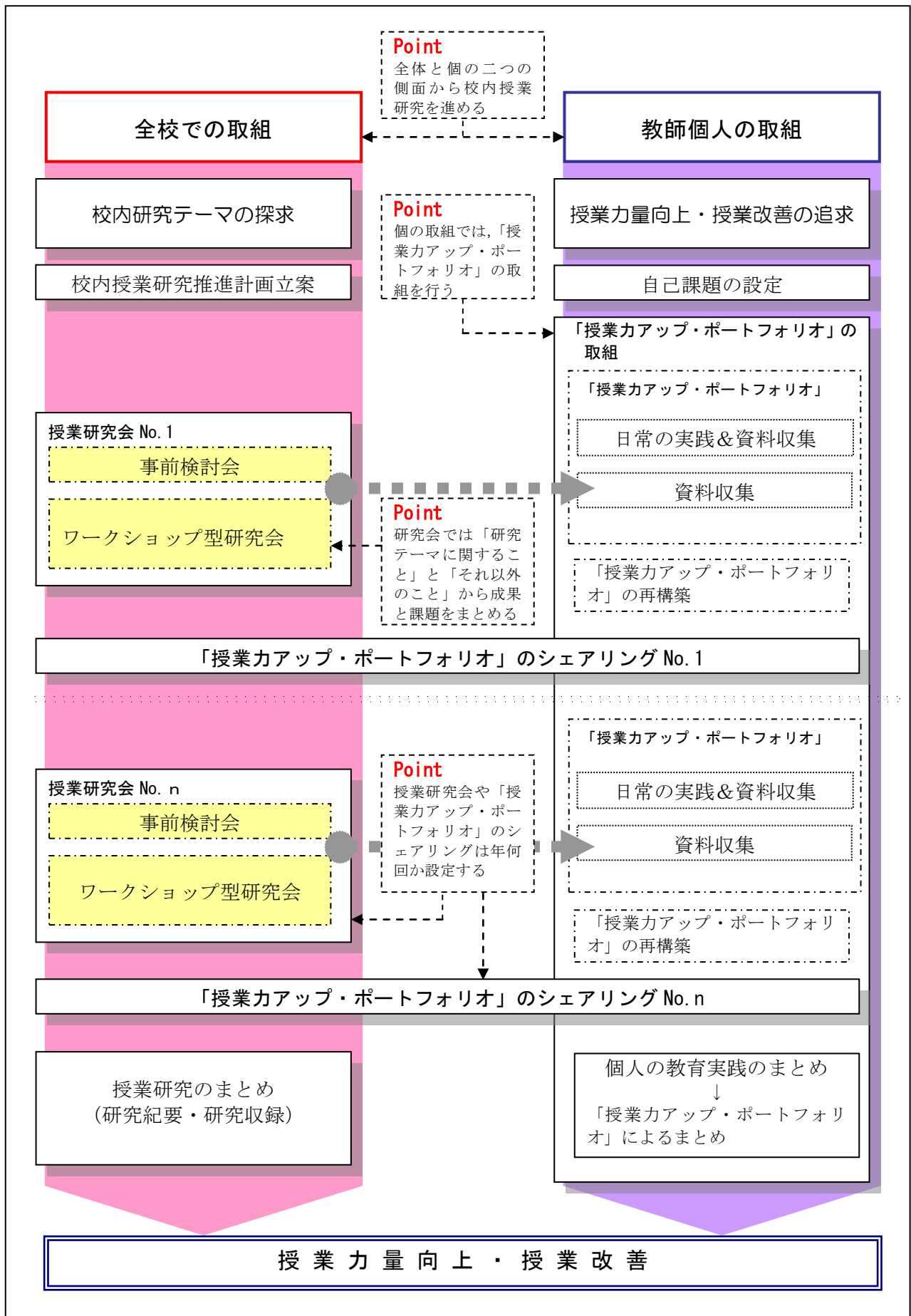
※シェアリングの機会は，定期的に設けるようにする

(イ) 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組で期待できること

- ・自分の授業力量向上や授業改善の足跡を記録として残すことができる
- ・自分の実践についてリフレクションするとともに，同僚同士ポートフォリオを持ち寄ってシェアリングすることにより，授業力量向上・授業改善が図られる
- ・新たな自己課題の設定・その改善に向けた取組がサイクルとなり，授業力量向上・授業改善へ向けた取組が不断になされる

(4) 校内授業研究推進の仕方

「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点，及び学校全体と教師個人の二つの側面による校内授業研究推進の仕方を図に表したものが5頁【図1】である。これは，年間の研究推進例であり，中期的なサイクルモデルである。



【図1】校内授業研究推進の仕方（中期サイクルモデル）

(5) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」について

ア 「校内授業研究の進め方ガイドブック」作成と活用のねらい

「校内授業研究の進め方ガイドブック」（これ以降ガイドブックという）とは、小・中学校、高等学校等のすべての学校を対象とし、教師の授業力量の向上や授業改善を図ることを目的として、校内授業研究の進め方の視点や、校内授業研究会の行い方、そこで活用できるシート等を提示したものである。ガイドブックは、授業研究推進のための一手法の提案という位置付けであり、各学校で、学校種や学校規模、研究の内容等の実態に合わせて内容を取捨選択して活用してもらえばよい。ガイドブックが活用されることにより、各学校の校内授業研究推進のシステムづくりとともに校内授業研究の活性化、ひいては教師一人一人の授業力量向上・授業改善が図られることをねらう。

本研究の第1年次目にはガイドブック（試案）を作成した。今次は、研究協力校・研究協力員の実践をおして修正・改善を加えたガイドブックを提示する。

イ ガイドブックの基本構成

本研究の基本的な考え方と参考文献等を基に、ガイドブックは、右の【表1】のような観点と主な内容で構成することとする。

【表1】「校内授業研究の進め方ガイドブック」の基本構成

観 点	主 な 内 容
I 校内授業研究の推進計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P D C Aサイクルによる研究推進計画</li> <li>・自己課題の設定</li> <li>・機能的な組織づくり</li> <li>・校内授業研究推進上の研究主任の役割</li> <li>・校外研修への参加 等</li> </ul>
II 授業構想の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業構想の大まかな流れ</li> <li>・教材研究の仕方</li> <li>・児童・生徒理解の仕方</li> <li>・学習指導案の作成</li> <li>・指導法について 等</li> </ul>
III 校内授業研究会の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前検討会の行い方</li> <li>・効果的な研究会の行い方（ワークショップ型研究会等） 等</li> </ul>
IV 校内授業研究のまとめ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の作成</li> <li>・個人の教育実践のまとめ方（授業力アップ・ポートフォリオ） 等</li> </ul>
V 資料編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観チェックシート</li> <li>・児童生徒による授業の評価</li> <li>・自己課題解決シート</li> <li>・概念化シート 等</li> </ul>

2 本研究の基本的な考え方を取り入れた実践について

研究協力校及び研究協力員には、各校の実態に応じてガイドブック（試案）の一端を取り入れた実践をしていただいた。

(1) 研究協力校及び研究協力員における実践内容

【表2】は、研究協力校及び研究協力員における実践の内容を示したものである。

ワークショップ型研究会の実践は、「技術的实践」（校内研究テーマに関すること）と「反省的实践」（それ以外のこと）の二つの視点で協議を行うものである。「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組にかかわる実践は、教師個人の授業力量向上・授業改善を図るために行った日々の教育実践の積み重ねである。

【表2】研究協力校及び研究協力員における実践内容

研究協力校及び協力員	主な実践内容	備 考
≪研究協力校≫ 奥州市立水沢小学校 紫波町立紫波第三中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ型研究会</li> <li>・授業力アップ・ポートフォリオ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ型研究会では、「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点を設けて協議を行う</li> <li>・個人の側面からの研究推進として、「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組を行う</li> <li>・学校からの要請に応じて、事前研究会・事後研究会に教育センター所員が対応する（資料提供・助言等）</li> </ul>
≪研究協力員≫ 小学校教諭2名 高等学校教諭1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ型研究会</li> </ul>	





(2) 研究協力校及び研究協力員における実践概要

ア ワークショップ型研究会の実践概要

【資料3】は水沢小学校におけるワークショップ型研究会の事例である。

【資料3】ワークショップ型研究会の概要（水沢小学校）

ワークショップ型研究会の流れ（全体研究会）	
<p>《全体研究会次第》</p> <p>I はじめの言葉</p> <p>II 校長の話</p> <p>III 研究協議</p> <p>1 ○○科研究部会の取組について（○○科部会長）【5分】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題について</li> <li>・手だてについて</li> </ul> <p>2 授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者から【5分】</li> <li>・質疑【5分】</li> <li>・ワークショップ型【35分】</li> <li>・全体討議型【30分】</li> </ul> <p>3 指導助言【20分】</p> <p>4 感想カード記入</p> <p>IV 校長より</p> <p>V 連絡事項</p> <p>VI 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者は、授業参観時に気付いたことを付箋紙に記入しておく（「研究にかかわること」「それ以外のこと」で色分け）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者は、本時授業の視点に沿って振り返りを述べる</li> <li>・協議に入る前に、確認しておきたいこと等、質疑を行う</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ構成は、年代別・所属学年別等、工夫して構成する</li> <li>・一つのグループの人数は、4～6人程度である</li> <li>・ワークシートは、研究の手立てに沿って分析できるもの（別冊ガイドブックを参照）を使用することが多い</li> <li>・ファシリテーターや記録係、発表係は、人材育成の面を考慮して決めることが多い</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水沢小学校では、以下の部会を組織して研究推進している</li> <li>《主題研究部会》 （国語科，社会科，算数科，理科，特別支援教育）</li> <li>《プロジェクト部会》 （道徳，音楽，体育，エコ，ICT）</li> <li>・校内研究会は，全員が参加して行う全体研究会と，各部会が行う部会研究会がある</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会で研究主題・研究仮説を設定しており，これまでの取組等を研究部会長が説明する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを用意しておき，各グループの発表を成果と課題の視点からまとめていく</li> <li>・全員で共通確認する事項を研究主任が決め，全員で討議する</li> </ul>
 <p>《グループ協議の様子》</p>	 <p>《全体討議の様子》</p>
<p>《考察》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議の視点や内容により，グループ協議や全体討議の時間配分，進め方等を適宜変更しながら行うことが効率的である</li> <li>・授業参観前に授業を見る視点を確認しておいたり，研究会の「授業者から」で「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点から授業の振り返りを述べたりすることで，焦点化された協議となる</li> <li>・グループの人数はあまり多くない方が，一人一人の発言機会が多くなり，学びも深まるとともに満足感も得られる</li> <li>・グループの構成の仕方を年代別・所属学年別等工夫することで，話し合いの活性化・多様化が望める</li> <li>・グループで話し合われた内容については，各自がまとめるなどしてポートフォリオしておくことが重要であると思われる</li> <li>・各グループの発表を受けてから全体討議をすることで，成果と課題，課題改善の方向性等がより明確になるとともに共通確認がなされる</li> <li>・研究会の終わりに感想カードを記入することにより，研究会での学びが教師一人一人の明日以降の実践につながっていく</li> </ul>	

【資料4】は、紫波第三中学校におけるワークショップ型研究会の事例である。

【資料4】ワークショップ型研究会の概要（紫波第三中学校）

ワークショップ型研究会の流れ（全体研究会）

- 《全体研究会次第》
- I はじめの言葉
  - II 校長の話
  - III 研究協議
    - 1 授業者から
    - 2 協議（ワークショップ型）
    - 3 全体協議
  - IV 助言
  - V 連絡事項
  - VI 校長から
  - VII 終わりの言葉

・参加者は、授業参観時に気付いたことを付箋紙に記入しておく（「研究にかかわること」「それ以外のこと」で色分け）

・授業者は、全校テーマに基づいた各教科における手だてに沿って授業の振り返りを述べる

・紫波第三中学校は、教科担任が一人程度の小規模校であり、研究会の内容を充実させるため、近隣の小・中学校から参加者を招いて研究会を行う等の工夫をしている

・研究主題は「基礎基本の定着を図る教科指導一学び合いと繰り返しを通して」である

・研究仮説は「各教科の授業において次のような手立てを講じれば基礎・基本が確実に身に付くであろう。①生徒同士の学び合いを取り入れる②繰り返して学習させる方法を工夫する」である

・一つのグループの人数は4～6人程度である

・ワークシートは、授業の指導過程に沿って成果と課題を協議できるものを使用している

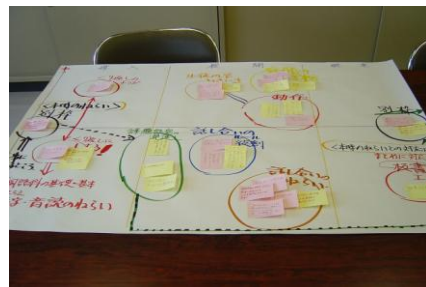
・付箋紙の活用例（ピンク：「研究テーマにかかわること」ブルー「それ以外のこと」）

・ファシリテーターや記録係、発表係は、そのときのグループ構成による選定している

・全員で共通確認すべき事項を全体協議として取り上げ、研究の成果と課題を積み重ねるようにしている



《グループ発表の様子》



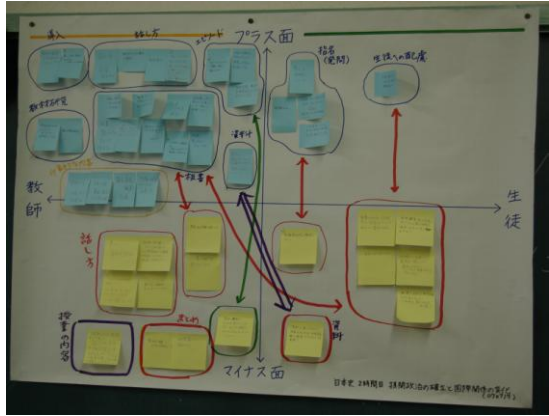
《ワークシート》

《考察》

- ・中学校においては、教科の特性を考慮して、同教科による担任団や研究主任等のグループで研究会が行われることが多い。しかし、「技術的実践」（研究テーマにかかわること）と「反省的実践」（それ以外のこと）の二つの視点を設け、全職員参加のワークショップ型研究会を取り入れることにより、全校研究テーマの探究や個の授業力量向上・授業改善に係る協議をより深めることができる
- ・グループ協議において、付箋紙をグループ化することや小見出しを付けること自体に性急になると、協議が深まらない可能性があるので、付箋紙の内容についての話し合いを十分に行うことが重要である
- ・小学校での事例と同様に、各グループの発表を受けてから全体協議をすることで、成果と課題、課題改善の方向性等がより明確になるとともに共通確認がなされる
- ・近隣の小・中学校の教員を招いて研究会を行うことは、小規模校のみならず大規模校においても、自校の研究を新たな視点から見つめることにもなり有効な手段である
- ・研究会後に授業者が、話し合いがなされたワークシートを基に、自分の授業について再度振り返りを行うことにより、授業力量向上・授業改善に向けた取組が促進される

【資料5】は、研究協力員が行った釜石南高等学校における地歴・公民科でのワークショップ型研究会の事例である。

【資料5】ワークショップ型研究会の概要（釜石南高等学校）

ワークショップ型研究会の流れ	
<p>・参加者は、授業参観時に気付いたことを付箋紙に記入しておく ブルー：授業のよさ イエロー：授業の改善点</p> <p>《地歴・公民科研究会次第》</p> <p>I はじめの言葉</p> <p>II 研究協議</p> <p>1 教科主任から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の趣旨と流れについて</li> </ul> <p>2 授業者から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいについて</li> <li>・授業後の感想について</li> </ul> <p>3 協議（ワークショップ型）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概念化シートによる課題の確認</li> <li>・ブレインストーミングによる協議</li> </ul> <p>4 課題の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを基に成果と課題の整理</li> <li>・授業者の振り返り</li> </ul> <p>III 連絡事項</p> <p>IV 終わりの言葉</p>	<p>・釜石南高等学校では、教務課が「公開授業」の計画を立て、学校全体で授業を参観し合う体制をつくっている</p> <p>・5月～3月の期間に、月3～4人の授業を公開する計画で進められている</p> <p>・普段の授業を互いに見合うことを前提に、指導案は配布していない</p> <p>・参観者は、「授業参観記入用紙」に所感を記入する 「参観記入用紙」記入の観点 ①授業者の話し方・板書②内容・教材の分かりやすさ③授業の開始・終了の挨拶④生徒の取組⑤その他気付いたこと</p> <p>（ここで示した研究会は、地歴・公民科が行った研究会である）</p> <p><b>協議の事前準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回初めてワークショップ型研究会に取り組むということで、協議前に参加者が書いた二色の付箋紙を概念化シートに貼り、KJ法の考え方で整理しておいてから協議に入った</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・あらかじめ整理しておいたワークシートの成果と課題を協議の視点として話し合った</p> <p>・グループ分けはせず部員等8名全員で協議を行った</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・授業者は、自分の指導の特性をプラス面とマイナス面の双方から振り返りコメントする</p> <p>・ここでの学びをこれ以降の実践に生かすようにする</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>《事前準備したワークシート（概念化シート）》</p> </div>
<p>《考察》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業全体を概観し成果と課題を明確にしていこうとしたとき、今回用いたワークシートの様式（横軸：「教師」「生徒」、縦軸：「プラス面」「マイナス面」の4象限で区切られた概念化シート）は有効なものの一つであると考えられる</li> <li>・今回は付箋紙の類型化等は参会者全員で行わず、協議の前に担当者が行っておいた。研究会が短時間しか確保できない場合や、話し合いの焦点化を図りたい場合等にこの方法は有効であると思われる</li> <li>・研究協力員や研究会参加者より「ワークショップ型研究会は手軽で有効な手法である」との感想を得ていることから、高等学校において授業研究を日常的に定着させる一つの方策として有効であると考えられる</li> </ul> <p>また、次のような感想も得ていることから、成果と課題を明確にしながらそれを積み重ね、教師の授業力量向上・授業改善を図るための有効な研究会の手法であると考えられる</p> <p>「付箋紙に簡潔に記載することで、プラス・マイナスいずれの感想も率直に表現することができる」</p> <p>「様々な視点からの意見・感想により、これまで行ってきた合評会ではタブー視されてきた部分にもふれられることで、授業者にとってきわめて貴重なものを得ることができる」</p>	

イ 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組の概要

【資料6】は、水沢小学校における「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組の事例である。

【資料6】「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組の概要（水沢小学校）

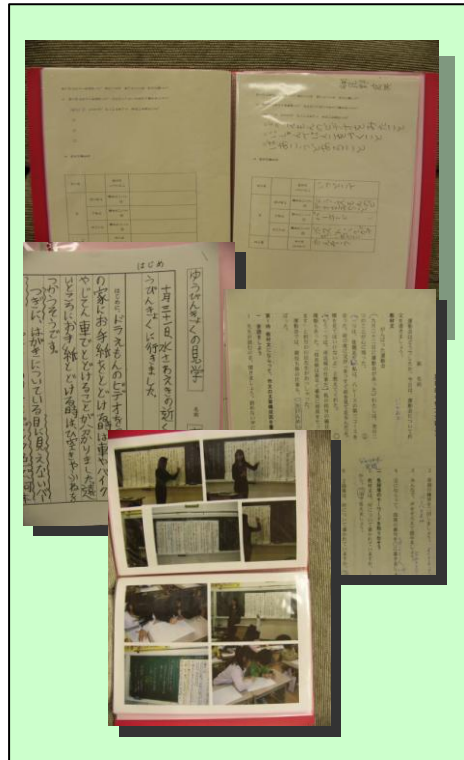
「授業力アップ・ポートフォリオ」の作成からシェアリングまでの流れ

≪「授業力アップ・ポートフォリオ」の作成≫

I 「自己課題解決シート」の作成

〔自己課題解決シート例〕 ※実物より転記

自己課題解決シート	
名前 ○○ ○○	
【自己の課題】	
① 意欲をもって作文を書くように、題材の提示を工夫すること。	
② 児童がモデル作文からよさを取り出せるように、モデル作文の提示の仕方を工夫する。	
【課題解決がなされたときの姿】	
① 自分の書きたいことを意欲的に表現できる。	
② モデル作文から見つけたよさを自分の作文に生かして書く。	
【具体的な解決策】	
① 意欲をもって書くことのできる作文題材を探し、検討する。	
② モデル作文の2題提示を検証する。	
③ 児童の作文を分析する。	
【簡単なスケジュール 11月～12月】	
月日	課題解決のための取り組み
11月上旬	・作文題材についての資料を集め、研究する。 ・指導の目的に合わせて、リライト教材を作る。
11月中旬	・児童の作文を分析する。
12月上旬	・振り返りをして、まとめる。



II 資料のファイリング

- ・時系列でどんどんファイリングしていく（資料に日付を入れる）
- ・ファイルの最後のポケットに、付箋紙やメモ用紙等を入れておき活用する

III ポートフォリオの再構築

- ・時系列でファイリングしたものを、観点に沿って整理する
- ・資料を振り返って感じたこと・考えたことを、文章や図等に表し新たな資料として綴じ込んでおく（リフレクション）

≪各自の取組のシェアリング≫

IV グループでシェアリングを行う

- ・グループの例：教科部会ごと、学年団、教職経験年数を考慮等



≪ファイリングの様子≫

V 個人ごとの成果と課題をまとめる

- ・個人ごとの成果と課題を、研究通信で紹介したり、互いのポートフォリオを自由に見ることができるよう保管方法を工夫したりすることで、全体で共有化する

《考察》

- ・目指すゴール像を明確にしたり、取組をより実効性のあるものにしたりするためには、「自己課題解決シート」への記載は、抽象的な書き方ではなく、子どもの姿や教師の活動を具体的に書くことが重要である
- ・資料はできるだけ一箇所に整理しておいた方が振り返りや活用がしやすいということから、ファイルに直接綴じ込むことができない資料については、写真等に撮ってファイリングしておくことよい
- ・シェアリングのグループが極少数（4人以下）の場合には、作成したポートフォリオを提示しながらでよいが、グループの人数が多い場合には、簡単なレポートを作成しそれを配布してシェアリングした方がよいと思われる
- ・取り組む課題により取組期間は教師ごとによって変わってくるので、シェアリング時には、途中経過のものや完結したもの等様々あってよい

### 3 アンケート調査の分析と考察

#### (1) 調査の目的と内容

本研究の基本的な考え方を取り入れた校内授業研究の進め方についての有効性と、ガイドブック（試案）についての改善の視点を明らかにするために、研究協力校の教員及び研究協力員へのアンケート調査を行った。

アンケート調査の内容と方法、処理・解釈の仕方等は【表3】に、アンケートの設問については【表4】に示すとおりである。

【表3】アンケート調査の内容と方法

調査内容	対象	調査方法	処理・解釈の仕方
1 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による研究推進の有効性	研究協力校の教員	評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問1）	記述内容から「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」の有効性及び改善の視点等について分析・考察する
2 「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の有効性		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問2）	
3 ワークショップ型研究会の有効性	研究協力員	評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問3）	
4 ガイドブックの有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問4・5）	
5 授業研究による変容の対象及びその内容		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問6）	

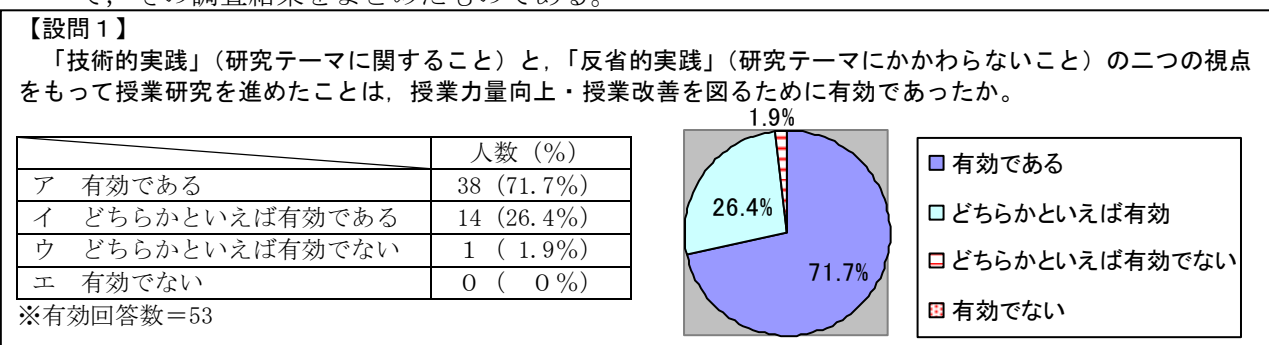
【表4】アンケート調査の設問内容

設問番号	設問内容
1	「技術的実践」（研究テーマに関すること）と、「反省的実践」（研究テーマにかかわらないこと）の二つの視点をもって授業研究を進めたことは、授業力量向上・授業改善を図るために有効であったか。
2	全教職員による校内研究テーマの追究とともに、個人で「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組を行ったことは、授業力量向上・授業改善を図るために有効であったか。
3	「ワークショップ型研究会」は、授業研究を推進する上で有効な研究会の方式であったか。
4	校内授業研究を推進する上で、「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」は、役立ったか。
5	「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」で、修正・改善を加えた方がよいと思うことは何か。
6	本年度の授業研究をとおして、自分自身や子ども、教職員集団などで変化が見られたことがあるか。

#### (2) 調査結果の分析と考察

ア 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による研究推進の有効性について

【図2】は、「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による研究推進の有効性について、その調査結果をまとめたものである。



【図2】「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による研究推進の有効性についての回答状況

二つの視点による研究推進の有効性について、プラス回答をしている教員は98.1%である。プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

- 授業を観る視点や研究会の視点が明確になる
- 研究テーマ以外の部分でも他の先生方の授業の技を学ぶことができた

- 授業の基礎となる学級づくり等を見ることも勉強になった
- 技術的実践と反省的実践が相互に関連づいてこそ、トータルな授業の力量が向上すると考える
- 反省的実践がなかなか共通化・共有化されないという現状を考えると、二つの視点があることが有効であった
- 授業力量向上のためには、研究テーマのみならず、教材解釈力、授業の技術力、教材に対する又授業に対する教師の意欲が多大に関ると考える
- 従来は研究テーマに関係することと関係しないことが、ごちゃごちゃになりがちだった

自由記述を見てみると、授業力量向上や授業改善を図るためには、「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点からのアプローチの必要性を認識していることが分かる。研究会における協議や日常の教育実践において、この二つの視点を意識して研究推進していくことにより、学校全体や個人の課題の明確化、計画的な研究推進、研究成果の検証等が有効になされると考える。

一方、課題として記述されているものは以下のとおりである。

- 境界領域の処理に問題を残す
- どれだけ深められたかということには、まだ課題が残る
- 反省的実践という語句はよくないと思う。もっとわかりやすいものを使った方がよいと思う
- 研究でそういう視点を意識することがなかった

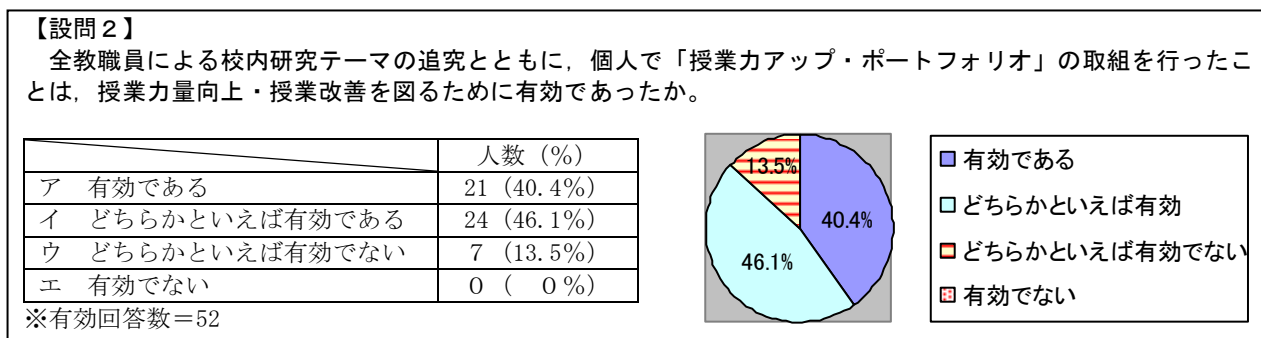
研究会で協議している際、「技術的実践」（自校の研究テーマにかかわること）と「反省的実践」（それ以外のこと）が入り混じってくるということは当然でてくる。この二つの視点は、あくまでも教師の授業力量向上と授業改善を図るといった目的達成のための視点であり、協議がそのようななってもかまわない。

研究会は時間が限られていることから、協議事項を焦点化するとともに、話し合いのゴールを設定することが重要である。協議したいことは、教師一人一人によって違って来るであろう。また、成果と課題を明確にすることをゴールとするのか、課題の改善策まで明確にすることをゴールとするのか、望むところも違って来るであろう。研究会では、その到達点を参加者が確認していなければならない。共通確認ができていないと、「深められなかった」という思いをもつ参加者がでてくる可能性がある。研究会では、取り上げることができなかった事項について、いつ、どのようなメンバーで、どのような方法をもって今後協議していくのかということについても確認しておく必要がある。

授業研究を推進していく際には、「技術的実践」や「反省的実践」の意味や、この二つの視点により授業研究を推進していくことのよさについて共通理解を図ることが必要である。

イ 「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の有効性について

【図3】は、「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の有効性について、その調査結果をまとめたものである。



【図3】「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の有効性についての回答状況

二つの側面による研究推進の有効性について、プラス回答をしている教員は86.5%である。プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

- 資料等をファイルに蓄積していくことで、自分の授業改善を図りやすくなったと思う
- ポイントを明確にして取り組むことで、自分の授業改善が図られる
- 自己課題を追究することで、授業に対しより真摯に臨むことができた
- 目標をもって毎日の授業に取り組むことが、授業を楽しいものにしていくと思うし、授業力アップにもつながると思う
- 研究や実践の記録は意識して行っていないと、せっかくの価値あるものも消えてなくなりがちである。ファイルにしておくことで改善点も見えるし、他職員他教科に広めることもできる
- 大局的・将来的に観たとき、これらの積み重ねこそが授業力向上・授業改善の糧になるのだと確信できる
- 研究会で学んだことや話し合ったことが、その都度途切れずに、次の日からの実践へとつながっていく

これまでの授業研究の課題の一つに、校内研究テーマに基づいた実証授業がその場限りで日常の教育活動に反映されない、ということがあった。研究会での学びを日常実践にいかす上で、「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組を行うことは有効な一手段となり得ると思われる。校内研究テーマ以外のことでも個人的に課題を抱えている教員もいることから、日々の実践において自覚的にそのことに取り組みシェアリングしていくことは、授業力量向上・授業改善には欠かせないことであるととらえる。

課題として記述されているものは以下のとおりである。

- 小サイクルでの計画・取組・反省が効果的であると思う
- 研究会としてシェアリングをする場の工夫が必要である
- 時間的に厳しく、取りためたものを見るという時間もなかなか取れないのではないかとも思う
- 普段から研究テーマに沿って学ぶことが多く、それ以上にというのは少し無理がある
- 蓄積したものの分析や活用という点においては全部を使いきれなかった
- うまく資料をファイルすることができなかった。活用も含めできなかった

「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組で提案していることは、校内研究テーマとは別の個人課題を必ず設定し、その解決に向けた取組を行っていく、ということではない。校内研究テーマの追究過程で、個人の課題も解決され、授業力量向上や授業改善が図られていくのであればそれでよい。

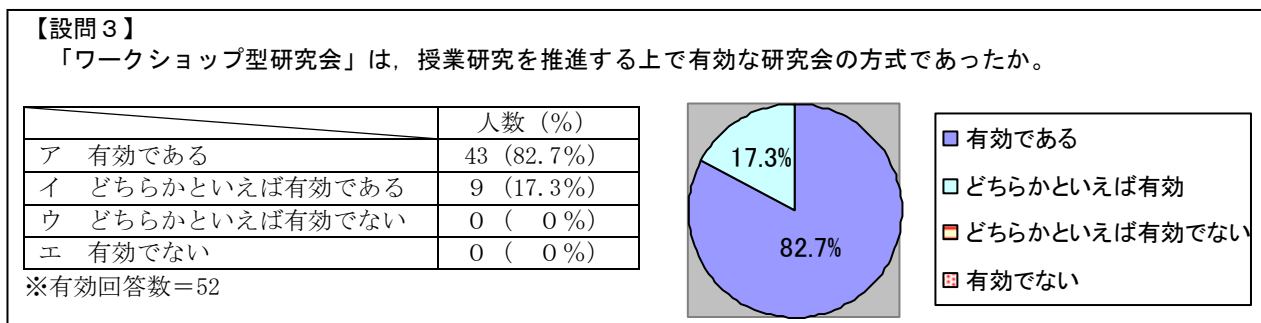
PDCA サイクルで授業力量向上や授業改善に取り組んでいく際、今自分がどのような状況にあるのかということ把握していなければならない。PDCA のC段階に当たることである。「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組をとおしてリフレクションし、次なる目標に向かい取り組む内容や方法を模索していくことはその段階に該当し、意味あることだと考える。ポートフォリオに蓄積される内容は、校内研究テーマにかかわることでもそれ以外のことでもよい。

研究会で同僚の授業から学んだことを自分のものにしようとしたとき、効果的なのは学んだ内容について自分の実践に取り入れて実際に行ってみることだと考える。自分で行って、うまくいくかどうかは分からない。教師一人一人にはそれぞれの特性や授業力量があるので、学びを自分のものにするためには、自分なりの試行錯誤・リフレクションが欠かせない。その過程が「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組である。

資料の蓄積・整理の仕方、シェアリングの仕方については、さまざまな方法があり、個人や学校の実態等に合わせながら工夫する必要がある。

ウ ワークショップ型研究会の有効性について

【図4】は、ワークショップ型研究会の有効性について、その調査結果をまとめたものである。



【図4】ワークショップ型研究会の有効性についての回答状況

ワークショップ型研究会の有効性については、全員がプラス回答をしている。プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

- 今までよりも、自分が発言する機会、他の先生の発言を聞くことが増え、考えがより深まった
- 授業を見る力がついてきた
- 従来の方法だと、発言が一部の人に偏り、授業の見方が狭いまま研究会を終えることが多々あった。ワークショップ型研究会だと、全員に発言の機会があり、そのため授業を広く見ることが出来る
- 成果と課題が明確になる（視覚的にも）
- 全体の場では聞きにくい小さな疑問もワークショップの中で納得したり理解したりすることができた
- これまで以上に自分の意見をしっかりもって研究会に臨もうという意識が高まった
- 短時間で共通理解が図られる
- 事前研でのワークショップ型研究会も大変有効で、一人一人が教材理解を深めるとともに、部員で共通理解して教材解釈をすることができた
- 自分の担当教科以外の研究会にも、積極的に話し合いに参加できた

これまでの研究会の課題の一つに、発言が社交辞令や感想に終始したり、発言者が一部に偏ったりするということがあった。ワークショップ型研究会では、参加者一人一人が自分の考えをもち寄り、小グループで協議することにより、主体的な研究会参加・活発な協議が可能になる。また、ワークシートの工夫等により、協議が焦点化され、成果と課題を明確にすることができる。これは、小・中学校、高等学校といった校種や、学校規模にかかわらないワークショップ型研究会のよさである。

課題として記述されているものは以下のとおりである。

- 授業者の思い・考えが届き難い
- 自分が疑問に思っていた点や聞きたい指導法などについては、思うように聞けない部分があるのではないか
- 話し合いが平板になっているような気もする
- 少数派の考えが取り入れられないことがある

これらの課題に対応するためには、次のようなことをワークショップ型研究会において留意するとよいと思われる。

- ・授業者はグループ協議の際、グループを渡り歩きながら適宜協議の中に入るようにする
- ・付箋紙をグループ化したり、付箋紙のグループ同士の関係を考えたりする際、結論を急がずに



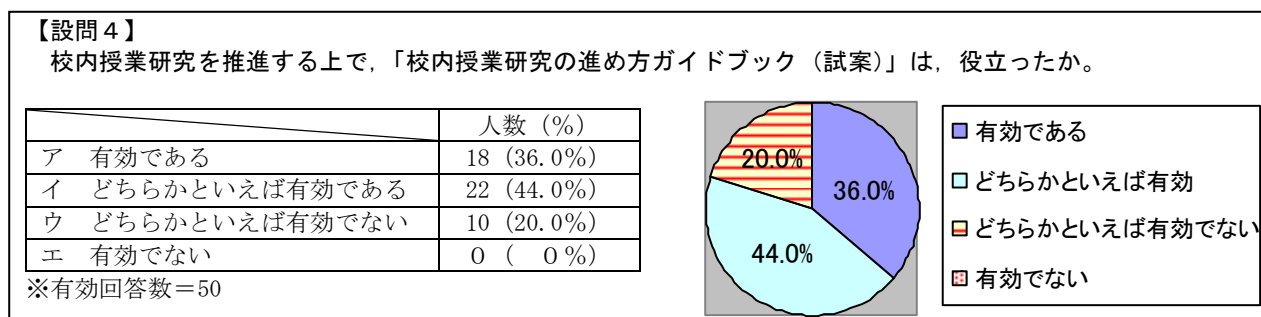
付箋紙の内容についての話し合いを重視するようにする

- ・ファシリテーターは「聞き役」「促し役」ということを自覚し、参加者の考えを吸い上げるようにする
- ・話し合いでは、結論を一つと決め付けず、複数の考え方がある場合にはそれらも位置付けるようにする

授業研究を充実させるためには、学校種や規模、研究会の目的、ワークショップ型研究会の経験数等により、グループの数や構成、ワークシートの様式、研究会にかける時間等を変化・工夫させながら、自校に合ったワークショップ型研究会の在り方を探っていく必要がある。

エ ガイドブックの有効性及び改善点について

【図5】は、ガイドブックの有効性について、その調査結果をまとめたものである。



#### 【図5】ガイドブックの有効性についての回答状況

ガイドブック（試案）の有効性について、プラス回答をしている教員は80.0%である。プラス回答の自由記述から主なものを挙げる。

- 必要なときに必要な観点や内容を活用できる資料である
- 細かい所まで書いている。ここから取捨選択するのであるから、さらに細かくてもよい
- シートの実物がある
- 研究を進める上で、基本的な流れを確認することができた
- 具体例が示されており、実践に結びつける手立てが分かりやすくまとめられていた
- 場面ごとのポイントがきちんと示されていて読み易い
- 授業研究では進め方など悩んでいたが、一つの方法・方向性を示していただき参考にさせていただいた
- 学校としての研究の進め方だけでなく、個人の授業力を上げる方法等について知ることができた

課題として記述されているものは以下のとおりである。

- 冊子に目を通す暇がなかった
- 「小学校用」「中学校用」「高校用」と段階別に内容に違いを持たせてはいかかがか
- 校内の実践と対応したときには役立つが、すべてが役立つとは言えない
- よく読んでいない
- 対象が、研究主任や部会リーダー用なのか、学級担任用なのか分かりづらい

また、設問5の「ガイドブックに修正・改善を加えたほうがよいと思うことは何か」という問いに対しては以下のような記述があった。

- ◆コンパクトにすると活用しやすい
- ◆「簡略版」「詳細版」のようにすればよい
- ◆何で困っているとき、どの項目を読めばいいのか書いてあるとよい

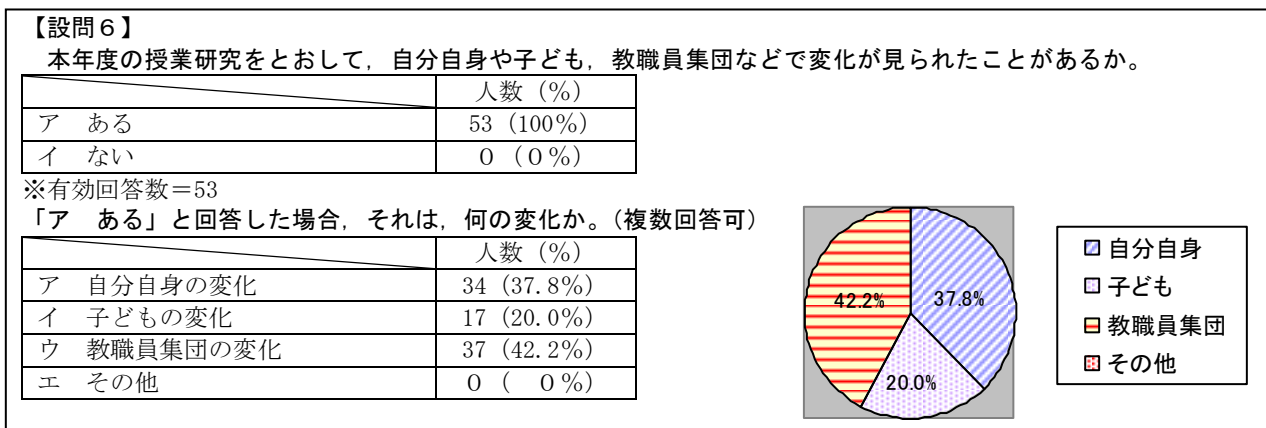
- ◆センターのホームページに、ワークショップ型研究会の様子が解説つきでビデオモジュールと言う形で紹介されているとよいのではないか
- ◆段階をおったステップがあってもよい(たとえば、ワークショップ型研究会初期段階の在り方、中期段階、後期など)
- ◆見やすさ(一目でポイントがわかる)がもう少し工夫されるとよい
- ◆授業場面をイメージした具体的な言葉が入るとよい

本研究において提示したガイドブック(試案)は、小・中学校及び高等学校のすべての教員を対象に、授業研究の進め方や1単位時間の授業づくりについてふれている。当然のことであるが内容は一例であり、取捨選択して活用してもらえばよい。しかし、活用面で課題が出されていることから、活用方法についてガイドブックの中に盛り込んでいく必要がある。

また、「技術的実践と反省的実践の二つの視点からの研究推進」「学校全体と教師個人の二つの側面からの研究推進」という本研究の主な提案や、そのための手段としての「ワークショップ型研究会」「授業力アップ・ポートフォリオの取組」等について、強調できるようにガイドブックを修正・改善していく必要がある。

#### オ 授業研究による変容の対象及びその内容について

【図6】は、授業研究による変容の対象及びその内容について、調査結果をまとめたものである。



【図6】 授業研究による変容の対象及びその内容についての回答状況

全員が本年度取り組んだ授業研究によりなんらかの変容が見られたと回答している。変容の対象で1番回答が多かったものが「教職員集団の変化」で回答数の42.2%を占めた。次が「自分自身の変化」で37.8%、そして「子どもの変化」の20.0%となった。

どのような変化があったのかということについて、具体的な記述の主なものをまとめたものが16頁【表5】である。

教師の授業力量向上・授業改善を図る上では、教師のモチベーションが根底になければならない。アンケート調査を見ると、研究協力校の教師や研究協力員全員が、自分自身や子ども、教職員集団のプラス変容を実感していることが分かる。このような変容の実感が、教師の授業力量向上・授業改善を図る上で欠かせないことである。今後は、このような主観的なとらえを裏付ける客観的データを取っていくことが必要である。具体的には、チェックリストを用いて、同僚同士や、保護者・児童生徒による授業評価を取り入れたり、学力調査の結果を分析・考察したりといったことが考えられよう。また、自校・個人の授業研究の在り方についても検証を加えていく必要がある。

【表5】授業研究による変容の対象と内容

変容の 対 象	具体的な変容の内容
自分自身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識を強くもち、研究授業に参加するようになった</li> <li>・研究会で考えを言いやすくなった</li> <li>・指導観が明確になった</li> <li>・同僚の考えを聞く機会が増えた</li> <li>・授業の組み立て方や授業の見方が深まった</li> <li>・授業研究に対して主体に取り組むようになった</li> <li>・以前の研究会には何となく緊張して参加するイメージがあったが、ワークショップ型研究会にはリラックスして参加しているように感じる</li> </ul>
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相互、教師と児童が学びを深め合って行く姿が現れてきた</li> <li>・研究会の手法を生かし、授業にワークショップを取り入れ、子どもの主体的な学びを促している</li> <li>・算数の授業の高め合いの部分に、新しい試み（学級内ワークショップ）を取り入れたことにより、子どもの発言力が伸びた</li> <li>・研究成果を生かし、発問や資料の精選をしたことにより、明らかに反応が違ふ。多様な見方・考え方のできる児童が増えた</li> <li>・学習意欲が向上した</li> <li>・安易に回答を探すのではなく、考えて発問に答える姿勢が見られるようになった</li> </ul>
教職員集団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベテラン中心の研究会だったのが、中堅・若手の活躍も目立つようになった</li> <li>・研究会の活性化が図られるとともに、成果と課題を共有化できるようになった</li> <li>・研究内容に深まりが見られるようになった</li> <li>・共通理解が進み、今後、研究内容の深まり、教師自身の変化、ひいては子どもに力をつけることにつながることを考える</li> <li>・コミュニケーションの機会が増えた</li> </ul>

#### 4 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成

##### (1) ガイドブック（試案）修正・改善の視点

アンケート調査の分析と考察、及び研究協力校や研究協力員の実践を受け、以下の点をガイドブック（試案）修正・改善の視点としておさえた。

ア 「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点による研究推進の面から

- ・「技術的实践」や「反省的实践」の意味について、より分かりやすく記述すること
- ・「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点から研究推進していくよさについて、より分かりやすく記述すること

イ 「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の面から

- ・「学校全体」と「教師個人」の二つの側面から研究推進していくよさについて、より分かりやすく記述すること
- ・「授業力アップ・ポートフォリオ」の具体例を示すこと
- ・「授業力アップ・ポートフォリオ」を持ち寄ったシェアリングの行い方を示すこと

ウ ワorkshop型研究会の行い方の面から

- ・以下の解説を付け加えること
  - 「研究会のゴールを参加者全員で共通理解する」
  - 「研究会で取り上げることでできなかった事項については、いつ・どのようなメンバーで・どのような方法等で協議していくのかを確認する」
- ・グループ協議を行なう上での留意点を示すこと

エ ガイドブックの構成の面から

- ・ガイドブックの活用の仕方を示すこと

## (2) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成

前記(1)のア～エの視点により、本研究第1年次で示したガイドブック（試案）を修正・改善したものが、「校内授業研究の進め方ガイドブック」（別冊資料参照）である。

## 5 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究のまとめ

ここでは、本研究で作成した「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」に示した手だてに基づいた実践、及び実践にかかわるアンケート調査の分析・考察から明らかになったことをまとめる。

### (1) ワークショップ型研究会の実践から

本研究で取り入れたワークショップ型研究会は、参加者一人一人が主体的に協議に参加し、「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点からそれぞれの成果と課題を明らかにすることをねらいとして行ったものである。そのために、使用する付箋紙の色やワークシートの様式等を工夫して実践を行った。

研究協力校・研究協力員による実践の考察、及びアンケート調査の分析・考察からその有効性が示唆されるが、具体的に明らかになったことを次の7点にまとめる。

- ①参加者一人一人が、自分は主体的に研究会に参加できたという意識をもてること
- ②多様な考えを出し合うことで授業の見方を広げることができること
- ③焦点化した協議にするためには、授業を参観する前に「授業を見る視点」などの資料を配布しておくことや、協議の中の「授業者から」で「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点から振り返りを述べ、協議の内容を参加者全員が共通理解しておくことが重要であること
- ④参加者が協議内容に充実感をもつためには、何についてどこまで協議するのかという研究会のゴール像を明確にしておく必要があること
- ⑤授業提供者も適宜グループ協議に入ること、授業提供者が抱えている課題の解決が図られるということ
- ⑥「感想カード」等を用いて、研究会での学びを明日以降の各自の実践にどういかしていくかということを確認することで、研究授業と日常実践が結び付いていくということ
- ⑦「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点から実践を積み重ねていくことにより、教師の授業力量向上・授業改善が図られていくということ

### (2) 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組から

本研究で取り入れた「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組とは、教師一人一人が日々の実践で取りためた資料等をポートフォリオし、それを基に自分でリフレクションしたり、同僚とシェアリングしたりすることにより、授業力量向上や授業改善を図ることをねらいとして行ったものである。

研究協力校による実践の考察、及びアンケート調査の分析・考察からその有効性が示唆されるが、具体的に明らかになったことを次の5点にまとめる。

- ①ポートフォリオを作成することで、自分のよさや課題を捉えることができ、自己把握につながる
- ②自己課題をもつことで、日々の実践の目的意識が強くなるということ
- ③研究会と日常の実践をつなぐものとしての意味をもつということ
- ④ポートフォリオのシェアリングにより、同僚から指導法や指導観、研修方法等の学びが促されるということ

⑤多忙観を抱いている教師が多いことから、ポートフォリオの整理やシェアリングの機会を学校として意図的に位置付けると有効であるということ

研究協力校・研究協力員による主な実践は、「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」の内容の一部であるワークショップ型研究会と「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組についてである。校内授業研究の推進にガイドブック（試案）を活用することによって、授業力量向上や授業改善が図られるという見通しをもつことができた。今後は他の内容についても、実践をとおして検討を加えていく必要がある。

## VI 研究のまとめ

本研究は、「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成と活用をとおして、教員が授業の評価・分析を協力しながら行う校内授業研究の進め方について明らかにし、授業改善に役立てようとしたものであった。

第1年次では、「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点、及び学校全体と教師個人の二つの側面による授業研究推進の必要性、校内授業研究において取り上げる内容等、授業改善を図るための校内授業研究の進め方についての基本的な考え方を明らかにした。そして基本的な考え方をもとに「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」を作成した。

第2年次では、研究協力校・研究協力員における「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」を活用した実践、及びアンケート調査の分析・考察を行い、基本的な考え方の有効性を検討するとともにガイドブック（試案）の修正・改善点を洗い出し、「校内授業研究の進め方ガイドブック」を作成した。

ここで2年間の研究の成果と課題についてまとめる。

### 1 研究の成果

#### (1) 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する基本的な考え方についての検討

先行研究や文献等を参考に、授業研究推進の視点、そしてその具体的な手立て等、授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する基本的な考え方についてまとめることができた。

#### (2) 「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」の作成

基本的な考え方をもとに、「校内授業研究の推進計画の立案」「授業構想の仕方」「校内授業研究会の進め方」「校内授業研究のまとめ方」「資料編」からなる「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」を作成することができた。

#### (3) 「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」を活用した実践とそれに関するアンケート調査の分析・考察

研究協力校・研究協力員の実践やアンケート調査の分析・考察から、本研究の基本的な考え方を盛り込んだ「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」の活用が、授業力量向上・授業改善を図るための校内授業研究を推進する上で有効であるという見通しをもつことができた。また、ガイドブック（試案）の修正・改善点を洗い出すことができた。

#### (4) 「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成

以下の四つの視点からガイドブック（試案）を修正・改善し、「校内授業研究の進め方ガイドブック」を作成することができた。

①「技術的实践」と「反省的实践」の二つの視点による研究推進の面から

②「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の面から

③ワークショップ型研究会の行い方の面から

④ガイドブックの構成の面から

(5) 授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関するまとめ

ガイドブック（試案）に示した手だてに基づいた研究協力校・研究協力員における実践，及びアンケート調査の分析・考察から，明らかになったことをまとめ，校内授業研究の推進にガイドブック（試案）を活用することによって授業力量向上や授業改善が図られるという見通しをもつことができた。

## 2 今後の課題

本研究においては，ガイドブック（試案）の内容の一部の実践にとどまっていることから，今後，他の内容についても実践をとおして有効性を検討していかなければならない。また，授業力量向上・授業改善を図るためには，教師一人一人のモチベーションが重要な意味をもってくると思われることから，授業力量向上・授業改善を図るための方策とモチベーションとのかかわりについて探っていく必要がある。

### <おわりに>

この研究を進めるに当たり，ご協力いただいた研究協力校の校長先生をはじめとする諸先生方に心からお礼を申し上げます。また，研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

#### 【引用文献】

稲垣忠彦・佐藤学（1996），『子どもと教育 授業研究入門』，岩波書店，p.86，p.116

#### 【参考文献】

伊藤功一（1990），『教師が変わる 授業が変わる 校内研修』，国土社

岩崎奈緒美（2004），『授業改善につながる授業研究をー「教師による授業評価」に焦点を当ててー』，滋賀県総合教育センター

岩手県教育委員会（2006），『授業力ブラッシュアッププラン授業改善シート』

岡山県教育センター（2006），『教育活動の改善に役立つ校内研究の手法に関する一提案』

尾木和英編著（1999），『新版 校内授業研究事典』，ぎょうせい

神奈川県立総合教育センター（2005），『校内研修ハンドブック』

村川雅弘編著（2005），『授業にいかす教師がいきる ワークショップ型研修のすすめ』，ぎょうせい

木原俊行（2004），『授業研究と教師の成長』，日本文教出版

佐藤学（2006），『学校の挑戦 学びの共同体を創る』，小学館

千々布敏弥（2005），『教師の暗黙知の獲得戦略に関する考察』，国立教育政策研究所紀要

千々布敏弥（2005），『日本の教師再生戦略』，教育出版

東京都教育委員会（2004），『東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会報告書』

ドナルド・ショーン／佐藤学・秋田喜代美訳（2001），『専門家の智慧 反省的实践家は行為しながら考える』，ゆるみ出版

橋本吉彦・坪田耕三・池田敏和（2003），『Lesson Study 今，なぜ授業研究科かー算数授業の再構築ー』，東洋館出版社

広島県教育委員会（2002），『授業改善のための校内研修ハンドブック』

マイケル・ポランニー／佐藤敬三訳（1980），『暗黙知の次元』，紀伊国屋書店

横浜市教育センター（2005），『授業力向上の鍵～横浜の新たな授業研究～』

吉崎静夫（1997），『デザイナーとしての教師 アクターとしての教師』，金子書房

授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究  
－「校内授業研究の進め方ガイドブック」の作成と活用をとおして－

# 校内授業研究の進め方 ガイドブック

－ 平成 19 年度版 －



岩手県立総合教育センター

## 本ガイドブックの構成（目次）

はじめに	1
本ガイドブック活用にあたって	2
本ガイドブックの活用例	3
校内授業研究推進のポイント	4
校内授業研究推進の仕方（中期サイクルモデル）	6
<b>I 校内授業研究の 推進計画の立案</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◇P D C Aサイクルによる研究推進計画 7</li><li>◇力量向上・授業改善を図るための自己課題の設定 8</li><li>◇研究推進日程 10</li><li>◇機能的な組織づくり 11</li><li>◇機能的な組織づくり（少人数グループのよさを生かす） 12</li><li>◇校内授業研究推進上の研究主任の役割 13</li><li>◇校外研修への参加 16</li></ul>
<b>II 授業構想の仕方</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◇授業構想の大まかな流れ 17</li><li>◇教材研究の仕方 18</li><li>◇児童生徒理解の仕方 20</li><li>◇学習指導案の作成について 22</li><li>◇指導法について（発問） 24</li><li>◇指導法について（板書） 26</li><li>◇指導法について（ノート指導） 27</li><li>◇指導法について（机間指導） 28</li></ul>
<b>III 校内授業研究会の 進め方</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◇事前検討会の行い方 29</li><li>◇ビデオを活用した研究会 30</li><li>◇ワークショップ型研究会 31</li><li>◇普段の授業を公開して行うミニ研究会 41</li><li>◇授業者及び参加者の留意点 42</li></ul>
<b>IV 校内授業研究の まとめ方</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◇研究紀要の作成 43</li><li>◇個人の教育実践のまとめ方 「授業力アップ・ポートフォリオ」 45</li></ul>
<b>V 資料編</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>◇授業参観チェックシート 46</li><li>◇児童生徒による授業の評価 47</li><li>◇研究の評価チェックシート 48</li><li>◇自己課題解決シート 49</li><li>◇概念化シート 51</li><li>◇ブレインストーミング 52</li><li>◇K J法 52</li><li>◇ガイドブックを活用した実践にかかわる意識調査結果 53</li></ul>



## はじめに

本県教育の最重要課題である「学力向上」のためには、日々の授業が児童生徒にとって「わかる授業」となるよう、教師が力量を磨き授業改善に努めることが何よりも大切であることは言うまでもありません。

そのためには、研修・研究の充実が必要です。特に各校で校内研修として取り組む授業研究は、児童生徒の実態に即して、日常的・継続的に授業改善に取り組む上で大変有効なものです。

しかし、近年、授業研究会が感想の交流に終始したり、研究テーマに基づいた実証授業がその場限りで日常の教育活動に反映されなかったりして、授業改善につながらないなど、校内授業研究が十分に機能しなくなっている状況が見受けられます。

このような状況を改善するために、岩手県立総合教育センターでは、平成18・19年度の2年次研究として「授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究」を立ち上げ、本ガイドブックを作成しました。本ガイドブックには、成果と課題が明確になる授業研究会の進め方、授業研究会の成果を日常の教育活動へつなげる取組、授業を行う際の留意点等のヒントを掲載しています。学校や個人の実態に応じて必要な箇所を活用していただければと思います。

ガイドブックは、校内授業研究の要素を勘案し、下表に示すように五つの章から構成されています。

### 〔本ガイドブックの基本構成〕

- I 校内授業研究の推進計画の立案
- II 授業構想の仕方
- III 校内授業研究会の進め方
- IV 校内授業研究のまとめ方
- V 資料編

このガイドブックは、小・中学校、高等学校の実践によりその有効性の検討を経て作成したものです。

学校や個人の実態に応じて必要な箇所を活用してください。



## 本ガイドブック活用にあたって

◆校内授業研究の進め方に関する基本的な考え方は、4・5ページ「校内授業研究推進のポイント」それらのことを図示したものが6ページ「校内授業研究推進の仕方」に示してあります。

◆下の表の「主な活用の場面の例」を参考に、各章を活用してください。

ガイドブックの章構成	主な活用の場面の例
I 校内授業研究の推進計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で年間の研究推進計画を立てる際</li> <li>・校内の研究組織づくりを行う際</li> <li>・校内やグループ、個人の課題設定、及びその改善計画を立てる際</li> </ul>
II 授業構想の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を行う際</li> <li>・日常の自分の授業を振り返る際</li> </ul>
III 校内授業研究会の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前検討会を行う際</li> <li>・ワークショップ型研究を行う際</li> <li>・日常の授業を公開し合って研究会を行う際</li> </ul>
IV 校内授業研究のまとめ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要を作成する際</li> <li>・個人の実践をまとめる際（「授業力アップポートフォリオ」の取組を行う際）</li> </ul>
V 資料編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観チェックシートを作成・活用する際</li> <li>・研究の評価チェックシートを作成・活用する際</li> <li>・自己課題解決シートを作成・活用する際</li> </ul>

◆記載内容に関連するページは、「(cf. ○○ページ)」と記しています。

◆本ガイドブックでは、小学校の例が多く示してありますが、小学校から高等学校まですべての学校で活用できます。

◆本ガイドブック作成の基になっている考え方については、岩手県立総合教育センターのWebページに資料が載っていますので、以下のURLを参照してください。

([http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryou/h19/h19\\_19a1.pdf](http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryou/h19/h19_19a1.pdf))

本ガイドブックの内容に関する問い合わせ先は、

**【岩手県立総合教育センター 教科領域教育室】**

TEL 0198(27)2735 e-mail [kyouka-r@center.iwate-ed.jp](mailto:kyouka-r@center.iwate-ed.jp)

までお願いします。

また、当センターでは、随時研修（研修者がセンターに来所して研修する）や要請研修（センター担当者が学校等に訪問して研修を行う）を行っていますのでご活用ください。



## 本ガイドブックの活用例

ここでは、「授業研究会を充実させたい場合」と「教師一人一人の授業力量を向上させたい場合」の二つの場合のガイドブック活用例を示します。

### 授業研究会を充実させたい！

自校の研究会に以下のような実態が見られる場合

- ・ 発言者が限られている
- ・ 話し合いが低調である
- ・ 成果と課題が明確にならない
- ・ 研究の積み重ねができない 等

### 授業研究推進の基本的な考え方をつかむ

- ・ 4～6ページの「校内授業研究推進のポイント」を読み、基本的な考え方を理解します

### ワークショップ型研究会を導入する

#### ワークショップ型研究会のやり方を理解する

- ・ 4～6ページの「ワークショップ型研究会」を読み、ワークショップ型研究会の考え方ややり方を理解します

#### 校内でワークショップ型研究会をやってみる

- ・ 2・3回行ってみるとやり方に慣れます

#### 校内でワークショップ型研究会をやってみる

- ・ 必要に応じて教育センターの「随時研修」や「要請研修」を活用し、支援を受けます

#### 自校に合ったワークショップ型研究会の方法を工夫する

- ・ 時間配分やグループ構成、ワークシートの様式等を自校に合ったものに変えていくようにします

授業研究会の充実

### 教師の授業力量を向上させたい！

以下のような実態が見られる場合

- ・ 自校の研究テーマ以外のことで自己課題がある
- ・ 授業の基本的なことを身に付けたい
- ・ 自分の力量について把握したい 等

### 授業研究推進の基本的な考え方をつかむ

- ・ 4～6ページの「校内授業研究推進のポイント」を読み、基本的な考え方を理解します

### 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組を行う

#### 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取り組み方を理解する

- ・ 37～40ページの「個人の教育実践のまとめ方『授業力アップ・ポートフォリオ』」を読み、基本的な考え方や取り組み方を理解します

#### 「授業力アップ・ポートフォリオ」に取り組む

- ①「自己課題解決シート」で自己課題の設定、改善に向けたスケジュールを立てます
  - ②必要に応じて「第Ⅱ章授業構想の仕方」を参照しながら日常実践を行います
  - ③取組に関する資料をファイルに綴じ込み、ポートフォリオを作成します
  - ④ある程度ファイルに資料を綴じ込んだら、ファイルの整理をします（ポートフォリオの再構築）
  - ⑤同僚とシェアリングし、自分のよさや課題を把握したり、学び合ったりします
- ※①～⑤を繰り返します  
※「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組は、校内の研究推進計画の中に位置付けられていると効果的に行うことができます

教師の授業力量向上

## 校内授業研究推進のポイント

本ガイドブックにおいて提案する校内授業研究推進のポイントは、以下の2点です。

### Point-1 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点からの研究推進

「技術的実践」を志向する研究とは、どの教室にも通用する一般的な技術原理を探求する研究です。多くの学校で行っている「仮説検証型」の研究がこれに該当すると言えます。「〇〇において、△△のような手だてを講ずれば、□□のようになるであろう」というような、どの教室でも通用する原理原則を探求する研究です。

ところが、このような研究だけでは十分とは言えないということが指摘されています。例を挙げます。一つの授業について、二人の教師が共同で教材研究を行い、学級の雰囲気の良い二つのクラスで、同じ指導案・同じ資料を用い、同じ発問で授業を行ったとしても、二人の授業は全く異なったものになってしまうことが、実際には起こります。授業場面における子どもの見取りや子どもへの接し方等の違いにより結果が変わってくるという状況がでてきます。

そこで、「なぜあの場面であの子どもに指名したのか」「なぜあの場面で時間を取って子どもたちに考えさせたのか」「なぜあの子どもはあのような発言・行動をとったのか」等、実際に教室で起きた出来事に目を向け、教師や子どもの活動・経験の意味等を探っていく必要が生じてきます。これが「反省的実践」を志向する研究です。

学校の授業研究では、「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点をもちながら研究推進していく必要があると言えます。

研究会の協議の話題は、研究仮説や手だてについてがほとんどです。それは、授業に関する一般化された原理を探求することに該当します（技術的実践）。それと同時に、ある特定の条件（〇〇学級だから、△△先生だからという固有の条件）のもとに生じた出来事についても協議し、そこに教育的な意義を見出していかなければなりません（反省的実践）。研究会では、「校内の研究テーマに関すること」（技術的実践）と、「それ以外のこと」（反省的実践）についても協議していくことが大切です。

研究推進する際には、  
「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点  
をもつことが大切です。

具体的には、研究会の際に、  
「研究テーマに関すること」と「それ以外のこと」の二つの視点  
から協議をしていくことがポイントになります。



## Point-2

### 「学校全体」と「教師個人」の二つの側面からの研究推進

校内研究テーマの探求については、校内研究推進計画に計画的に位置付けられ、研究紀要・研究集録等をもってまとめられます。しかし、教師一人一人の授業力量がどのように向上したのか、授業改善がどのようになされたのかといったことについては、ほとんどふれられず個人任せになっています。

校内研究テーマの探求と並行して教師一人一人の自己課題が解決されていくことが理想ですが、教師の中には、校内研究テーマとは別の課題を抱えている場合もあります。

教師一人一人も各自の自己課題を設定し、日常の教育活動をとおしてその解決を図り、成果と課題をまとめていく必要があります。教師個人の研究推進についても、校内研究推進計画の中に、位置付けられていくことが重要です。

本ガイドブックでは、教師が自己課題をもち、実践をとおしながら授業力量の向上・授業改善を図ることのできる取組として、「授業力アップ・ポートフォリオ」(cf. 9, 45 ページ)の作成を提案しています。

研究推進するには、

#### 「学校全体」と「教師個人」の二つの側面

からのアプローチが必要です。教師個人の研究推進についても、校内研究推進計画の中に位置付けられることが重要です。

教師個人の取組として、

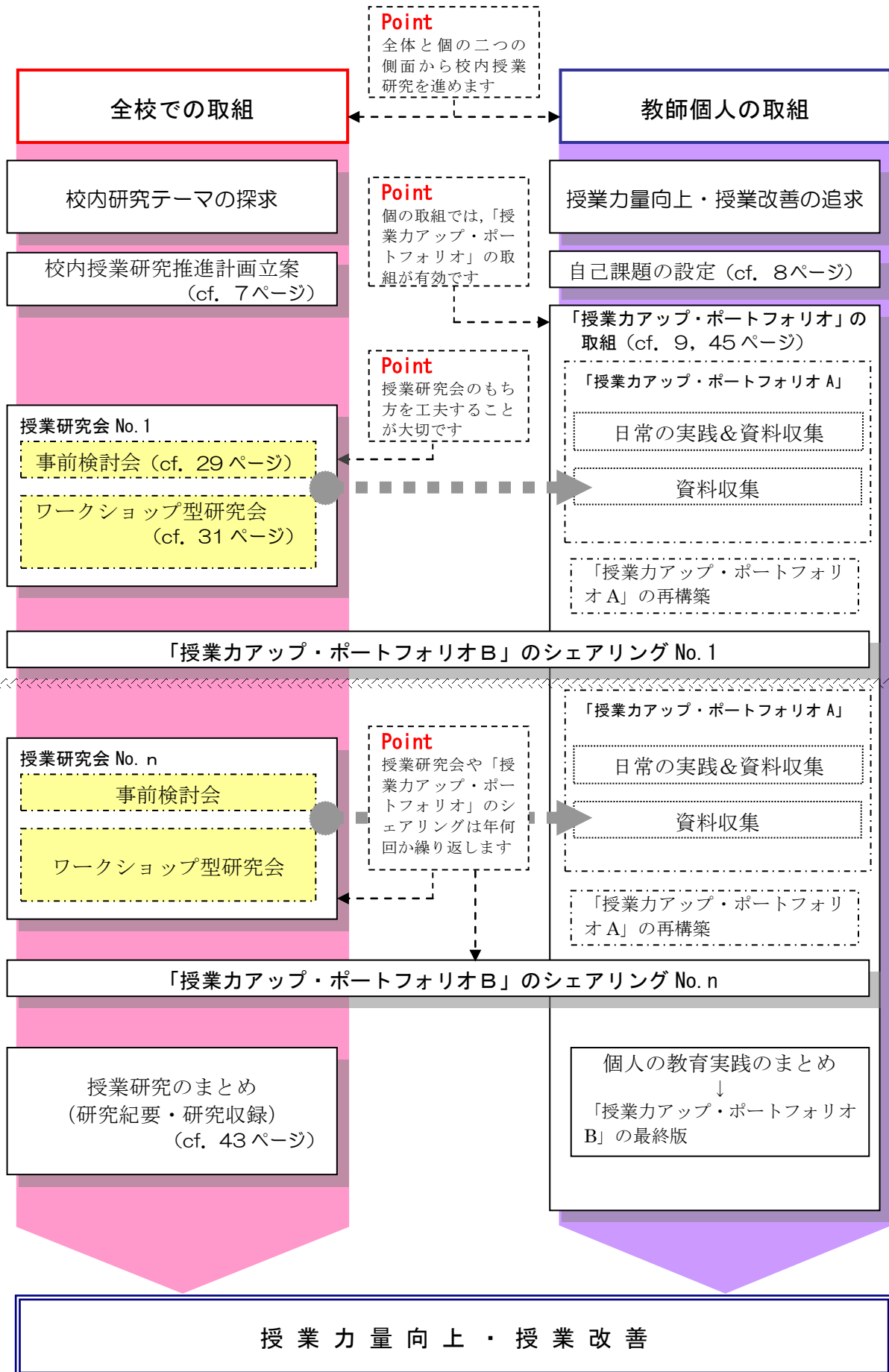
#### 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組

が有効です。



※前述した Point-1 Point-2 の内容を、年間の校内研究推進計画に当てはめ図示したものが、6ページの「校内授業研究推進の仕方（中期サイクルモデル）」です。

# 校内授業研究推進の仕方（中期サイクルモデル）



# 第 I 章

## 校内授業研究推進計画の立案

「校内研究の充実」と「一人一人の教師の力量向上」という二つの視点をもって、推進計画を立てましょう！

- PDCAサイクルによる研究推進計画
- 力量向上・授業改善を図るために自己課題の設定
- 研究推進日程の立て方
- 機能的な組織づくり
- 研究主任の役割
- 校外研修への参加

## PDCA サイクル（1年間を単位）による研究推進計画

### Point

- PDCA サイクルを意識する。
- 学校全体と教師個人という、全体と個の二つの視点をもつ。
- 共有化を図る。

### 【A】 1 問題点の洗い出しをしましょう

「問題」とは、「目指す姿」と現状とのギャップです。  
 研究内容や個の授業力量，研究推進について，洗い出してみましょう。  
 (cf. 51 ページ「概念化シート」)

### 【P】 2 課題を明らかにしましょう

問題点の要因を分析し，課題を明らかにしましょう。  
 上記のギャップをいかにすれば埋められるかの答えが「課題」です。KJ 法 (cf. 52 ページ) を活用し，課題の導き出し，共有化を図ることができます。

### 3 課題解決のための見通しをもちましょう

- ① 研究推進体制（組織）の計画を立てましょう。(cf. 11 ページ「機能的な組織づくり」)  
 ・全体，グループ，個人
- ② 研究推進日程の計画を立てましょう。(cf. 10 ページ「研究推進日程」)  
 ・校内研究主題にかかわっての見通し  
 ・教師個人の力量形成にかかわっての見通し
- ③ 授業研究の行い方を考えましょう。(cf. 31 ページ「ワークショップ型研究会」)  
 ・指導案の形式  
 ・授業研究会の方法の選定  
 ・授業研究会で取り上げる内容

### 【D】 4 課題解決策を実行に移しましょう

- ① 提案授業の実施
  - ② 研究会の実施
  - ③ 日常の授業実践
  - ④ 校内研修会の実施
  - ⑤ 校外研修会への参加
- ※ 状況に合わせて，推進日程の修正・改善を加えながら進めましょう。

### 【C】 5 解決策の評価・分析をしましょう

成果と課題を明確にしましょう。  
 ・評価・分析の視点の明確化

### 【A】 6 解決策の改善を図りましょう

改善策を導き出し，共有化を図りましょう。



## 力量向上・授業改善を図るための自己課題の設定

### Point

- 自校の研究内容にかかわることと、それ以外のことについて、自己の課題を明らかにする。
- 自己課題解決のための具体的な計画を立てる。
- シェアリングをしながら進める。

### 1 これまでの教育実践を振り返り、成果や問題点等を洗い出しましょう

振り返りの視点は、「授業力」の要素や、自校の研究主題のキーワード等を基にするとよいでしょう。

#### 《「授業力」の要素例》

1 教育に対する姿勢
2 授業構想
3 学習集団マネジメント
4 指導法

#### 《研究主題のキーワード例》

1 学び合いの組織化
2 ノート指導
3 発問の吟味
4 資料提示の工夫

振り返りのツールには、「概念化シート」(cf. 51 ページ) や「授業参観チェックシート」(cf. 46 ページ) 等があります。



### 2 問題点を整理し、自己の課題を明らかにしましょう

- 自校の研究内容にかかわることを主眼におきながらも、それ以外の課題についても取り上げるようにするとよいでしょう。

### 3 自己の課題を解決するための計画を立てましょう

自己課題解決シートを活用し、具体的な計画を立てましょう。(cf. 49 ページ「自己課題解決シート」)

自己課題解決シート	
《自己の課題》	
《課題解決がなされたときの姿》	
《具体的な課題解決策》	
《スケジュール》	
月	課題解決のための取組

「自己課題解決シート」や「授業力アップ・ポートフォリオ」は、シェアリングし、考えをふかめることが大切です。

具体的には、「自己課題解決シート」を記入したときに1回、「授業力アップ・ポートフォリオ」について研究会等で数回行うのが望ましいです。



### 4 取組を「授業力アップ・ポートフォリオ」に蓄積しましょう

自己の課題を解決するために取り組んだなかで出てきた資料(指導案や実践記録、教材、レポート等)を「授業力アップ・ポートフォリオ」(cf. 9, 45 ページ)に蓄積・整理しましょう。そうすることで、自己の成長や新たな課題が見えてくるはずですよ。

「授業力アップ・ポートフォリオ」の作り方（「自己課題解決シート」を活用して作成する例）

準備

《「自己課題解決シート」(cf. 49 ページ)を活用し、以下のことを確認する》

- ◆ 自己課題
- ◆ 課題解決がなされた姿
- ◆ 具体的な課題解決策
- ◆ スケジュール

《クリアーファイルを用意する》



- 【ファイルの条件】
- ◇ 丈夫なもの
  - ◇ 中身の見やすいもの
  - ◇ A4サイズのもの
  - ◇ ポケットの多いもの  
(50 ポケットくらい欲しい)
- ※パソコンで作成してもよい

「自己課題解決シート」に基づいた実践

ポートフォリオA

《ファイルに資料を綴じ込む》

【綴じ込むものの例】

- 「自己課題解決シート」
- 指導案                       学習プリント                       研究会記録
- 教材研究メモ               研究授業の写真               研究レポート
- インターネット情報のプリントアウト資料
- 参考文献のコピー資料               児童生徒の作文
- メモ（思考途中のこと、やるべきこと等）
- 研修会資料               実践についての所感              etc.

【留意点】

- 時系列で、どんどん綴じ込む
- 資料には、出典、日付等を入れておく
- ファイルの最後のポケットに、付箋紙やメモ用紙等を入れておき活用する

※ ここでは、情報を綴じ込むということのみを目的としてポートフォリオを作成します。このポートフォリオを「授業力アップ・ポートフォリオA」と名付けることとします。

ポートフォリオB

《ポートフォリオを再構築する》

自己の授業力量の向上を意識して、「授業力アップ・ポートフォリオA」の中の資料を整理し、「授業力アップ・ポートフォリオB」をつくります。（ポートフォリオの再構築）

再構築する活動をとおして、リフレクション（省察）したことを、文章や図に表し新たな資料として綴じ込んでおくとよいでしょう。

「授業力アップ・ポートフォリオB」には、整理した項目ごとにラベルをつけるなどするとよいでしょう。自分のよさや向上したことを確認できることでしょう。

《ポートフォリオB作成例》

【教科別・指導法別でファイルを複数用意し、整理する例】

☆ファイル1（国語「書くこと」に関する資料）

- ① 「書くこと」に関する学習プリント ② 児童の作文 ③ 指導案 ④ 関係参考文献コピー 等

☆ファイル2（図工）

- ① 評価の考え方に関する資料 ② 児童作品の写真 ③ 指導案 ④ 他校学校公開紀要 ⑤ 実技研修会資料 等

【「授業力」の視点から整理する例】

同一ファイル内に、次の視点から資料を整理する。（視点ごとにラベルを付ける）

視 点	具 体 的 な 内 容
○教育に対する姿勢	使命感 熱意 教育観 等
○授業構想	教材解釈 教材・教具開発 授業計画 評価計画 環境構成 等
○学習集団マネジメント	児童・生徒理解 統率力 人間関係構築力 学習意欲の喚起 等
○指導法	授業実施に関する技術（発問 板書 学習形態 発言への対応等） 指導と評価の一体化 環境構成 等

シェアリング

《「授業力アップ・ポートフォリオB」を他の教職員とシェアリングする》

教職員全員や研究グループ内で、互いの「授業力アップ・ポートフォリオB」を紹介し合い、自他のよさを確認したり、学び合ったり、意見を述べ合ったりします。（少人数グループでのシェアリングが効果的です）

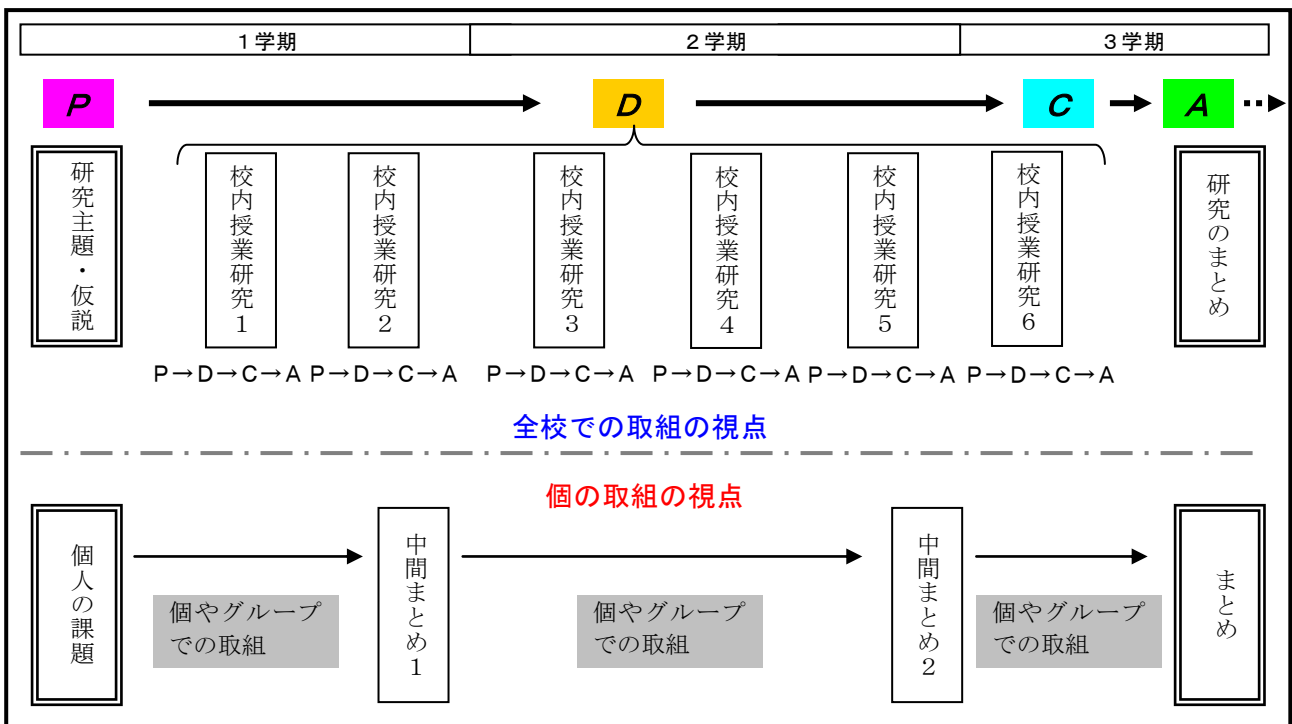
## 研究推進日程

**Point**

- PDCA サイクルを意識する。
- 学校全体と教師個人という、全体と個の二つの視点をもつ。
- 共有化を図る。

下図において、校内での授業研究を中心とした研究推進は上段になります。下段は、個の視点を付け加えたものです。

【校内授業研究推進計画】



推進日程表にまとめると下表のようになります。

期日	研究会	内容	備考
○月△日	全体研究会	研究主題，研究仮説，研究推進体制，研究推進日程等を全体確認	
○月△日	グループ研究会 個人課題の設定	個人課題について，グループでシェアリング	
○月△日	授業研究 1 授業提供：□学年○○教諭	目指す授業像の明確化	
○月△日	授業研究 2 授業提供：□学年○○教諭	目指す授業像の明確化	▲▲指導主事招聘
○月△日	グループ研究会 個人課題の中間まとめ1	個人の取組の成果と課題をシェアリング	
○月△日	授業研究 3 授業提供：□学年○○教諭 授業提供：△学年□□教諭	効果的な指導法の確立 (授業研究 1・2の改善点を受けて)	▲▲指導主事招聘
○月△日	授業研究 6 授業提供：□学年○○教諭	研究成果として検証	
○月△日	全体研究会	研究のまとめ 研究紀要へのまとめ方について 研究紀要執筆役割分担	

## 機能的な組織づくり

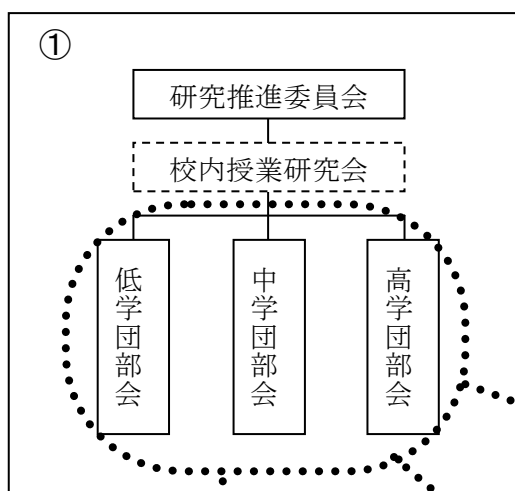
### Point

- 全職員が集まることができないとしても研修・研究ができ、内容が充実する組織づくりをする。
- 一人一人が考えを出し合い、話し合いが活発になるグループづくりをする。
- 気軽に研修・研究できる組織づくりをする。

多くの小・中学校では、校内授業研究を推進する際、中核となるのは研究推進委員会(\*1)だと思います。学校規模や研究領域・内容等によって、組織編制は違ってきますが、上記の Point を視点に考えるとよいでしょう。

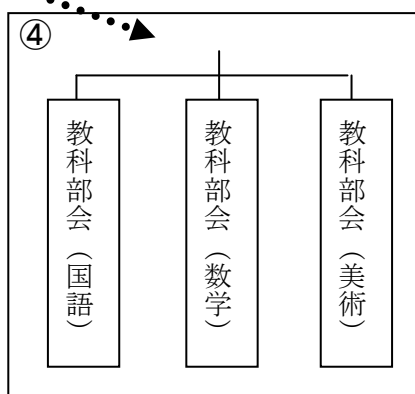
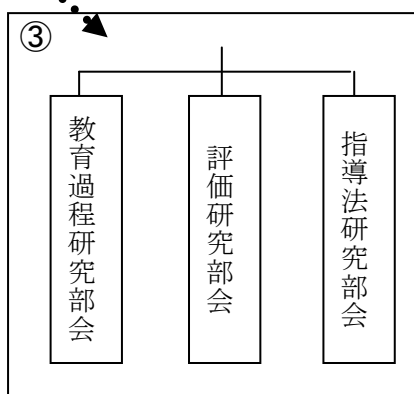
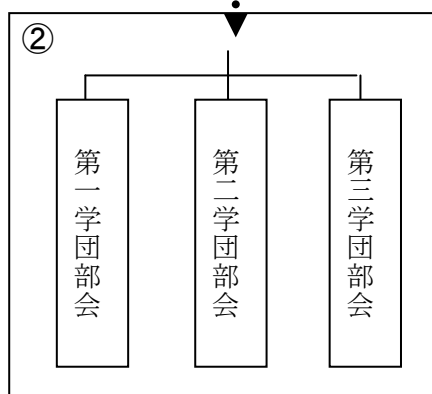
以下は主な例です。

(\*1：学校によっては、教務部や研究部、研究主任がそれに当たる)



・①は、小学校において、校内の統一研究主題のもと（たとえば道徳）、研究推進していく際の組織例です。道徳の場合だと、学級担任が中心となりがちですが、担任外の教師を低・中・高学団に配属したり、資料研究部会などを設定したりする方法もあります。

・点線で囲んだ低・中・高学団の部分をも、変形した例が②～④です。



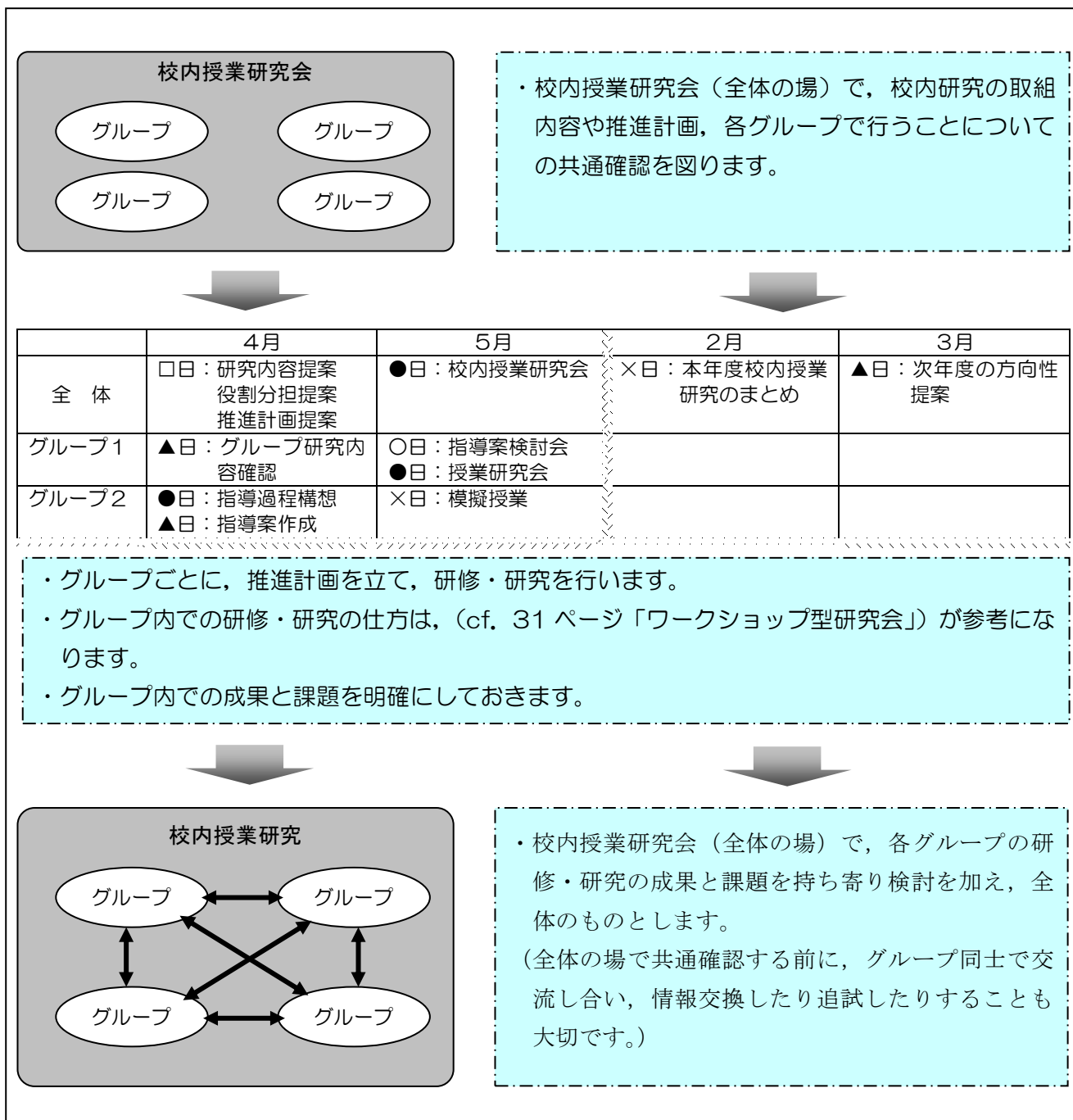
・②は、①の中学校バージョンです。

・③は、校内の統一研究主題のもと、三つの研究内容で部会を設定したものです。それぞれの部会には、各学年や各教科の教師が参加するようにします。

・④は、研究主題の対象が教科でしばられない場合（ex.「各教科等における資料提示の工夫」）の例です。中学校に多いと思いますが、小学校での実践例もあります。

※高等学校では、小・中学校に比べると校内授業研究会の回数が少ないと言えます。教科を越え、共通の視点を設定して、授業研究会を行うグループづくりから始めてはどうでしょうか。

機能的な組織づくり（少人数グループのよさを生かす）



少人数グループだと、集まりやすく、考えも言いやすくなるというメリットがあります。グループ内の成果と課題を、全職員で共通理解する場が必要です。

小規模校でグループ編成ができない場合や、個人で課題を抱えているような場合もあると思います。

そのような場合、個人の「授業力アップ・ポートフォリオ」(cf. 9, 45 ページ)をもとに、気軽に2人3人で研修・研究について語り合う方法があります。そのような機会を設定することや、気軽に語り合える雰囲気づくりをすることが大切になってきます。



## 校内授業研究推進上の研究主任の役割

### Point

- 研究推進計画の立案・実施・まとめ
- 研究推進に係る連絡調整

### 研究主任の役割

研究主任の役割として次のようなことが考えられます。これらのことを、学校長や教頭、教務主任、研究推進委員会等と協議・役割分担しながら行うことが大切です。

#### ◆研究推進計画の立案・実施・まとめ

##### ① 研究主題（原案）の設定

国・県・市町村の施策，各種調査，前年度までの研究の成果と課題，教職員の意向，地域や保護者の願い，先行研究等を勘案しながら，学校長や教頭，教務主任等と協議して，研究主題を提示しましょう。

##### ② 研究組織・研究推進計画（原案）の作成

学校長や教頭，教務主任等と協議して，機能的な研究組織及び研究推進計画を作成しましょう。研究組織では，それぞれのグループの役割を明確にしましょう。研究推進計画では，いつまでに何をするのかを明確にしましょう。

##### ③ 研究会の運営

成果と課題を明確にし，教職員全員が共有化できるようにしましょう。

##### ④ 関係資料の収集

先行研究や先進校の実践，参考文献，各種研究会・研修会等の資料を収集し，各研究グループや職員に配布しましょう。

##### ⑤ 研究のまとめ

研究の内容にかかわることと，研究の推進にかかわることについてまとめましょう。次年度への改善策をもつようにしましょう。

#### ◆研究推進に係る連絡調整

##### ① 学校長や教頭，教務主任，運営委員会，研究推進委員会等との連絡調整

上記の人や委員会等と連携を密にし，研究推進の調整を図りましょう。特定のグループや個人に過度の負担がかかったり，特定の人のかえで研究の方向性が決まったりすることのないよう，調整を図りましょう。

##### ② 研究グループや個人への指導・助言

研究を進めるうえで悩んでいるグループや個人の相談にのり，支援していくことも研究主任の大切な仕事です。

##### ③ 外部講師招聘計画

学校長や教頭，教務主任，研究推進委員会と協議しながら，外部講師の派遣要請計画を立てましょう。

研究主任が発行する研究通信の例を挙げます。

(資料提供：奥州市立水沢小学校 研究主任 佐藤正寿先生)

奥州市立水沢小学校 研究通信 ニューウェーブ

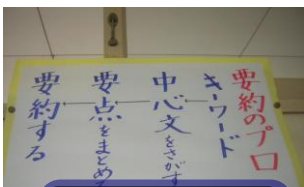
第14号 平成19年7月3日 (文責・佐藤正寿)

読み取り方を学ぶ ～高橋真貴子先生の授業～

1 読み取り方を学ぶ

先週の27日、6年1組で研究授業が行われました。教材は「生き物はつながりの中に」です。

「生き物の特徴①を読み取り、まとめよう」が、本時のめあてです。内容そのものの読み取りと共に、「読み取り方を学ぶ」という点も重視している授業でした。「正しく読み取る」ための手立てです。単元を通して、読み取り方を学ぶという点を重視していることが、随所から伺えた授業でした。掲示物も下記のように手立てが明確なものが多く、参観者の参考になったと思います。



掲示物に手立てをはっきりと

してきています。中には、自主的に書き込みをしてきている子もいました。家庭学習と授業とが連動していることがわかりました。

(2) 段落ごとにステップを踏んで

扱う段落は②から④の3つです。この3つそれぞれに、「読み取ったことの発表」→「中心文を見つける」→「まとめる」という手立てで取り組ませています。

むしろ、活動させるだけではありません。発表の過程で随時補助発問・繰り返し発問をして、ね



ペアで話し合う

**Point!**  
研究会で明らかになった成果と課題を示し、研究の積み重ねをします。

2 授業の様子

(1) ひとり読みと家庭学習

前時の学習について触れたあと、課題をします。見直し、音読をして、いよいよ読みます。まずは「ひとり読み」です。子ども「接続語、指示語、文末表現に気を付けて書き込みをします」と視点を示した指示をしました。子どもたちは学習

ぎました。

確かに、「文字数を限定することにより、言葉が削られる」というよさがあります。もし限定しなければ、だらだらと長く書く子も出てきていたでしょう。

また、少しだけ30文字からはみ出した子たちに発表させ、30文字以内の子たちと比較させた場面もありました。このような活用もできると感じました。

3 研究会で

研究会は、討議の部分のほとんどを付箋紙を活用したワークショップ形式で行いました。これについては、次号で紹介をします。

★研究会で明らかになったこと

- ・子どもの考えを生かした掲示は有効であった。
- ・「～は、どうして中心文にならないの？」といった「否定型発問」は視点を広げる点で効果的である。
- ・題や文章に戻らせ、考えの根拠をもたせることが大切である。
- ・要約文は字数を制限することで、言葉が精選される。
- ・要約をさせる時には、全段落を一つのパターンで行うのではなく、軽重をつけて行えば時間短縮になる。(例：ある段落は子どもと一緒に、ある段落は任せてみる)

**Point!**  
授業者の指導のポイントに沿って授業の様子を記載していません。

**Point!**  
参考となる指導法は、写真で掲載することによりイメージ化を図ることができます。



要約文をワークシートに書く

(4) 段落相互の関係・自己評価

「たしかめる」の最後の段階は、段落相互の関係でした。時間不足で、十分にはできなかったものの、説明文を学ばせるために必要な要素と改めて思いました。

また自己評価は「内容」「まとめ方」等、本時に関わりのある視点を提示し、その点で振り返りをしました。



教材文に直接書き込み



研究会の様子

最高学年として多くの行事と並行して取り組んでくださった真貴子先生、本当にお疲れ様でした。また、サポートしてくださった国語部会の先生方、6年生の先生方、ありがとうございました。

奥州市立水沢小学校 研究通信 ニューウェーブ

第29号 平成19年10月9日 (文責・佐藤正寿)

## ワークショップ型が授業研究会を変える 1

今年度も半年が過ぎました。各部会とも、「ワークショップ型」の授業研究会に取り組み、効果が出てきていると思います。

「ここで一回、ワークショップ型授業研究会について、まとめた」と思っていました。その時に、ちょうど岩手県立総合教育センターから「教育研究岩手」から、授業研究会に関わる原稿依頼が来しました。そこで、今までの取り組みをまとめました。原稿縮小版という形で紹介をします。

### 1 ワorkshop型授業研究会の感想

- ・ワークショップ型での小グループでの話し合いは、他の考えを身近に詳しく聞くことができ、とても納得ができるものである。
- ・ワークショップ型の討議は、気軽に付箋紙を出しながら、意見交換ができてよいと思う。討議もスピーディーに進む。
- ・ワークショップ型に慣れるまでに、多少の戸惑いがある。しかし、学びが多いのワークショップ型である。若い先生に話せることにも価値がある。

本校では本年度から、ワークショップ型授業研究会を行っている。これらはその感行錯誤をしながらの実践であるが、り圧倒的な支持を得ている。

研究会の在り方が変わり、参画する教員の研究会に対する意識もより意欲的になった。当然、研究自体も深まっている。本稿では、このようなワークショップ型授業研究会の運営方法とそのよさについて述べるものである。

### 2 本校の授業研究会の課題点

本校がワークショップ型の授業研究会を行うようになったのは、岩手県立総合教育センターの「授業改善を図るための校内授業研究の進め方に関する研究」の研究協力校になったことがきっかけである。

それまでの授業研究会は、一つの内容に協議が集中できるというよさはあるものの、次のような課題があった。

- ・発言する人数が限られており、どうしてもベテランの教員主導の協議になってしまうこと。
- ・授業で確かめられた成果と課題を一般化するまで、時間がかかること
- ・一定の学びはあるが、充実感・満足感が高くないまま授業研究会が終わること。

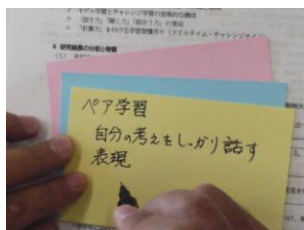
「ワークショップ」には、「意見の交換を主とする研究会」という意味がある（「ワークショップ型研修のすすめ」村川雅弘編・ぎょうせい）。一般的な授業研究会自体も意見の交流になっているが、その違いは、ワークショップ型が「全員が一斉に意見交流が可能である」という点であると考えている。ここでは、本校で実際に行った例をもとにその運営方法を紹介する。2年生の算数、単元名は「かけ算(1)」である。

#### (1) 研究授業時に付箋紙に授業についての意見・質問・感想を記入する

以下のように3種類の付箋紙に、授業を参観しでの気づきを書く。

- ・青色：部会の取り組みと指導案について
- ・クリーム色：視点の内容について
- ・ピンク色：視点以外の内容について

付箋紙は名刺の2倍ぐらいのサイズである。太いペンで2～3行程度で書く。検討する時の見やすさを考えてである。ここに書かれたものが研究会の意見交流のベースとなる。この時には一人合計で7～9枚程度の付箋紙を書いた。



【付箋紙に授業を参観した意見を記入】

#### (2) グループごとに構造化する

授業研究会の最初に行うことは付箋紙を模造紙

にKJ法でまとめていくことである。6人程度が1グループになり、模造紙に付箋紙を貼っていった。

この時に似たものはグルーピングをしていき、適宜丸で囲んでいく。「発問」「ペア学習」「ワークシート」といった本時の視点に関わる各自の考えが、いくつかのグループにまとめられ構造化された。



【各自の考えが構造化される】

#### (3) 検討し、成果と課題を明確にする

模造紙に付箋紙を構造化するのは、あくまでも授業について検討をするためである。事前に依頼しておいたリーダー（中堅教師）が話し合いを進行する。一つ一つの項目について、フリーで各自の考えを交流する。事前に付箋紙に書いているので発言がしやすい。特に、本校の課題であった若手教師が積極的に発言する姿勢が印象的であった。

ここでは、考えを述べるだけでなく、考えがまとまったところで成果や課題を整理して、模造紙に直接書き込んでいく。この時に、授業者は各グループを回り、質問に答えたり、補足説明をしたりした。個人的な質問もしやすいという点がメリットである。

(次号に続く)

### Point!

授業について行った研究会の取り上げるだけでなく、自校の研究の在り方についてもふれていくことが重要です。

### Point!

A4判で1～2枚程度が読み手にも制作者にも適度な内容でしよう。定期的な発行が効果的です。

### Point!

佐藤先生は「研究通信 発信のよさ」を4点挙げています。

- ① 研究授業の成果・課題を記録化・発信できる
- ② 研究情報を発信できる
- ③ 他校の成果を本校の研究に生かすことができる
- ④ 研究の方向性を提示できる



## 校外研修への参加

### Point

- 研修の目的を明確にもつ。
- 伝講会を開き、研修内容を共有する。

### 1 校外研修参加計画を立てましょう

校外研修といってもいろいろあります。(先進校視察, 学校公開研究会参加, 研究団体研究会参加, 教育センター研修会参加 etc.) 参加目的をしっかりともつとともに, 参加後は校内で伝講会を開き, 全体へ成果を還元するようにしましょう。

- ◆ 日頃から情報収集に努めましょう
  - ・ 他校のホームページ
  - ・ 教育関係紙
  - ・ 学校公開案内
  - ・ 教育センターホームページ
  - ・ 教育委員会や指導主事からの情報 etc.

#### 視察する先進校の選定ポイント

- ・ 研究テーマが似ている
- ・ 学校規模が似ている
- ・ 教育関係紙で取り上げられている etc.

#### 教育センターホームページの活用ポイント

- ・ 各研修講座のコマ内容を参照する
- ・ 公開テキストを参照する
- ※ 「希望研修」「随時研修」を活用する

※ 誰がどのような研修会へ参加するのか, 年度当初に計画を立てておくといいでしょう。

### 2 校外研修に参加しましょう

#### ◆ 先進校視察の場合

公開研究へ参加したり, 研究についての説明を受けたりするだけでなく, 同校の研究会へ参加させてもらうと, 自校の研究内容や研究体制等についての課題が見え, 大変参考になります。

#### ◆ 教育センターで研修する場合

教育センターには「随時研修」があります。教育センターに研修日時を確認した後, 希望する内容について研修することができます。詳しくは「研修の手引き」を参照してください。



### 3 校外研修参加後は, 伝講会を開き, 研修内容を共有しましょう

- ◆ 短時間でもよいので, 伝講会を開きましょう。研修時の資料や写真, ビデオ等を活用すると伝わりやすいでしょう。

時間がとれない場合は, 研修報告書を作成するとともに資料を添えて, 全教職員に回覧するという方法もあります。

# 第 II 章

## 授業構想の仕方

児童生徒を主体にすえ、提案のある授業をつくりましょう！

- 授業構想の大まかな流れ
- 教材研究の仕方
- 児童生徒理解の仕方
- 学習指導案の作成について
- 指導法について（発問・板書・ノート指導・机間指導）

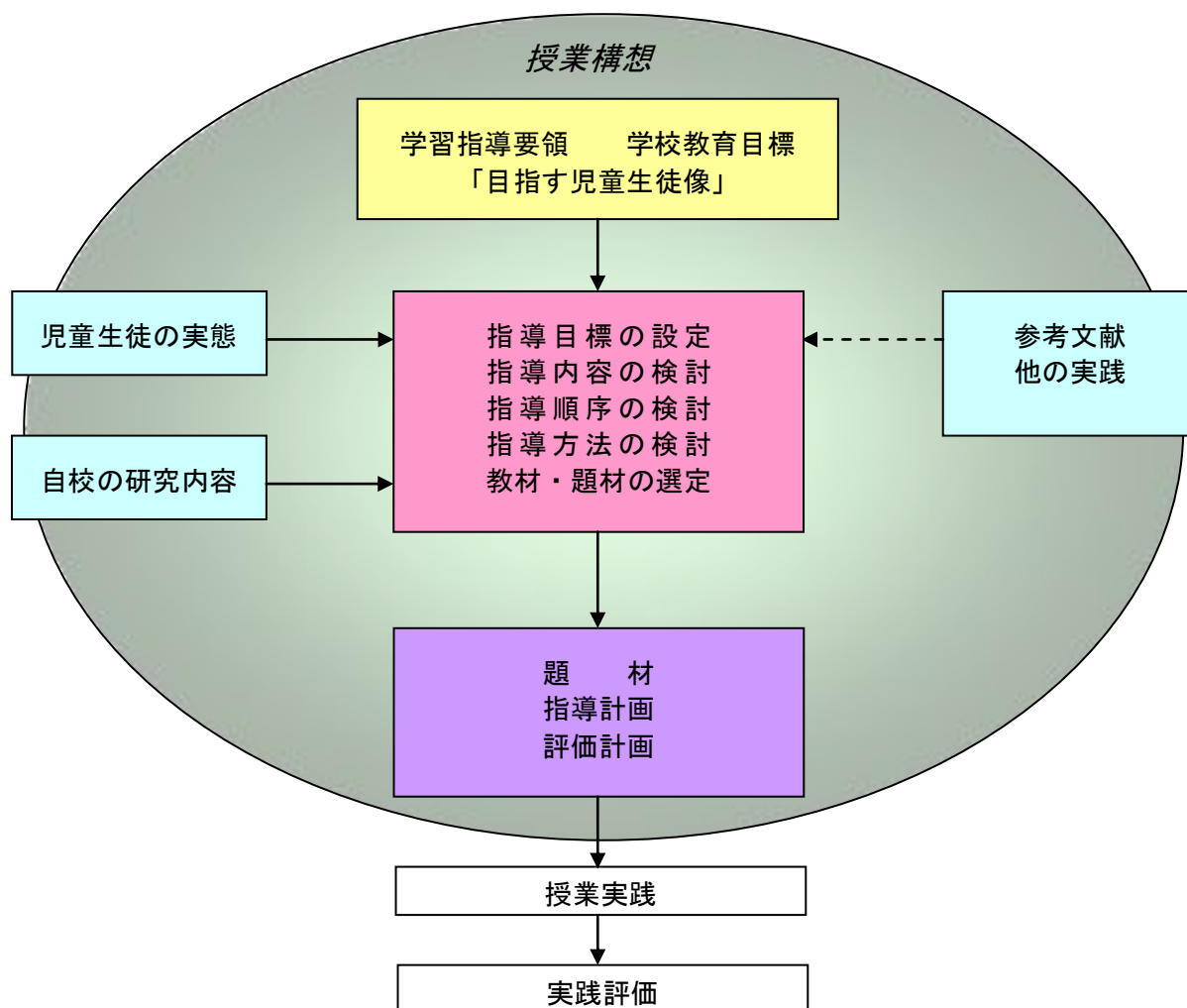
## 授業構想の大まかな流れ

### Point

- 研究授業や実践例等を参考に、児童生徒の実態に配慮しながら取り組む。
- 授業を構想する中で得たことは「授業力アップ・ポートフォリオ」に綴じ込み自己財産とする。

私たちは授業に臨む際、学習指導要領や学校教育目標を前提に、指導目標を設定し、児童生徒の実態を考慮しつつ、指導内容や指導方法等の検討を行い、実践を行っています。その際、自校の研究内容とのかかわりを考えたり、よりよい授業にするために、参考文献やこれまでの実践等を参考にしたりします。授業を構想する過程は、教材研究を行う過程と同じです。

このことを図に表すと下図のようになります。



授業実践前に構想した授業像は、いわば「仮説」です。その「仮説」と実際の授業には「ギャップ」が生じてきます。そこで、自分の指導法や授業構想の仕方等を再検討し、次時の授業構想に生かすようにします。

このような授業構想の流れの中で得た資料や考え方などは、「授業力アップ・ポートフォリオ」(cf. 9, 45 ページ)に綴じ込んでおきましょう。また、資料等の保管場所や保管方法等を取り決め、学校の共有財産となるようにしておきましょう。

## 教材研究の仕方

### Point

- 「教材・題材観」「児童生徒観」「指導観」の三つの視点から行う。
- 一人で行うだけでなく、グループなどで行った方が効果的である。

授業を構想する過程は、教材研究の過程と同じということを前ページで述べました。教材研究は、当面授業を行う教育内容について、児童生徒の実態を踏まえながら、その指導内容や指導方法等についての構想を練ることで、教材研究を行う際は、次の三つの視点から行うとよいでしょう。この視点は、学習指導案の「単元について」記述する段落構成と同じです。

### 《教材研究を行う際の三つの視点》

#### 【教材・題材観】

教育内容に基づいて使用する教材や題材の特質について理解を深める。

#### 【児童生徒観】

使用する教材や題材に関する児童生徒の興味関心や理解の度合い等について予測する。

#### 【指導観】

教材・題材の特質と児童生徒の実態を考慮し、指導方法や指導順序等について検討する。

### 《教材研究の内容》

#### 1 教材・題材観について

- ◆ 単元で身に付けさせる資質・能力の系統性をおさえます。  
これまで身に付けたどのような資質・能力を駆使しなければならないのか、ここで身に付けた資質・能力がどのように発展していくのか、確認します。
- ◆ 指導内容を明確におさえます。  
単元の指導目標を分析し、学習指導要領（解説）等をもとに指導内容を確認します。
- ◆ 使用する教材・題材の特質について理解を図ります。  
たとえば、図工であれば実際につくってみたり、国語であれば文章を視写してみたりして、教材や題材について理解を深めます。
- ◆ 使用する教材・題材の指導目標及び評価規準を具体的におさえます。  
できるだけ抽象的な言葉を用いずに、具体的な子どもの姿がイメージできる文章で記述してみます。

この教材・題材で何を教えるのかということについて、しっかりととらえることができるようにしましょう。  
教材観・題材観について確固たる考えをもっているということは、教科についての専門性が高いということになります。



## 2 児童生徒観について

- ◆ 教材や題材についての一人一人の児童生徒の興味・関心や理解の度合いをとらえます。つまり、つまずきが生じそうな箇所や、配慮を要する子ども等について予測しておきましょう。
- ◆ 児童生徒に示す学習課題を具体的におさえます。子どもの興味・関心を生かしながら、学習の方向性を具体的にとらえさせるような学習課題をつくります。

ややもすると、教師の立場でのみ、授業を構想しがちになります。常日頃から、一人一人の子どもの顔を思い浮かべながら、「あの子はこのことに興味・関心をもつだろうか」とか「あの子は、この発問を理解できるだろうか」など考える習慣をもちたいものです。



## 3 指導観について

- ◆ どのような学習活動を、どのような順序で構成するか考えます。指導目標を踏まえながら、教材観と児童生徒観を考慮しつつ、学習展開を考えます。学習の形態や学習する場所、活動時間等も重要な要素となります。自校の研究内容とのかかわりも併せて考えましょう。
- ◆ 基本となる発問を考えます。  
(cf. 24 ページ)
- ◆ 学習活動を促進するワークシートや作品例、紙板書等の教材・教具を考えます。たとえば、ワークシートであれば、発達段階を考慮し、適切な字の大きさや字体、書くスペース、紙質（消しゴムで数回使用しても破れないなどの配慮）等を考慮して作成します。
- ◆ 構造的な板書計画を立てます。  
(cf. 26 ページ)

教材研究は、一人だけで行っていると、いつか行き詰まるものだと思います。グループで行ったり、先輩の意見を聞いたり、参考文献を読んだりして、深めていくようにしましょう。

1日に行う授業すべてについて深く教材研究をすることは、物理的にも精神的にも大変なことです。そこで、次のようなことを積み重ねていくという方法もあります。

- ◇板書計画を立てることを中心に教材研究を行う。
- ◇1日のうち1時間の授業に重点をおき、その授業について教材研究を行う。



## 児童生徒理解について

### Point

- 視点は「個人として理解」「集団として理解」「集団とのかかわりから個人を理解」の三点。
- 授業構想の際には、「単元レベル」「単位時間レベル」で理解していく。

### 《児童生徒理解の視点》

- ◇ 個人として理解  
子どもを一人の人間として、その特性を理解します。(学力、体力、思考特性 etc.)
- ◇ 集団として理解  
集団は集団としての性格を有します。そこで、個人を見るのではなく、集団としての凝集力や集団と集団の関係等、学習集団としての傾向について理解します。
- ◇ 集団とのかかわりから個人を理解  
個人を集団とのかかわりから理解します。(リーダー性、周辺児 etc.)

### 【単元レベルにおける児童生徒理解】

単元の指導計画レベルにおいても、子ども一人一人の実態に基づいて指導を構想し、計画を立てることが大切です。

単元に入る前に、一人一人の子どもの実態を把握し、興味・関心や習熟度等にに応じて、指導計画を立て授業に臨みます。無計画なまま指導を開始し、場当たりの個別指導をすることのないようにしたいものです。

### 【単位時間レベルにおける児童生徒理解】

単元レベルと同様に、子どもの興味・関心や習熟度などを、授業実施前に把握し授業に臨むことはもちろん、授業中の子どもの実態に応じながら、時間配分や指導方法、指導形態、発問等を変えていきます。特に、子どものつまずきについては、できる限りその時間内に解消できるように指導していくことが大切です。

理解力はあるが、恥かしがり屋のため、ほとんど挙手しないAという子がいたとします。

そのことをおさえていれば、教師は、授業中たとえAさんが挙手していなくても、自分の考えをもっているかと判断すれば、指名して授業を構成することができます。そして、Aさんの考えのよさをクラスで紹介し、Aさんに自信をもたせる指導をすることもできます。

また、Aさんは、3～4人のグループ内であれば、進んで自分の考えを述べることができる、ということをとらえていれば、小グループによる学習活動を設定することもできます。



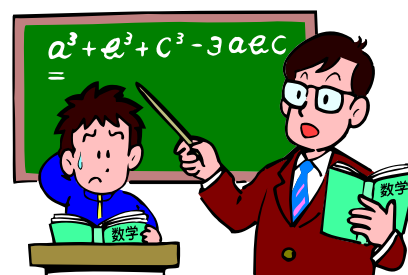
児童生徒理解の視点は、前ページでは三つの視点から示しました。ここでは、個人の学習状況を見取る内容について述べます。もちろんこの他にも様々な視点が存在します。一人一人の子どもの学習状況を把握するためには、子どもの学習の過程を注意深く観察するとともにその背景についても考えを巡らせなければなりません。一人一人の記録簿を用意し、継続的に記録していくことが大切です。

《個人の学習状況を見取る視点及び見取る具体的な内容》

見取りの視点	具体的な内容
意欲の状況	学習に対する意欲はどの程度か。
理解の状況	理解の程度はどの程度か。理解の方法はどのようなものか。
思考の状況	自分で考えようとしているか。どのような思考の仕方をしているか。
技能習得の状況	技能の定着度はどの程度か。どのように技能を身に付けようとしているか。
つまづきの状況	どこでつまづいているか。どのようにつまづいているか。
学習習慣の状況	学習習慣はどの程度身に付いているか。
学習速度の状況	学習の進め方はどのようなものか。

見取る手段は、次のようなものがあります。

- ◇ 授業中の目に付いた行動や発言から
- ◇ 発言やつぶやきの内容から
- ◇ 作文やノートの記述内容から
- ◇ テストの結果から
- ◇ 家庭学習の習慣やその内容から
- ◇ 自習時間の学習態度、学習成果から
- ◇ 児童生徒との面接から etc.



学習指導案の中に、児童生徒の実態について記述する部分があります。ここが「情緒的」な書き方に終始している指導案を見受けることがあります。客観的なデータで示すことができるものは、示すようにします。また、評価規準に基づいた評価結果等も記載するようにすることで、選択した指導方法や指導形態等との整合性もついてきます。



## 学習指導案の作成について

### Point

- 様式は、校種や教科・領域等に合わせて作成する。
- 研究とのかかわりが見えるように工夫する。

### 1 学習指導案作成の意義

学習指導案を作成することの意義には、次のようなことがあります。

- 教材観，児童生徒観，指導観等を整理し，授業実施の拠り所とする
- 授業参観者が，授業者の意図を理解し参観の視点をもつ
- 実践を評価・分析することで授業改善に役立てる
- 保存したり紀要にまとめたりすることで，教育実践の共有化を図る

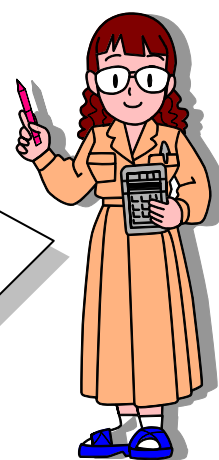
### 2 学習指導案の様式

学習指導案の様式は，本来これだと定められたものはありません。次ページの「小学校学習指導案様式例」にあるような項目を立て作成している場合が多いようです。校種や教科・領域の特徴にあわせて作成しましょう。（たとえば，図画工作・美術科の指導案では，題材について文章だけで述べるより，その題材の写真やイラストなどが示されていた方が分かりやすいということがあります。また，展開では「試行錯誤の活動」がキーワードとなり，「行きつ戻りつ」の活動が教科の特徴となります。そのような際には，矢印などを大いに活用した展開案が必要になってくるでしょう。）

最近の学習指導案には，評価規準が明記されるようになり，授業のポイントが絞られるようになってきました。しかし，授業において，その評価規準のもと，実際にどのように評価したのかが見えない授業に出会うことがあります。指導案には，どのような手段を用いて評価するのかその評価方法を明記するとともに，授業後には（研究会では），実際の評価はどのようなものだったのかを示す必要があります。

自校の研究主題や，自己課題をふまえた学習指導案とするためには，以下のことに留意するとよいでしょう。

- ◇「研究とのかかわり」という項目を学習指導案の中に設ける。
- ◇「授業を観る視点」を作成し，その中に研究とのかかわりを記述する。
- ◇展開案の中で，研究とのかかわりの強い部分を，字体を変えたり枠で囲ったりして分かるようにする。
- ◇研究内容とかかわりで以下の項目を記述する。
  - 「教材観」：研究主題をふまえたねらいや指導方法等と，教材がどのようにかわるのか，また，それらをどのように位置付けるのか記述する。
  - 「児童生徒観」：研究主題や仮説等にかかわる児童生徒の実態を記述する。
  - 「指導観」：研究の手立てを，どの指導のときに用いるのか記述する。



※ 教育センターのWeb ページから，「授業カブラッシュアッププラン学習指導案データベース」「わかる授業創造プラン学習指導案データベース」にアクセスすることができます。ぜひ，参考にしてください。



小学校学習指導案様式例

第○学年 ○○科学習指導案

日 時 平成 年 月 日 ( ) 校時  
場 所  
学 級 年 組 男子 名, 女子 名  
指導者

1 単元名 (教材名)

2 単元について

(1) 単元 (教材) について

主な記述内容	参考資料等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導目標について</li> <li>・指導内容について</li> <li>・教材分析, 解釈について</li> <li>・指導の系統性について etc.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領解説</li> <li>・教科書</li> <li>・参考文献 etc.</li> </ul>

(2) 児童について

主な記述内容	参考資料等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の学習全般の様子について</li> <li>・指導内容に関わる実態 (4観点から) について</li> <li>・学習方法や形態の経験について</li> <li>・目指す子ども像 etc.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・アンケート</li> <li>・学力検査 etc.</li> </ul>

(3) 指導に当たって

主な記述内容	参考資料等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導過程と指導内容について</li> <li>・指導上の工夫点 (学習方法, 学習形態, 教材・教具, 使用機器等) について etc.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・アンケート</li> <li>・学力検査 etc.</li> </ul>

3 単元の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・この単元をとおして, 児童がどのような資質・能力を身に付けるのかを記述します。</li> <li>・各教科・領域における4観点 (ex. 「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」) について記述します。</li> </ul>
---

4 指導計画と評価計画

時	目 標	学習内容	評価規準 (評価方法)
1 (本時)	○	・	【関】 (観察)
6	○	・	【知】 (確認テスト)

※ 評価規準は, 「学習指導要領」や「評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)をもとに作成します。

※ 評価規準は, 児童の具体的な姿がイメージできるように表します。

5 本時の指導

- (1) 目標
- (2) 具体の評価規準 (展開案の中に入れても可)
- (3) 展開

段階	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) と評価 (☆)
(分)	1 学習課題の確認 学習課題	○「C」の子どもへの配慮事項を明記する。 ○「具体的評価規準」や評価方法について記述する。
(分)		

(4) 板書計画

(cf. 26 ページ)

## 指導法について（発問）

発問の分類には定説がありません。指導過程の段階によって区分したり、何を問うのかによって区分したり、発問が果たすべき機能によって区分したり、視点が様々あります。

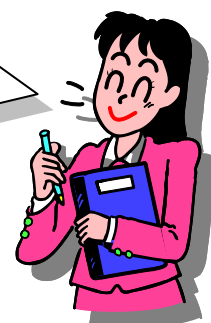
### 《指導過程の段階による分類》

	発問の内容
導入	<p>○学習内容へ興味・関心をもたせるような発問 例：「〇〇について、知っていることはありませんか。」 「〇〇を見て、気付いたことを教えてください。」</p> <p>○学習の方向付けをするような発問 例：「調べてみたいこと（考えてみたいこと）を教えてください。」 「分かっていることは何で、はっきりしていないことは何ですか。」</p>
展開	<p>○課題解決の見通しをもたせるような発問 例：「どのように学習したら問題が解決するでしょう。」 「何をつかって調べるとよいでしょう。」</p> <p>○問題を追究し、思考を深めるような発問 例：「他の方法（考え方）でもできますか。」 「なぜ、このようになったのでしょうか。」 「友達にわかってもらえるように説明してみましよう。」 「自分の考えと友達の考えで、同じところや違うところはどこですか。」</p>
終末	<p>○学習したことをまとめるような発問 例：「今日の学習で分かったことは何ですか。」 「今日の学習のまとめを、自分の言葉で書いてみましょう。」</p> <p>○次時へのつながりを図るような発問 例：「今日の学習をもとに、次に学習してみたいことは何ですか。」 「今日解決できなかったことがありました。次の時間にはどのようなことをすればよいでしょう。」</p> <p>○自他のよさを認め合う発問 例：「今日、がんばったことやわかったこと、できるようになったこと、を教えてください。」 「友達のどんな考え方（学習の仕方）が、すばらしいと思いましたか。」</p>

### Point

発問を考える際には、まず、子どもにどのように答えてほしいのかを考えます。次に、そのような答えを導き出すことのできる問いかけ方をいくつか考えてみます。その中で、クラスの子ども全員が理解できて、簡潔なものを選択します。

一朝一夕で「よい発問」ができるようにはなりません。教材研究を地道に継続したり、研究授業を参観して「よい発問」だと思ったものを、自分の授業で「追試」したりしていくことが上達への道です。



## 《発問時の留意点》

- にこやかに親しみ易い表情で話す。
- まちがいや失敗を気にさせないように、受容的共感的な受け止め方をする。
- どの子どもにも公平に接する表情と態度にする。
- 子どもの目を見て、全員に問いかける。(聞いていない子どもがいないように)
- すぐに挙手する子どもがいても、すぐに指名せず、全員に考える時間を与える。
- 同じ答えでも、数人の子どもに答えさせる。
- 一問一答に終始せず、一問多答になるような発問を織り交ぜる。
- 発問の種類により、声の大きさや表情を工夫する。
- ノートさせたり、グループで話し合わせたりしてから、発言させるなどの工夫をする。
- 子どもが答えにくそうだと判断したら、視点を変えたり、ヒントを与えたりして、考えやすいものにする。(ただし、言い換えを頻発させないように注意する。)
- 子どもたち同士の発言を、比較したり関連させたりするようにする。
- 子どもの発言の真意が汲み取れない場合、もう一度表現を変えるなどして問い直す。
- 子どもの発言が表面的な場合、揺さぶる発問を投げかける。

## 《ちょっと考えてみましょう》

太郎くんは、考えこんでしまいました。

この文の「考えこむ」について、子どもたちに考えさせる場合、どのような発問がよいでしょうか？

T:『「考えこむ」とは、どんなことですか。』

これだと、数人しか挙手できないと思われます。

T:『「考えこむ」と『考える』は、同じですか。』これであれば、ほぼ全員が「違う」と答えるでしょう。

次に、T:『「こむ」がつく、他のことばをさがしてみましょう。』と問いかけます。すると、子どもたちは「しゃがみこむ」「投げこむ」「飲みこむ」などと答えるでしょう。

子どもたちが出してきた言葉を取り上げ、その言葉を動作化させたり、生活の中での姿をイメージさせたりして、「こむ」がつくとその動作が強調されることを捉えさせます。

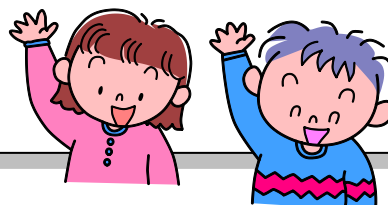
T:『「太郎くんは、考えこんでしまいました」とは、どんな様子なのですか。』

C:「太郎くんは、じっくりと考えていたのだと思います。」

C:「太郎くんは、身動きもしないで考えていたのだと思います。」

C:「たぶん他の人が話しかけても、太郎くんは、そのことに気がつかないくらい、考えていたのだと思います。」

などの発言がでてくるでしょう。

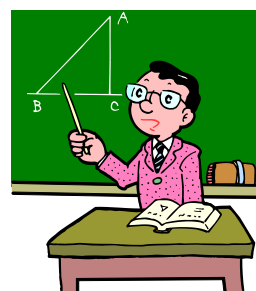


## 指導法について（板書）

黒板とチョークは、最も基本的な教育機器といえます。板書は、子どもの知的好奇心を刺激し、思考や理解を深める働きをもっています。メモ的なものにならず、計画的な板書をこころがけましょう。

### 《板書する時の留意点・工夫点》

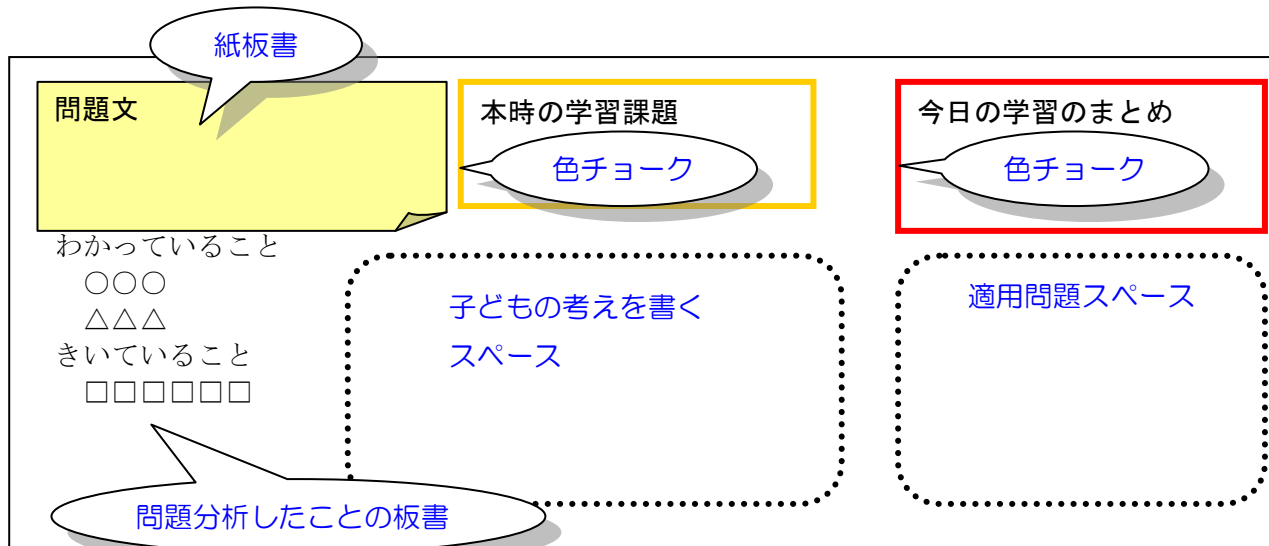
- 情報を整理し、学習の全体像がわかるように板書する。
- 筆順、字形、文字の大きさに注意して、丁寧に書く。
- 子どものノートを取るスピードを考慮しながら書く。
- 紙板書や掛図等、教材・教具を併用しながら書く。
- 書いた事項は極力消さないようにする。
- 子どもの発言を板書に位置付ける。
- 子どもが発言しているときは、原則として書くことを避ける。
- 色チョークの使い方のルールを決め、情報を捉えやすくする。
- 板書に子どもを参加させ、学習意欲を高める。
- 子どもが自ら工夫してノートする余地を残すようにする。
- 黒板には、そのときの学習内容以外の記述がないようにする。
- 教師が唱えながら板書する。
- 子どもに唱えさせながら板書する。
- 子どもに指でなぞるようにさせながら板書する。



※ 文字の大きさの目安（一辺が以下の長さの正方形の枠に入る程度の大きさ）

小学校 1 年生：18～20 cm，2 年生：16～18 cm，3 年生：14～16 cm  
4 年生：12～14 cm，5 年生：10～12 cm，6 年生：5～8 cm

### 【小学校算数の板書構成例】



## 指導法について（ノート指導）

ノートは学習の履歴です。板書をただ写すだけではなく、子ども自身の考えも記入させるようにするとよいでしょう。ノートを見たときに、学習の内容やそのときの自分の考えが振り返られることができるようなものに指導していくことが大切です。

### 《ノート指導の留意点》

- 鉛筆の持ち方や書くときの姿勢について指導する。（中学校，高等学校でも）
- 板書内容を理解しながらノートする技能を身に付けさせる。  
（文節ごとに区切って，ノートに写すなど）
- 速く書くときと，丁寧に書くときを区別させて，ノートさせる。
- 自分や友達の考え，教師の言葉などを付け加えてノートさせる。
- 授業中に，机間指導を行いノートの取り方を指導する。
- ノートを定期的に集め，子どもの実態（つまずきやよさ）の把握に努める。
- 学習した日付や，学習内容が分かるように見出し等をつけさせる。
- ゆとりをもってまとめられるようノートをとる時間を設定する。

### 《ノートチェックの視点》

- 適切な筆圧で書いているか。
- 適切に漢字を用いて書いているか。
- 色ペンをルールどおりに用いているか。
- 直線は定規を使って書いているか。（フリーハンドで丁寧に書いているか。）
- 文章表現は正確か。
- 文章や図などを用いて，自分の考えを表しているか。
- ◆ 丸をつけたり，コメントを書き加えたりして，認め励ましているか。
- ◆ 定期的に指導しているか。
- ◆ 教科等に合ったノートの取り方を指導しているか。



## 指導法について（机間指導）

机間指導は、個に応じた指導のひとつです。ただ漠然と行うのではなく、意図的計画的に行い、子どものつまずきを解消したり、考えを広げたり深めたりするようにしましょう。

### 《机間指導の留意点》

- 一人一人の学習状況を的確に把握する。
  - ・学習課題をしっかりと把握しているか
  - ・どのような考え方をしているか
  - ・つまずきはないか
  - ・作業進度はどうか
- 個に応じた指導を行う。
  - ・個別指導を行う際は、視線を子どもと同じにするなどの配慮をして支援する。  
（小学校高学年くらいになると、友達の面前での個別指導をきらい児童も増えてくるので配慮が必要である。）
  - ・学習問題をしっかり理解させる。
  - ・学習課題を明確につかませる。
  - ・課題解決の方向性を示唆する。
  - ・励ましの言葉かけやマルつけなどを行う。
  - ・他の子どもの学習への集中力を切らさないように配慮する。
- どの場面でどのように行うのか計画性をもって臨む。



机間指導の時間は、限られた短い時間しかありません。

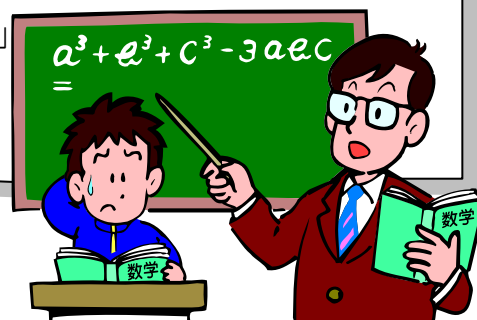
短時間で指導ができる場合は行いますが、時間がないときには、実態把握や励ましに重点をおくとよいでしょう。（他の時間を見つけて補充指導したり、家庭学習で課題を出したりするとよいでしょう。）

自力解決場面において、つまずいている子どもは不安な気持ちで一杯なはずです。安心感を与えながら、解決の方向性をつかませるようにすることが大切です。

### 《言葉かけ例》

「ここまでできたんだね。今度はこうやってみるといいよ。」

「先生といっしょに、この方法で考えてみようか。」



# 第 III 章

## 校内授業研究会の進め方

「研究テーマに関すること」と「それ以外のこと」についても、研究協議でとりあげましょう！

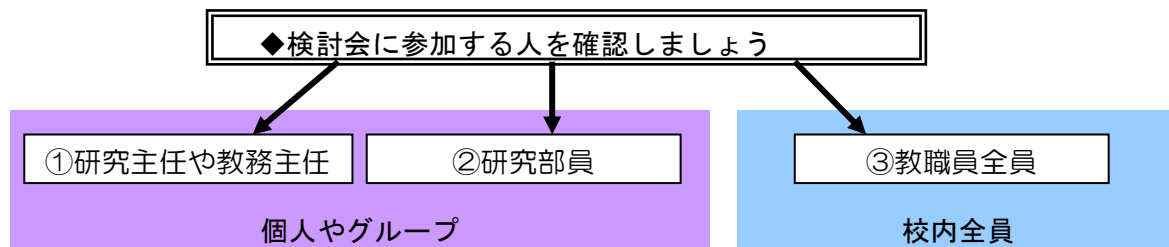
参加者全員が、自分の考えをもち主体的に参加する研究会を開きましょう！

- 事前検討会の行い方
- ビデオを活用した研究会
- ワークショップ型研究会
- ミニ研究会
- 授業者及び参観者の留意点

## 事前検討会の行い方

### Point

- 検討するポイントを整理する。
- 事前検討会の仕方を工夫する。
- 参観のポイントを確認する。



- ・ 指導案作成前からかかわる場合は、①や②の少人数の方がよいでしょう。
- ・ 指導案がある程度できていて検討する場合は、校内全員でかかわってもよいでしょう。  
(小学校の大規模校や中学校・高等学校では、少人数でもよいと思います。)

検討する内容として以下のことが考えられます。

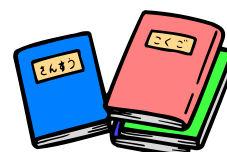
- 目標設定が適切か。
- 自校の研究内容（手だて）が適切に盛り込まれているか。
- 教材解釈は適切か。
- 評価規準や評価方法の設定は適切か。
- 指導方法は効果的か。
- 評価規準 C の子ども（努力を要する子ども）への手だてが、適切に講じられているか。



- ※ 授業者は、検討してほしいことや助言してほしいことを明確にしておく必要があります。
- ※ 授業者は、検討日前までに指導案や検討のポイントを明記したものを配布しておくことが大切です。（検討会の時間の短縮につながるとともに、検討会に参加できない教師からも意見をもらうことができます。）
- ※ 検討会では、授業参観のポイントを全員で確認しておくことが大切です。

事前検討会の工夫として以下のようなことも考えられます。

- 模擬授業を行う
- 授業者が、授業場面を他のクラスで行ってみる
- 検討会の参加者が、授業場面を自分のクラスで行ってみる





## ビデオを活用した研究会

### Point

- 授業観察の視点や研究協議の視点に沿ってビデオ撮影をする。
- 一時停止をしながら、授業者が説明したり、協議を深めたりする。
- 一定の時間内で行う。

### 1 授業をビデオに録画しましょう

録画の方法は、いくつかあります。

- ① 授業すべてを録画する。
- ② 授業観察の視点に基づいて該当場面を録画する。
- ③ 授業すべてを録画しておき、協議の視点に沿って編集する。

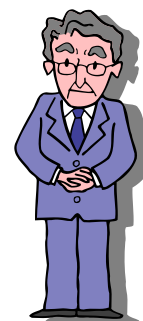
②、③の例を紹介します。

〈研究内容〉

自力解決能力を高める算数的な活動の工夫

〈録画・編集場面〉

導入場面	課題把握の様子	} 録画時間約 20 分
自力解決場面	算数的な活動の様子	
集団解決場面	発表や学び合いの様子	
終末時	学習内容のまとめの様子	



### 2 録画を基に研究会を進めましょう

以下の手順で、研究会を進めます。

- ① 研究会場に、提案授業の板書を再現しておきましょう。
- ② 研究会場に、提案授業で使用した資料や教材等を置いておきましょう。
- ③ 録画したビデオを参加者全員で視聴しましょう。  
授業者は、必要に応じてビデオを一時停止しながら、説明を加えましょう。  
視聴しながら気付きをメモしましょう。(付箋紙の活用)
- ④ 場面ごとにビデオを一時停止し、協議しましょう。

#### 〈ビデオ活用の利点〉

- ビデオを一時停止しながら、授業者が説明を加えることができるので、授業者の意図が伝わりやすい。
- 何度でも再生できることから、授業分析を深めることができる。
- 限定した場面を全員で見ることにより、協議が焦点化できる。
- 職員全員の予定に合わせて実施できる。
- 研究会での話し合いを基に、授業者が再度視聴することにより、振り返りを深めることができる。
- 授業中には気付かなかったことでも、映っていることについて、多角的に検討することができる。

#### 〈ビデオ撮影の留意点〉

- ◆授業観察の視点や研究会協議の視点に沿った場面を撮影する。
- ◆音声上も鮮明となるよう撮影する。
- ◆撮影時の時刻を記録しておく。
- ◆複数のカメラを用いて撮影することが望ましい。(ex.1台は固定, 1台は移動)



## ワークショップ型研究会

### Point

- 参加者全員が意見をもち、研究会に参加する。
- 成果と課題を明らかにし、全員で共通理解する。
- 一定の時間内で行う。

## ワークショップ型研究会の進め方の例

### ◆事前準備

- ・ 参観者に付箋紙を配っておく。  
(付箋紙の大きさの目安：「74mm×52mm」「77mm×102mm」)
- ・ 付箋紙への記入の仕方を説明しておく。
- ・ 授業を見る視点を確認しておく。  
(研究の手立て)
- ・ 模造紙にワークシートを作成しておく。  
(cf. 34～35 ページ)
- ・ グループ構成をしておく。  
(1 グループの構成は4～5人くらいが適当)
- ・ グループ協議の際の役割分担をしておく。  
(ファシリテーター，記録係，時間管理係等)

### ※付箋紙への記入の仕方

- ・ 付箋紙の色分け例（研究会の目的に応じて工夫）
  - 例1 ピンクの付箋紙：研究の手立てに関すること（技術的実践にかかわること）  
イエローの付箋紙：上記以外のこと（反省的実践にかかわること）
  - 例2 ピンクの付箋紙：授業全般にかかわる成果  
ブルーの付箋紙：授業全般にかかわる課題
  - 例3 ピンクの付箋紙：協議の視点に沿った成果  
ブルーの付箋紙：協議の視点に沿った課題
- ・ 1枚の付箋紙には一つの事を記入する。
- ・ 自分で「些細な事」と切り捨てずに、たくさん書く。
- ・ 付箋紙へは、簡潔に、大き目の字で書く。（名前も書く）

付箋紙の色分けは、煩雑にならないようにしましょう。  
2色程度が適当です。

### 【付箋紙記入例】

資料に目隠しをして提示  
子どもの関心を高めることに効果的！

教育 仙太

《研究会》（約1時間30分）

1 進め方を説明する（進行役）

＜5分＞

- ・研究協議の目的、ワークショップの流れ、時間等を確認する。
- ※初めてワークショップを行う場合、見本となるワークシートを提示しながら、付箋紙の貼り方や整理の仕方について説明すると分かり易い。

2 授業者が授業の意図を説明する

＜10分＞

《研究内容にかかわること》

- ・提案授業で配慮したこと  
（研究仮説や手立て、児童生徒の実態にかかわり、どう授業を構想したか等）
- ・授業を行ってみて、上記のことがどうだったのか（自分なりの成果と課題のとらえ）

《その他授業全般に関すること（自己の授業力量向上にかかわること）》

- ・提案授業で配慮したこと
- ・授業を行ってみて、上記のことがどうだったのか（自分なりの成果と課題のとらえ）

《その他》

- ・意見や助言をもらいたい点 等

3 グループで授業を分析し、成果と課題、改善の方向性を明らかにする ＜50分＞

- ・ワークシート上に付箋紙を貼り出す。
- ・付箋紙の内容によりグループ化し、小見出しを付ける。
- ・グループ化したもの同士の間を議論し、関係を線や文章で表す。
- ・成果と課題を明らかにする。
- ・課題については、改善の方向性を見出す。
- ※授業者は、グループを渡り歩きながら協議に加わってよい。



ポイントは、「マジックの色使いを工夫すること」「小見出しとともに説明の文章を付け加えること」です。

4 グループ発表をする

＜各3分＞

- ・情報の共有化を図る。
- ※グループ数が少ないときは、発表時間を伸ばしても可

小黒板を用意し、各グループの発表の要点をまとめていくと、共有化が図りやすくなります。  
「5 まとめをする」のときにも活用します。



5 まとめをする（進行役，研究主任等）

<10分>

- ・本研究会で明らかになった成果と課題についてまとめるとともに，課題の改善の方向性を示す。

6 助言

<15分>

- ・助言者がいる場合，助言を聞く。

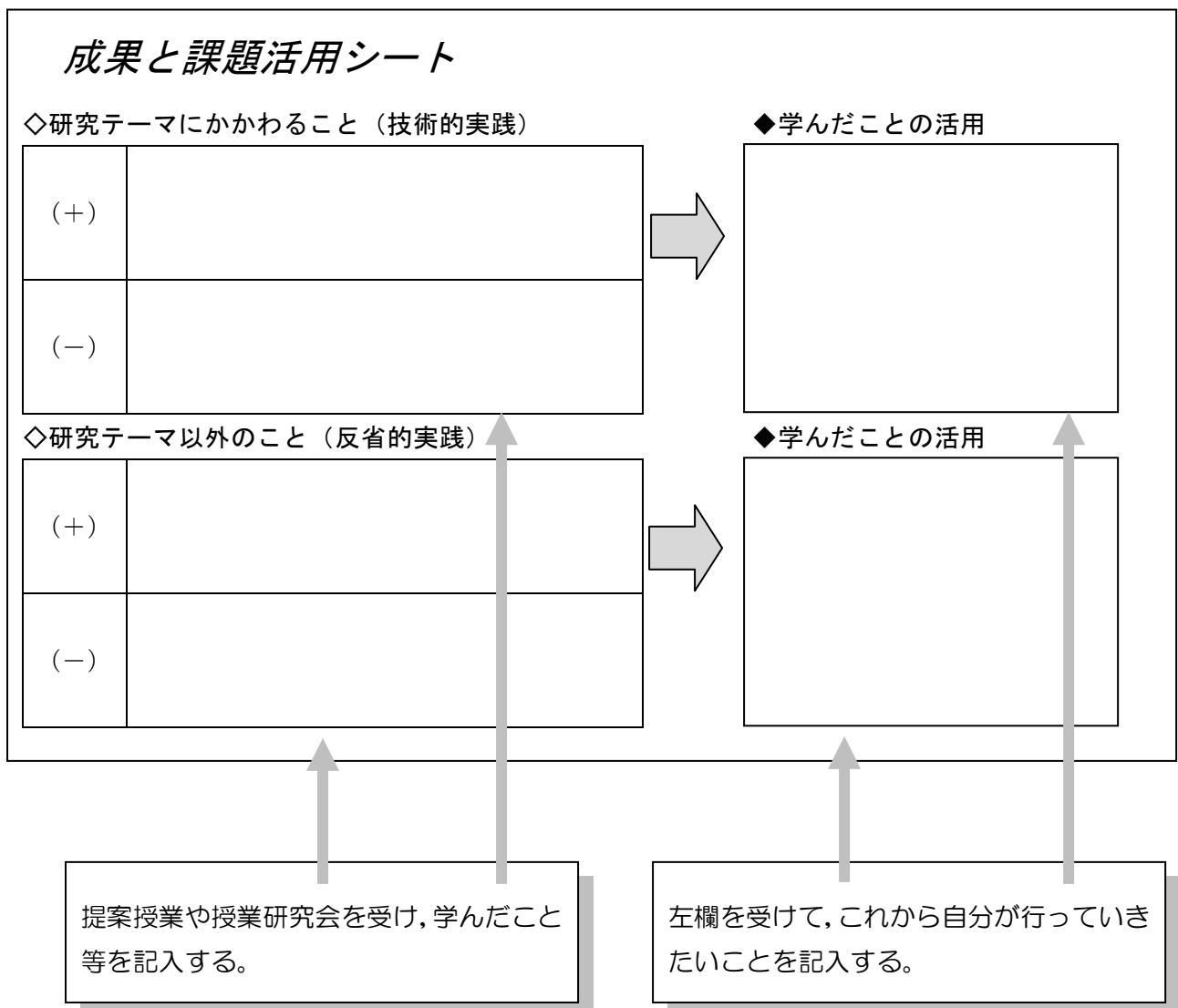
7 各自，自己の振り返りをする

<10分>

- ・「成果と課題活用シート」等を利用しながら，自己の実践に生かしていきたいことをまとめる。  
（一人一文発表「私は，明日からの実践で〇〇を取り入れてみたい」なども効果的）

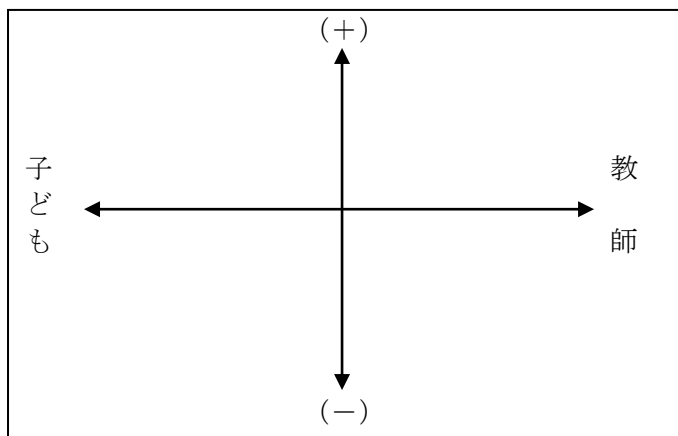
※「5 まとめをする」の前後に，授業者の感想発表を入れてもよい。

※「成果と課題活用シート」について



授業研究におけるワークシート例

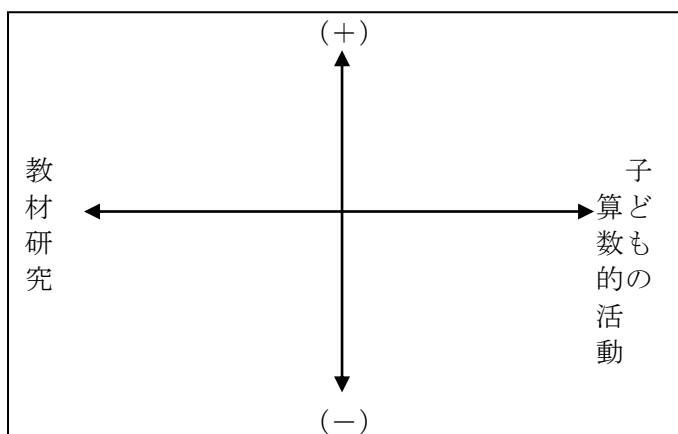
例1 「子どもと教師の視点から授業を概観できるワークシート」



- 【シートの構造】
- ・横軸は「子ども」と「教師」
  - ・縦軸は「成果 (+)」と「課題 (-)」

- 【活用場面例】
- ・初めてワークショップを行う場合
  - ・異校種間で授業研究会を行う場合
  - ・授業の全体像をとらえる場合

例2 「教科等の指導法について分析できるワークシート」



- 【シートの構造】
- ・横軸には、協議の視点
  - ・縦軸は「成果 (+)」と「課題 (-)」

- 【活用場面例】
- ・柱立てを行って協議する場合
  - ・教科部会（分科会）で協議する場合

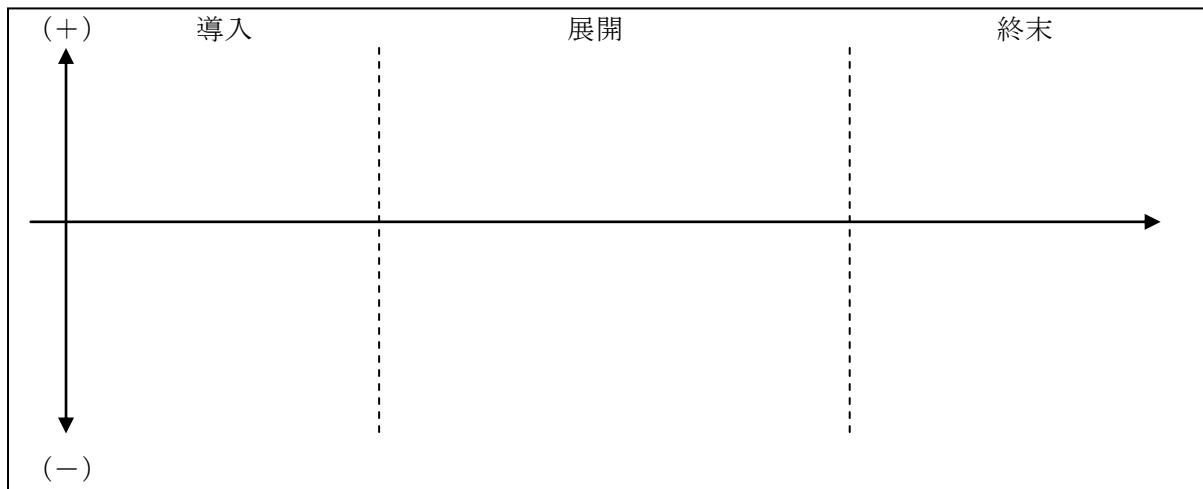
例3 「研究の手立てに沿って分析できるワークシート」

	視点1	視点2	視点3
(+)			
(-)			
改善策 助言			

- 【シートの構造】
- ・横軸は、協議の視点
  - ・縦軸は、「成果 (+)」と「課題 (-)」, 「改善策・助言」

- 【活用場面例】
- ・研究の手立てに沿って協議する場合
  - ・教科部会（分科会）で協議する場合

例4 「指導と子どもの様子を時系列で分析できるシート」



【シートの構造】

- ・横軸は、授業過程
- ・縦軸は「成果 (+)」と「課題 (-)」

【活用場面例】

- ・指導案の流れに沿って授業をとらえる場合
- ・各段階に入っている研究の手立てを協議する場合
- ・技術的実践と反省的実践について協議する場合

例5 「指導と子どもの様子を時系列で分析できるシート2」

段階	学習活動	指導上の留意点 (評価)	(+)	(-)
導入				
展				
開				
終末				

【シートの構造】

- ・左側に指導展開案の拡大コピー
- ・右側に「成果 (+)」と「課題 (-)」を位置付けたシート

【活用場面例】

- ・指導案の流れに沿って授業をとらえる場合
- ・各段階に入っている研究の手立てを協議する場合
- ・技術的実践と反省的実践について協議する場合

## ワークショップ型研究会を充実させるための留意点

- ◆研究会のゴールを参加者全員で共通確認して研究会に臨みましょう。
  - 研究会のゴールの例：「成果と課題を明確にする」「課題の改善策まで協議する」等
  
- ◆協議を焦点化するために、以下の点に留意しましょう。
  - ・授業参観前に、授業を見る視点を確認しておく
  - ・研究会の「授業から」で、①「研究テーマにかかわること」②「それ以外のこと」の二つの視点から振り返りを述べる
  
- ◆協議を充実させるために、以下の点に留意しましょう。
  - ・付箋紙のグループ化や、小見出しを付けることをあせらない  
(これらをするための話し合いが重要なのです)
  - ・授業者は適宜グループ協議の中に入る  
(授業者は、意見をもらいたい点等をグループ協議の中で投げかけるようにします)
  - ・話し合いでは、結論を一つと決め付けない  
(同じ内容の付箋紙でも、見方により「成果」だったり「課題」だったりすることもあります)
  - ・ファシリテーターは「聞き役」「促し役」に徹する  
(協議を自分の考え方に方向付けるのではなく、参加者の意見を引き出すことに徹しましょう)
  
- ◆グループの人数はあまり多くならないようにしましょう・(4～5人程度が適当)
  - 一人一人の発言機会が多くなり、学びが深まるとともに満足感が得られる
  
- ◆グループの構成員は、学年別、年代別、教科担当別等、様々工夫してみましょう。
  - 話し合いの活性化・多様化が望める
  
- ◆研究会の終わりに、研究会での学びを各自の日常実践にどうかすかということについて、発表したり、カードに書き込んだりしましょう。
  - 研究会と日常実践をつなげることに効果的
  
- ◆研究会で取り上げることのできなかった事項については、「いつ」「どのようなメンバーで」「どのような方法で」協議していくのかということを確認しておきましょう。

ワークショップ型研究会のやり方にこれといった一つの方法はありません。各校に合ったやり方を模索していくことが大切です。



研究協力校の奥州市立水沢小学校が行っているワークショップ型研究会の概要を紹介します。  
水沢小学校では、全体研究会だけでなく、部会ごとの研究会や事前検討会においてもワークショップ型研究会を取り入れて成果をあげています。



水沢小学校ワークショップ型研究会の概要（全体研究会）

《全体研究会次第》

I はじめの言葉

II 校長の話

III 研究協議

1 ○○科研究部会の取組について（○○科部会長）【5分】

- ・研究主題について
- ・手だてについて

2 授業について

- ・授業者から【5分】
- ・質疑【5分】
- ・ワークショップ型【35分】
- ・全体討議型【30分】

3 指導助言【20分】

4 感想カード記入

IV 校長より

V 連絡事項

VI 終わりの言葉

・参加者は、授業参観時に気付いたことを付箋紙に記入しておく（「研究にかかわること」「それ以外のこと」で色分け）

○水沢小学校では、以下の部会を組織して研究推進している  
《主題研究部会》  
（国語科，社会科，算数科，理科，特別支援教育）  
《プロジェクト部会》  
（道徳，音楽，体育，エコ，ICT）  
○校内研究会は、全員が参加して行う全体研究会と、各部会が行う部会研究会がある

・授業者は、本時授業の視点に沿って振り返りを述べる  
・協議に入る前に、確認しておきたいこと等，質疑を行う

・各部会で研究主題・研究仮説を設定しており，これまでの取組等を研究部会長が説明する

・グループ構成は、年代別・所属学年別等，工夫して構成する  
・一つのグループの人数は，4～6人程度である  
・ワークシートは，研究の手立てに沿って分析できるもの（cf. 34 ページの例3）を使用することが多い  
・ファシリテーターや記録係，発表係は，人材育成の面を考慮して決めることが多い

・ホワイトボードを用意しておき，各グループの発表を成果と課題の視点からまとめていく  
・全員で共通確認する事項を研究主任が決め，全員で討議する



《グループ協議の様子》



《全体討議の様子》



研究協力校の紫波町立紫波第三中学校が行っているワークショップ型研究会の概要を紹介します。  
紫波第三中学校では、近隣の小・中学校の先生方にも研究会を公開して、研究を充実させる工夫を行っています。



紫波第三中学校ワークショップ型研究会の概要（全体研究会）

《全体研究会次第》

- I はじめの言葉
- II 校長の話
- III 研究協議
  - 1 授業者から
  - 2 協議（ワークショップ型）
  - 3 全体協議
- IV 助言
- V 連絡事項
- VI 校長から
- VII 終わりの言葉

・参加者は、授業参観時に気付いたことを付箋紙に記入しておく（「研究にかかわること」「それ以外のこと」で色分け）

・授業者は、全校テーマに基づいた各教科における手だてに沿って授業の振り返りを述べる

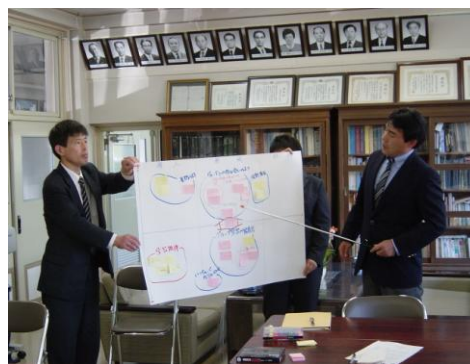
・全員で共通確認すべき事項を全体協議として取り上げ、研究の成果と課題を積み重ねるようにしている

○紫波第三中学校は、教科担任が一人程度の小規模校であり、研究会の内容を充実させるため、近隣の小・中学校から参加者を招いて研究会を行う等の工夫をしている  
○研究主題は「基礎基本の定着を図る教科指導ー学び合いと繰り返しを通して」である  
○研究仮説は「各教科の授業において次のような手立てを講じれば基礎・基本が確実に身に付くであろう。①生徒同士の学び合いを取り入れる②繰り返して学習させる方法を工夫する」である

・一つのグループの人数は4～6人程度である  
・ワークシートは、授業の指導過程に沿って成果と課題を協議できるものを使用している  
・付箋紙の活用例（ピンク：「研究テーマにかかわること」ブルー「それ以外のこと」）  
・ファシリテーターや記録係、発表係は、そのときのグループ構成による選定している



《ワークシート》



《グループ発表の様子》

研究協力員のいる県立釜石南高等学校が行ったワークショップ型研究会の概要を紹介します。  
研究会の参加者からは「ワークショップ型研究会は手軽で有効な手法である」との感想を得ており、高等学校において研究会を日常化することに役立つと考えられます。



### 釜石南高等学校ワークショップ型研究会の概要（地歴・公民科における研究会）

- ・参加者は、授業参観時に気付いたことを付箋紙に記入しておく
- ブルー：授業のよさ
- イエロー：授業の改善点

#### 《地歴・公民科研究会次第》

#### I はじめの言葉

#### II 研究協議

##### 1 教科主任から

- ・研究会の趣旨と流れについて

##### 2 授業者から

- ・授業のねらいについて
- ・授業後の感想について

##### 3 協議（ワークショップ型）

- ・概念化シートによる課題の確認
- ・ブレインストーミングによる協議

##### 4 課題の整理

- ・ワークシートを基に成果と課題の整理
- ・授業者の振り返り

#### III 連絡事項

#### IV 終わりの言葉

- 釜石南高等学校では、教務課が「公開授業」の計画を立て、学校全体で授業を参観し合う体制をつくっている
  - 5月～3月の期間に、月3～4人の授業を公開する計画が進められている
  - 普段の授業を互いに見合うことを前提に、指導案は配布していない
  - 参観者は、「授業参観記入用紙」に所感を記入する
  - 「参観記入用紙」記入の観点
    - ①授業者の話し方・板書②内容・教材の分かりやすさ③授業の開始・終了の挨拶④生徒の取組⑤その他気付いたこと
- （ここで示した研究会は、地歴・公民科が行った研究会である）

- ・あらかじめ整理しておいたワークシートの成果と課題を協議の視点として話し合った
- ・グループ分けはせず部員等8名全員で協議を行った

- ・授業者は、自分の指導の特性をプラス面とマイナス面の双方から振り返りコメントする
- ・ここでの学びをこれ以降の実践に生かすようにする

#### 協議の事前準備

今回初めてワークショップ型研究会に取り組むということで、協議前に参加者が書いた二色の付箋紙を概念化シートに貼り、KJ法の考え方で整理しておいてから協議に入った



《事前準備したワークシート（概念化シート）》

#### 【参加者の感想】

「付箋紙に簡潔に記載することで、プラス・マイナスいずれの感想も率直に表現することができる」  
「様々な視点からの意見・感想により、これまで行ってきた合評会ではタブー視されてきた部分にもふれられることで、授業者にとってきわめて貴重なものを得ることができる」

ワークショップに関する疑問



Q. 付箋紙を用いる意図は何ですか？

A. 自分の考えを付箋紙に書き、ワークシート上に貼るのは、自分の意見を他の人に示し、議論の俎上に乗せるためです。

ワークシート上に貼られた意見は、一つ一つが平等に扱われます。よく見られる一部の人の主導による研究協議ではなく、全員参加の協議を構築することができます。

話し合いの中で、一つの考えは、他の考えと結び付けられたり、対置されたりすることで、広がりや深まりをもつようになってきます。その作業をするときに、貼ったり取ったりできる付箋紙はとても有効な道具になります。

Q. 付箋紙にはどのようなことを書くとよいのですか？

A. 授業中の具体的な教師や児童生徒の言動や、それについての自分の率直な考えを記入しましょう。1枚の付箋紙には、一つの事柄を記入するようにします。

《付箋紙記入例》

学び合いの場面  
進んで自分の考えを友達に説明し、友達の考えも聞いている姿が多く見られた。学級全体に学び合うという姿勢が育っている。

子どもが書くときの姿勢や、鉛筆の持ち方についての指導が必要である。

Q. ワークショップ型研究会では、話し合いのレベルが低くなりませんか？

A. ワークショップを取り入れることによって、全員の主体的な参加による話し合いの成立ということが期待できます。これまでの研究会の問題点を克服する要素が含まれていることに大きな意味があります。また、ワークショップをとおして得られることを、「完全無欠なもの」「完成形」と捉えずに、目的を達成するための方向性を得ること、と捉えるとよいと思います。

話し合いの中で具体的な改善実行策等まで到達しないときには、研究会終了後に研究推進委員会や各研究グループ等で考案したり、「授業力アップ・ポートフォリオ」を活用して個人で考案したりすることもあるでしょう。

## 普段の授業を公開して行うミニ研究会

### Point

- 授業観察の視点や研究協議の視点に沿ってビデオ撮影をする。
- 一時停止をしながら、授業者が説明したり、協議を深めたりする。
- 一定の時間内で行う。

### 1 実施計画を立てます

#### 《実施方法例》

- ◆ 1年間の内に、全員が授業を1回は公開する。
- ◆ 1年間の内に、1人最低2回は公開授業を参観する。
- ◆ 1時間まるまる参観することが望ましいが、都合のつく時間でよい。
- ◆ 参観後、必ず授業者に意見を述べる。
- ◆ 配布資料は、展開略案程度とする。



公開授業年間計画					
No.	授業者名（授業学級）	公開教科	予定日	授業場所	ミニ研究会場所
1	〇〇 〇〇（6-2）	国 語	4月●日（4校時）	6-2教室	6-2教室
2	△△ △△（3-1）	図画工作	4月■日（2校時）	工作室	3-1教室
N	□□ □□（5-1）	音 楽	2月▲日（4校時）	音楽室	音楽室

### 2 参観後はミニ研究会を行います

#### 《ミニ研究会実施例》

- ◆ 時 間：30分程度
- ◆ 参加者：授業参観者
- ◆ 協議内容：気が付いたことについて

授業参観チェックシート（cf. 46 ページ）の項目について etc.

※ 短時間で行うので、小さなことでもどんどん気付いたことを述べるようにしましょう。

### 3 実施後は「授業力アップ・ポートフォリオ」に資料を綴じ込みます

- ◆ 授業者も参観者も「授業力アップ・ポートフォリオ」（cf. 9, 45 ページ）に資料を綴じ込むようにしましょう。
- ◆ 報告書を作成し、研究推進委員会に提出してもらう、という方法もあります。

校 内 公 開 授 業 報 告 書					
実施日	年 月 日（ ）	校時	授業者氏名	学級	年 組
教科・単元名					
ミニ研究会 記 録					
参加者（ ）					

## 授業者及び参観者の留意点

授業研究会を深めるためには、授業提供者や授業参観者は、自分の役割を果たすための留意点を把握しておかなければなりません。

### 《授業者の留意事項》

- 授業実践に当たって配慮した事項を明確にしておく。
  - ・ 研究内容にかかわって
  - ・ 自己課題の解決にかかわって
- 授業実践を振り返り、成果と課題を明確にしておく。
- 学習指導案どおりにいかなかった場合、その要因をとらえておく。
- 自分の今後の課題をとらえておく。

### 《参観者の留意事項》

- 授業者の授業構想の意図を理解しておく。
- 授業参観する視点、研究協議の視点を明確にもっておく。
- 観察する対象児を確認しておく。
- 授業観察の記録の仕方を確認しておく。

### 【授業記録の仕方について】

- ① 記録内容の明確化
  - 教 師：発問・指示等・板書・机間指導等
  - 児童生徒：発言・つぶやき・行動・表情等
  - 所 感：「教師」と「児童生徒」の言動等について感じたこと（「意欲的に活動」、「不明瞭な発問である」、「効果的な教材である」等）
- ② 記録対象の明確化
  - 抽出児
- ③ 記録の役割分担（必要に応じて）
- ④ 記録機器の準備（必要に応じて）

個人の記録の場合

### 【記録用紙例（学級全体を見る場合）】

時	教 師	子 ども
10:10	・このときの太郎くんの気持ちはどのようだったのだろうか？ ・（「悲しい」と板書）	・挙手3名 よしこ：悲しい気持ちだったと思います。 さとる：泣き出したい気持ちです。
10:30	・みんなで、3の場面を音読しましょう。	（一斉読）

### 【記録用紙例（抽出児を見る場合）】

時	教 師	A 男	B 女
9:30	・この計算の解き方を考えましょう。 （机間指導）	（なかなか取り組もうとせず、きよるきよる周りを見回している）	（鉛筆をもち、ノートに向かうが、一人では考えられない様子）

# 第 IV 章

## 校内授業研究のまとめ方

成果と課題を明らかにし、次に取り組むべきことをまとめましょう！

「学校全体」と「教師個人」、双方の教育実践について、成果と課題を総括しましょう！

- 研究紀要の作成
- 教育実践のまとめ方（教師個人）  
「授業力アップ・ポートフォリオ」

## 研究紀要の作成

### Point

- 読まれ、活用される研究紀要とするために、論構成や文章表現、レイアウト等を工夫する。
- 同僚性・連帯感を醸成するために、全校体制で役割分担して作成する。

研究紀要は、研究の結果をまとめ、成果と課題を明確にするとともに、対外的に批判と助言を仰ぐという性格をもっています。



研究紀要は、個人研究やグループでの研究、学校全体で取り組んだ研究の内容を掲載しています。また、それは、研究の中間まとめとして発刊されたり、研究の完結年度に発刊されたりします。

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人研究</li> <li>・グループ研究</li> <li>・全校体制での研究</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間まとめ</li> <li>・最終年次のまとめ</li> </ul> |
|---|---|

研究紀要が備えるべき要件として、以下のようなことが挙げられます。

### 《研究紀要の要件》

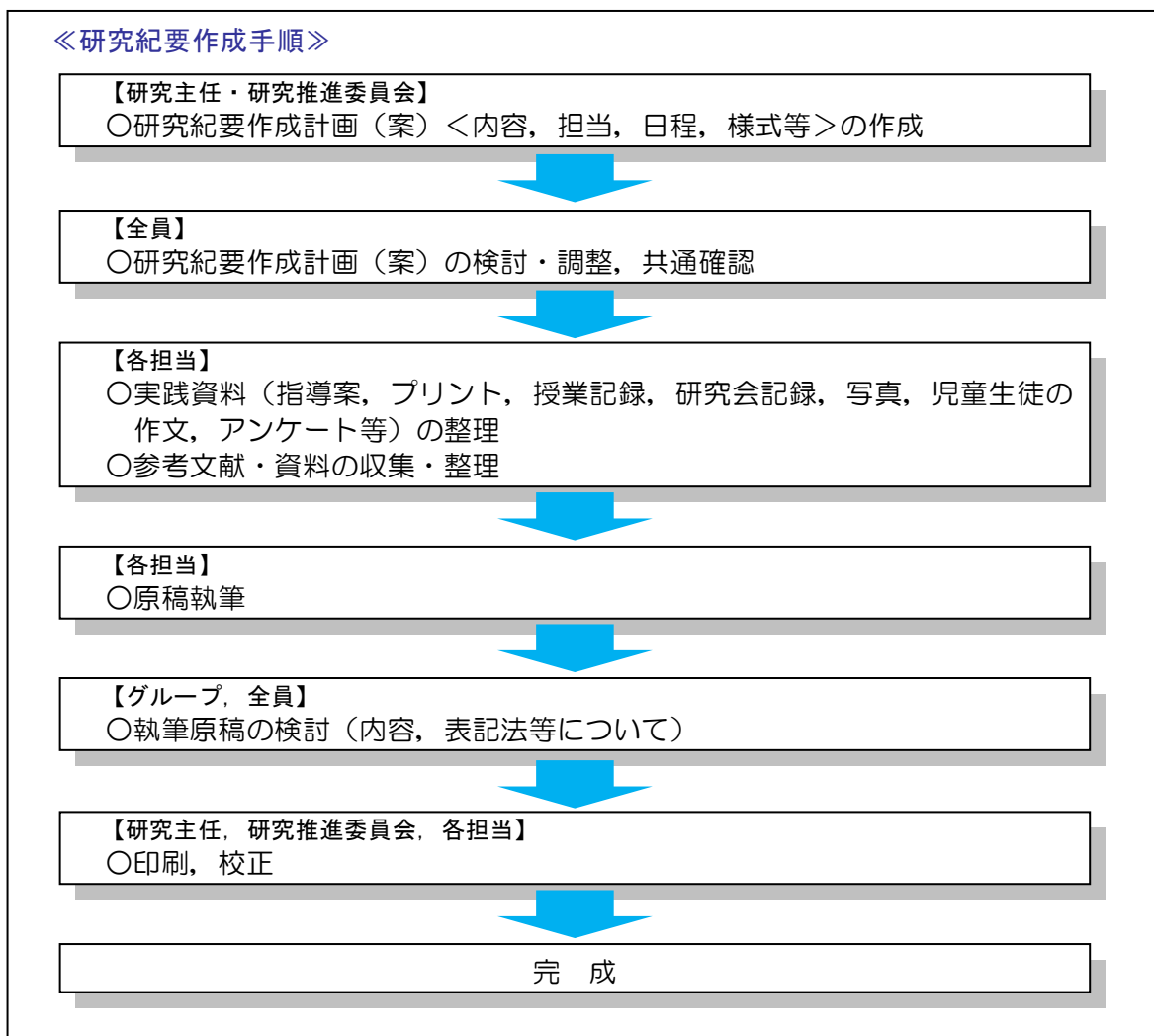
- 研究主題がどのような課題や必要性から導き出されたものであるかが示されている。
- 研究がどのような組織・方法・計画で推進されたのかが、具体的に示されている。
- 研究の内容が具体的に示されている。
- 児童生徒の変容が具体的・客観的に示されている。
- 手立ての有効性が具体的・客観的に示されている。
- 研究の成果と課題が明らかになっている。
- 参考文献や引用文献の出典が明らかになっている。

研究紀要を作成する際には、以下のことに留意する必要があります。

### 《研究紀要作成上の留意点》

- 同僚性・連帯意識を醸成するために、役割分担し執筆する。  
(ex.全員が研究授業を実施し、その指導案や成果等を記載する。)
- 読み手の立場に立ち、他校でも実践活用できるように作成する。
  - ・平易で分かりやすい表現にする。(写真やイラスト、図等の活用)
  - ・実践で使用した指導案やプリント等の資料を掲載する。(補助資料編として採録)
  - ・目次や項立て、内容構成を工夫する。
- 研究主題から研究のまとめまでに、論理的に一貫性をもたせる。
- 検討会を数回経て完成させる。(指導主事等から助言を受ける。)
- 先行文献と自校の考えを明確に分けて記述する。

研究紀要の作成手順の一例を示します。



各学校で作成している研究紀要に対して，次のような批判があります。

- ・客観的データが示されず，検証があまい
- ・出典を明らかにしないまま文章や論を転用している
- ・先行研究の洗い出しが十分でないまま研究が行われている
- ・わずかなデータから，強引に一般化に結び付けている
- ・研究主題からまとめまでに論の整合性がとれていない etc.

上記のことは，すべての研究紀要にあてはまるわけではありません。しかし，研究紀要があまり読まれていない，活用されていない要因にもつながっていると捉えることができます。

前頁に記載した「研究紀要の要件」「研究紀要作成上の留意点」とともに研究紀要の内容を吟味する視点にするとよいでしょう。





## 個人の教育実践のまとめ方「授業力アップ・ポートフォリオ」

### Point

- 自己や他者の実践の成果と課題、参考資料等をポートフォリオする。  
→ 「授業力アップ・ポートフォリオ」
- ポートフォリオを持ち寄り、同僚同士でシェアリングし学び合う。

授業力量の向上・授業改善を図るために授業研究を推進していく際、「学校全体」と「教師個人」の二つの側面から推進していくことが効果的です。「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組は、個の側面からの研究推進に該当します。

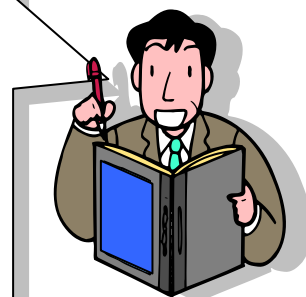
「授業力アップ・ポートフォリオ」とは、教師が自分の力量向上や授業改善を目的として、自己課題を設定し、それに基づき日々の実践に取り組み、取りためた資料をポートフォリオしたものです。

授業力アップ・ポートフォリオの取組では、以下のことが期待できます。

- 自分の力量向上や授業改善の足跡を記録として残すことができる
- 自分の実践についてリフレクション（省察）するとともに、同僚同士ポートフォリオを持ち寄ってシェアリングすることにより、力量向上・授業改善が図られる
- 新たな自己課題の設定・その改善に向けた取組がサイクルとなり、力量向上・授業改善へ向けた取組が不断になされる

「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組は、おおまかに次のような手順を進めます。

- 1 「自己課題」「課題解決のための方策」「課題解決に向けたスケジュール」等の設定（cf. 49 ページ「自己課題解決シート」）
- 2 日常実践&資料のファイリング
- 3 実践のリフレクション（省察）
- 4 ポートフォリオのシェアリング



ポートフォリオは、クリアファイルやパソコンで作成します



- ◆ポートフォリオに綴じ込む資料例
  - ・自他の教育実践の成果と課題
  - ・指導案 ・教材研究メモ
  - ・学習プリント ・文献
  - ・授業記録 ・研究会記録
  - ・写真、VTR
  - ・児童生徒の作文
  - ・研修会の資料
  - ・実践についての所感 等

「授業力アップ・ポートフォリオ」の作り方（「自己課題解決シート」を活用して作成する例）

準備

《「自己課題解決シート」(cf. 49 ページ)を活用し、以下のことを確認する》

- ◆自己課題
- ◆課題解決がなされた姿
- ◆具体的な課題解決策
- ◆スケジュール

《クリアーファイルを用意する》



【ファイルの条件】

- ◇丈夫なもの
- ◇中身の見やすいもの
- ◇A4サイズのもの
- ◇ポケットの多いもの  
(50 ポケットくらい欲しい)

※パソコンで作成してもよい

「自己課題解決シート」に基づいた実践

ポートフォリオA

《ファイルに資料を綴じ込む》

【綴じ込むものの例】

- 「自己課題解決シート」
- 指導案                       学習プリント                       研究会記録
- 教材研究メモ               研究授業の写真               研究レポート
- インターネット情報のプリントアウト資料
- 参考文献のコピー資料               児童生徒の作文
- メモ（思考途中のこと、やるべきこと等）
- 研修会資料               実践についての所感              etc.

【留意点】

- 時系列で、どんどん綴じ込む
- 資料には、出典、日付等を入れておく
- ファイルの最後のポケットに、付箋紙やメモ用紙等を入れておき活用する

※ ここでは、情報を綴じ込むということのみを目的としてポートフォリオを作成します。このポートフォリオを「授業力アップ・ポートフォリオA」と名付けることとします。

ポートフォリオB

《ポートフォリオを再構築する》

自己の授業力量の向上を意識して、「授業力アップ・ポートフォリオA」の中の資料を整理し、「授業力アップ・ポートフォリオB」をつくります。（ポートフォリオの再構築）

再構築する活動をとおして、リフレクション（省察）したことを、文章や図に表し新たな資料として綴じ込んでおくとよいでしょう。

「授業力アップ・ポートフォリオB」には、整理した項目ごとにラベルをつけるなどするとよいでしょう。自分のよさや向上したことを確認できることでしょう。

《ポートフォリオB作成例》

【教科別・指導法別でファイルを複数用意し、整理する例】

☆ファイル1（国語「書くこと」に関する資料）

- ①「書くこと」に関する学習プリント②児童の作文③指導案④関係参考文献コピー 等

☆ファイル2（図工）

- ①評価の考え方に関する資料②児童作品の写真③指導案④他校学校公開紀要⑤実技研修会資料 等

【「授業力」の視点から整理する例】

同一ファイル内に、次の視点から資料を整理する。（視点ごとにラベルを付ける）

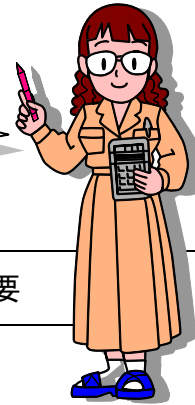
視 点	具 体 的 な 内 容
○教育に対する姿勢	使命感 熱意 教育観 等
○授業構想	教材解釈 教材・教具開発 授業計画 評価計画 環境構成 等
○学習集団マネジメント	児童・生徒理解 統率力 人間関係構築力 学習意欲の喚起 等
○指導法	授業実施に関する技術（発問 板書 学習形態 発言への対応等） 指導と評価の一体化 環境構成 等

シェアリング

《「授業力アップ・ポートフォリオB」を他の教職員とシェアリングする》

教職員全員や研究グループ内で、互いの「授業力アップ・ポートフォリオB」を紹介し合い、自他のよさを確認したり、学び合ったり、意見を述べ合ったりします。（少人数グループでのシェアリングが効果的です）

研究協力校の奥州市立水沢小学校が行っている「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組の概要を紹介します。



## 「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組概要

### ≪「授業力アップ・ポートフォリオ」の作成≫

#### I 「自己課題解決シート」の作成

【自己課題解決シート例】 ※実物より転記

自己課題解決シート 名前 ○○ ○○

**【自己の課題】**

- ① 意欲をもって作文を書けるように、題材の提示を工夫すること。
- ② 児童がモデル作文からよさを取り出せるように、モデル作文の提示の仕方を工夫する。

**【課題解決がなされたときの姿】**

- ① 自分の書きたいことを意欲的に表現できる。
- ② モデル作文から見つけたよさを自分の作文に生かして書く。

**【具体的な解決策】**

- ① 意欲をもって書くことのできる作文題材を探し、検討する。
- ② モデル作文の2題提示を検証する。
- ③ 児童の作文を分析する。

**【簡単なスケジュール 11月～12月】**

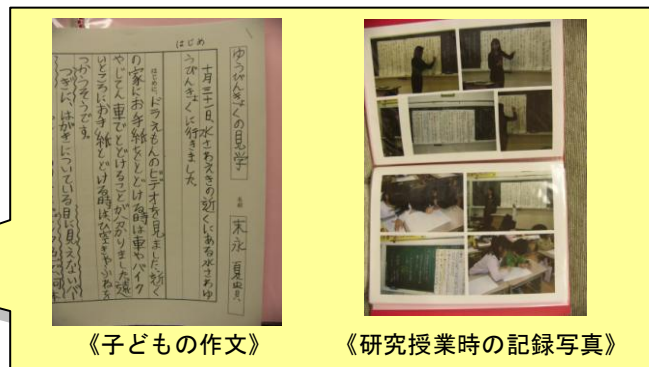
月日	課題解決のための取り組み
11月上旬	・作文題材についての資料を集め、研究する。 ・指導の目的に合わせて、リライト教材を作る。
11月中旬	・児童の作文を分析する。
12月上旬	・振り返りをして、まとめる。

「自己課題解決シート」への記述は、できるだけ具体的な教師・子どもの姿、活動をイメージして書くようにすることがポイントです。

「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組は、内容にもよりますが、短期サイクルがよいでしょう。（一つの取組を2・3ヶ月程度）

#### II 資料のファイリング

- ・時系列でどんどんファイリングしていく（資料に日付を入れる）
- ・ファイルの最後のポケットに、付箋紙やメモ用紙等を入れておき活用する



《子どもの作文》

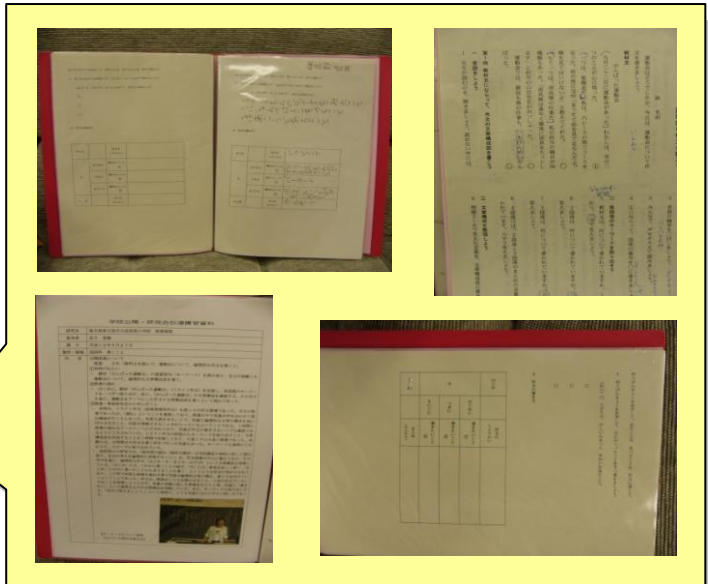
《研究授業時の記録写真》

資料を時系列でどんどん綴じ込んでいきます

### III ポートフォリオの再構築

- ・時系列でファイリングしたものを、観点に沿って整理する
- ・資料を振り返って感じたこと・考えたことを、文章や図等に表し  
新たな資料として綴じ込んでおく（リフレクション）

国語科「書くこと」の指導という観点で、ポートフォリオを整理しています。



#### 《各自の取組のシェアリング》

### IV グループでシェアリングを行う

- ・グループの例：教科部会ごと、学年団、教職経験年数を考慮等
- ・シェアリングの進め方
  - ①個人の発表
    - ・「自己課題解決シート」「授業力アップ・ポートフォリオ」を基に発表
    - ・現時点での成果と課題、意見をもらいたい点等
  - ②発表に対する意見交換  
〈グループ構成員ごとに①と②を繰り返す〉
  - ③シェアリングを振り返っての感想発表
    - ・同僚から学んだこと
    - ・次に取り組んでみたいこと
 〈このシェアリングの所感等も「授業力アップ・ポートフォリオ」に綴じ込んでおく〉

### V 個人ごとの成果と課題をまとめる

- ・個人ごとの成果と課題を、研究通信で紹介したり、互いのポートフォリオを自由に見ることができるよう保管方法を工夫したりすることで、全体での共有化を図る

# 資料編

- 授業参観チェックシート
- 児童生徒による授業の評価
- 研究の評価チェックシート
- 自己課題解決シート
- 概念化シート
- ブレインストーミング・KJ法
- ガイドブックを活用した実践にかかわる意識調査結果

## 授業の評価「授業参観チェックシート」

チェックシートを活用することにより、授業全体についてバランスよく評価することができ、問題点を明らかにすることができます。

下のチェックシートは、ほとんどの授業で活用することができるので、教科の違う中学校や高等学校の授業参観でも使用することが可能です。

自校の校内研究の仮説等に合わせて、項目や具体例を変えてみてもよいでしょう。

項目	具 体 例		評 価				
			A	B	C	D	E
授業 構想	1	本時の目標は、学習指導要領に則るとともに、児童生徒の実態に応じ適切である。	A	B	C	D	E
	2	年間指導計画に則り、授業進度が適切である。	A	B	C	D	E
	3	評価規準や評価方法が適切である。	A	B	C	D	E
	4	前時までの学習内容が全児童・生徒に定着している。	A	B	C	D	E
	5	必要に応じたプリントや資料等を用意している。	A	B	C	D	E
	6	グループ活動や一人学び等、指導形態の工夫をしている。	A	B	C	D	E
	7	視聴覚機器の利用等、指導方法を工夫している。	A	B	C	D	E
	8	習熟を図る時間を適切に設定している。	A	B	C	D	E
板書	9	授業内容を構造的に示すものになっている。	A	B	C	D	E
	10	文字の大きさや筆順、書くスピード等が適切であり、丁寧に書いている。	A	B	C	D	E
	11	紙板書や色チョーク等の使い方が工夫されている。	A	B	C	D	E
発問	12	全員に対して、分かり易い発問・指示をしている。	A	B	C	D	E
	13	多様な考えを引き出す発問になっている。	A	B	C	D	E
	14	補助発問等で思考を広げたり深めたりしている。	A	B	C	D	E
	15	一部の児童生徒に偏ることなく全員を参加させようとしている。	A	B	C	D	E
対応	16	表情豊かな対応をしている。	A	B	C	D	E
	17	机間指導等を行い、個に応じた適切な指導・助言をしている。	A	B	C	D	E
	18	児童生徒のつまづきをしっかりとらえている。	A	B	C	D	E
	19	児童生徒の学習状況を把握し、思考や活動に適切な時間をとっている。	A	B	C	D	E
	20	児童生徒の学習状況を把握し、必要に応じて計画を修正して指導している。	A	B	C	D	E
	21	ノート指導を適切に行っている。	A	B	C	D	E
	22	家庭学習についての指示（内容・手順等）を具体的に行っている。	A	B	C	D	E
学習 集団	23	児童生徒間に、互いを尊重し、学びあう雰囲気育てている。	A	B	C	D	E
	24	発達段階に応じた望ましい学習規律を定着させている。	A	B	C	D	E
姿勢	25	適切な言葉遣いや服装をしている。	A	B	C	D	E
	26	教室の学習環境を整えている。	A	B	C	D	E
コメント							

A：大いに当てはまる      B：当てはまる      C：当てはまらない      D：まったく当てはまらない  
E：該当なし

## 児童生徒による授業の評価

児童生徒の授業評価から、児童生徒がどのようなことを感じているのかを分析し、授業改善の資料とすることも大切です。教師自身の評価と児童生徒の評価のずれを分析しましょう。

《児童生徒による授業評価表》

質 問		○で囲みましょう				
授業の 進め方 や内容	1	先生の声は、聞き取りやすかったですか。	ア	イ	ウ	エ
	2	先生の質問や説明などは、わかりやすかったですか。	ア	イ	ウ	エ
	3	黒板の字は、見やすかったですか。	ア	イ	ウ	エ
	4	黒板に書かれていることは、わかりやすかったですか。	ア	イ	ウ	エ
	5	ノートをとる時間は、十分でしたか。	ア	イ	ウ	エ
	6	考える時間は、十分でしたか。	ア	イ	ウ	エ
	7	わからないことを気軽に聞くことができましたか。	ア	イ	ウ	エ
	8	よい雰囲気友達と学び合うことができましたか。	ア	イ	ウ	エ
	9	授業の内容が、よく理解できましたか。	ア	イ	ウ	エ
	10	授業の内容に、興味をもてましたか。	ア	イ	ウ	エ
	11	授業で使った資料やプリントなどは、役に立ちましたか。	ア	イ	ウ	エ
先生にお願いしたいことがあれば書いてください。						

ア：大いに当てはまる

イ：当てはまる

ウ：当てはまらない

エ：まったく当てはまらない

小学校の低学年であれば、教師が一つ一つの設問について、説明しながら挙手させる方法もあります。  
中学年では、一つ一つの設問それぞれに回答を付けると答え易いかもしれません。



## 研究の評価チェックシート

項目	具 体 例		評 価			
			A	B	C	D
課題把握	1	児童生徒の実態から把握した切実なものか。				
	2	先行文献・先行実践の洗い出しは十分か。				
	3	学校教育目標に結び付いているか。				
研究主題	4	課題が分析され、焦点化されたものになっているか。				
	5	全教職員に共通理解が図られ、解決の意欲をもてるものになっているか。				
	6	必要性・緊急性をもったものであるか。				
	7	研究期間や学校の実態等をふまえて妥当なものになっているか。				
研究目標	8	明確で、具体性をもっているか。				
	9	学校教育目標達成に関連の深いものになっているか。				
研究仮説	10	研究主題解明に機能するものになっているか。				
	11	指導の手だてや児童生徒の変容の姿が見える焦点化・具体化されたものになっているか。				
	12	参考文献や児童生徒の実態を参考に、その設定の根拠付けが明確になっているか。				
	13	検証に耐えうるものになっているか。				
研究計画	14	研究推進計画が適切に立てられているか。(日程, 活動内容, 方法, 手順等)				
	15	研究組織が、学校の実態や教師の特性を考慮したものになっているか。				
	16	検証に必要な資料が明確になっており、全教職員に共通理解されているか。				
	17	校内研修や校外研修の場が設定されているか。				
	18	外部講師等の活用が適切に図られているか。				
実践過程	19	研究の手立てが適切に盛り込まれながら実践されているか。				
	20	検証のための資料収集の方法や用具等が整えられ、正確に記録されているか。				
	21	仮説に沿って、成果と課題を明確にしながら進行しているか。				
	22	成果と課題が全教職員に共通理解されているか。				
研究のまとめ	23	児童生徒がどのような条件で、どう変容したのかを明確につかんでいるか。				
	24	仮説に沿って、資料の分析・考察がなされているか。				
	25	仮説に沿って、成果と課題が明確になっているか。				
	26	研究主題からまとめまで一貫性があり、平易な文章でまとめられているか。				
成果の活用	27	研究成果は、自校のみならず他校にとっても価値あるものとなっているか。				
	28	研究を継続発展させるための方向性が明確になっているか。				
	29	研究成果を日常の教育活動の中でどう活用するのが明確になっており、全教職員にそのことが共通理解されているか。				
コメント						

A : 大いに当てはまる      B : 当てはまる      C : 当てはまらない      D : まったく当てはまらない



## 自己課題解決シート

《自己の課題》

--

《課題解決がなされたときの姿》

--

《具体的な課題解決策》

--

《スケジュール》

月	課題解決のための取組

## 《自己課題解決シート記載例》

### 《自己の課題》

- 指導法について
  - ・発問や指示の吟味
  - ・計画的な板書
- 基礎・基本を定着させる授業づくりについて
  - ・評価規準の明確化
  - ・定着の時間の確保
- 学級経営について
  - ・児童理解の工夫
  - ・朝の会や帰りの会の充実

ここでは、おおきく3点について挙げていますが、欲張らずに、本年度重点的に取り組むことを挙げるとよいでしょう。年度途中で達成されたときには、また別の課題を取り上げるようにしましょう。

### 《課題解決がなされたときの姿》

- 指導法について
  - ・何度も言い換えをせずに簡潔な発問ができる。→多様な児童の発言が増える。挙手をする児童が増える。
  - ・一目見て授業の内容が分かる板書。(紙板書や色チョークの工夫)→児童のノートの充実。
- 基礎・基本を定着させる授業づくりについて
  - ・具体的な学習課題が設定される。→授業の終わりに児童が、何について学習したのかを言うことができる。
  - ・学習定着度状況調査ですべての児童が正答率8割以上。
- 学級経営について
  - ・誰とでも仲良く遊べる学級
  - ・学校に来るのが楽しいと思える学級の雰囲気
  - ・友達のよさを見つけ言うことができる学級

### 《具体的な課題解決策》

- 指導法について
  - ・「授業構想ノート」を作成し、少なくとも1日の中の1時間の授業について、板書計画と主な発問を記述する。
  - 児童の授業評価アンケートを作成し、発問の分かり易さの変異を見る。
- 基礎・基本を定着させる授業づくりについて
  - ・「授業構想ノート」に毎時間の授業の評価規準を書く。毎時間の授業の学習課題を書く。
  - 学習定着度状況調査の結果分析をする。
- 学級経営について
  - ・始業前と休み時間には、児童と一緒に遊び児童理解に努める。
  - ・朝の会や帰りの会の「先生から」で、子どものよさや、教師の願い(目指す学級像)を話す。
  - 児童に学級生活についてのアンケートを実施し、満足度を分析する。

### 《スケジュール》

月	課題解決のための取組	
4月	「授業構想ノート」の取組	授業評価アンケート①実施, アンケート分析
5月		
6月		
7月	「授業構想ノート」の振り返り①	
8月		
9月		
10月		授業評価アンケート②実施, アンケート分析
11月		
12月	「授業構想ノート」の振り返り②	
1月		
2月		
3月	▼「授業構想ノート」の振り返り③	授業評価アンケート②実施, アンケート分析

ここでは、指導法についての取り組みのみのスケジュールを記載しています。

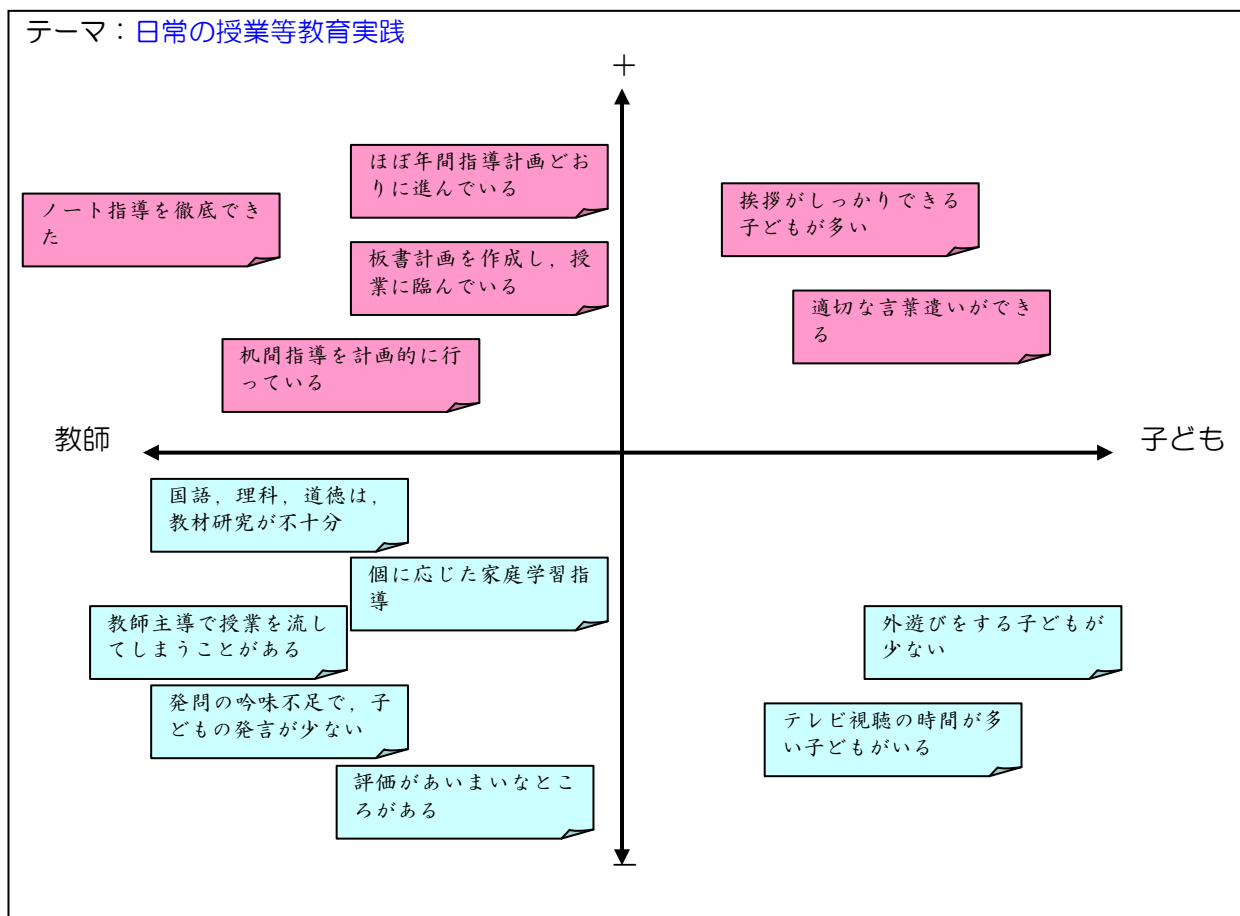
## 概念化シート

概念化シートとは、下図のように、縦横2軸によって4象限に仕切られたシートです。横軸には、検討するテーマについて考える視点を位置付けます。下図では、「教師」と「子ども」、「個人」と「学校組織」としています。縦軸には、プラス面とマイナス面を位置付けます。この4象限上それぞれの箇所に該当する付箋紙を貼っていきます。そして、それらをKJ法を用いて関連付け、まとめていくことによって、成果を得ようとするものです。

概念化シート活用の際には、付箋紙への記入・貼付による概念化と、KJ法による構造化が重要な意味をもちます。

### 《概念化シート例1》

(自分の教育実践について振り返り、力量向上のための課題を導き出すときに使用した例)

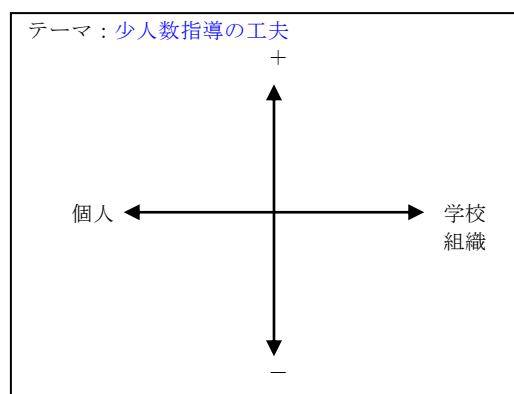


### 《概念化シート例2》

(テーマを自校の研究内容とし、成果と課題を出し合い、次時の研究の方向性を導き出すときに使用する例)



グループのメンバー同士で、付箋紙を操作し合い、互いの思いや考えを知り合うとともに、学びを再構成することをとおして、考えを深めることができます。



## ブレインストーミング

あるテーマに関することについて、自由に意見を出し合う発想支援法です。質より量を重視し、他の参加者の考えを批判してはいけません。ブレインストーミングでは、多様な考えが生産されるため、その後にKJ法等により整理が必要です。

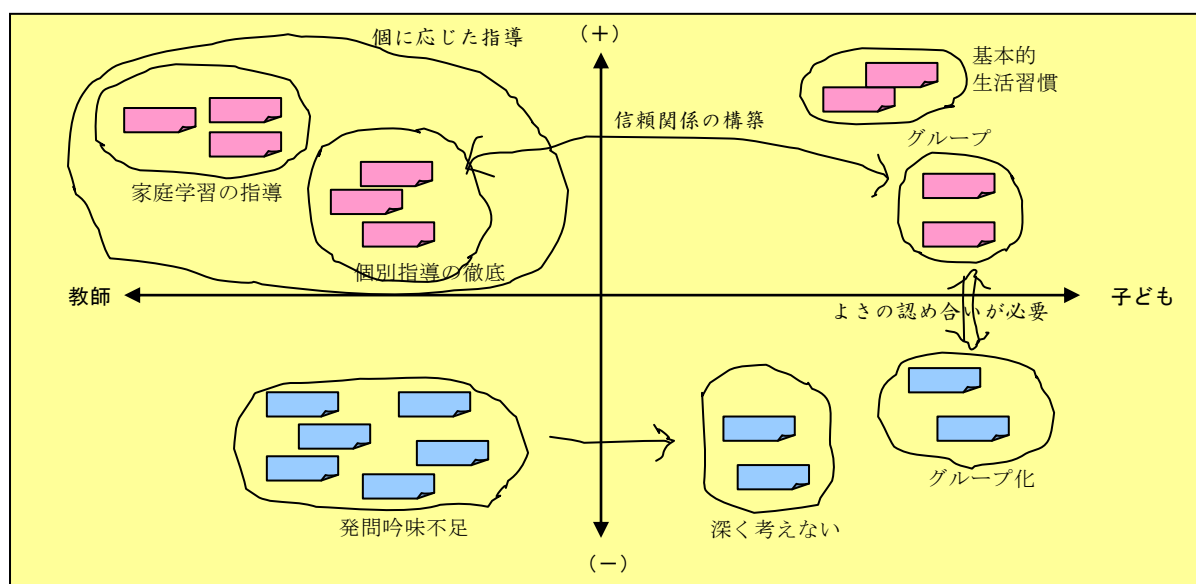
## KJ法

文化人類学者の川喜田二郎氏が、データをまとめるために考案したものです。断片的なデータを相互に関連付けていくことにより、問題解決の方向性を探り出したり、新たな発見を導き出そうとしたりするものです。創造的問題解決に効果があるとされます。

### 《おおまかな手順》

- ・一つのデータを1枚のカード（付箋紙やラベルでもよい）に書き出す。  
※カードの使い方の約束事（カードの色と記述内容の関連、横書きか縦書きか等）を決めておく。
- ・書き出したカードをシート（模造紙等）上に並べる。  
※記述者が内容を読み上げながら並べると分類しやすくなる。  
※他の参加者の書いた内容について否定しない。
- ・カードの中から似通った記述内容のカードをあつめ、いくつかのグループにまとめる。
- ・それぞれのグループに小見出しをつける。
- ・グループ間の関係を分析し、その関連を矢印で図示したり、文章で示したりする。  
ex. AとBは同類である（A = B）  
AがBの原因になっている（A → B）  
AとBは相互に関連し合っている（A ↔ B）

### 《概念化シートでKJ法を用いた例》



## ガイドブックを活用した実践にかかわる意識調査結果

平成18年度作成の「校内授業研究の進め方ガイドブック(試案)」を活用して実践を行った研究協力校と研究協力員のみなさんにアンケート調査を行いました。

ここでは、そのアンケート調査の結果について紹介します。  
(調査結果の分析・考察については、本資料をご覧ください。)  
[http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryu/h19/h19\\_19a1.pdf](http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryu/h19/h19_19a1.pdf)



### 【アンケート調査の内容・対象・方法】

調査内容	対 象	調査方法
1 「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による研究推進の有効性	研究協力校の教員 研究協力員	評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問1）
2 「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の有効性		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問2）
3 ワークショップ型研究会の有効性		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問3）
4 ガイドブック（試案）の有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問4・5）
5 授業研究による変容の対象及びその内容		評定尺度及び自由記述の質問紙法（設問6）

### 【アンケート調査の設問内容】

設問番号	設 問 内 容
1	「技術的実践」（研究テーマに関すること）と、「反省的実践」（研究テーマにかかわらないこと）の二つの視点をもって授業研究を進めたことは、授業力量向上・授業改善を図るために有効であったか。
2	全教職員による校内研究テーマの追究とともに、個人で「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組を行ったことは、授業力量向上・授業改善を図るために有効であったか。
3	「ワークショップ型研究会」は、授業研究を推進する上で有効な研究会の方式であったか。
4	校内授業研究を推進する上で、「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」は、役立ったか。
5	「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」で、修正・改善を加えた方がよいと思うことは何か。
6	本年度の授業研究をとおして、自分自身や子ども、教職員集団などで変化が見られたことがあるか。

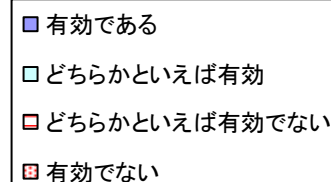
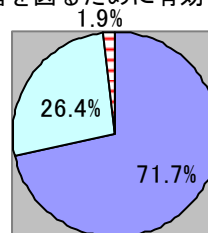
## 【「技術的実践」と「反省的実践」の二つの視点による研究推進の有効性についての回答状況】

## 【設問1】

「技術的実践」（研究テーマに関すること）と、「反省的実践」（研究テーマにかかわらないこと）の二つの視点をもって授業研究を進めたことは、授業力量向上・授業改善を図るために有効であったか。

	人数 (%)
ア 有効である	38 (71.7%)
イ どちらかといえば有効である	14 (26.4%)
ウ どちらかといえば有効でない	1 (1.9%)
エ 有効でない	0 (0%)

※有効回答数=53



## 《プラス回答の自由記述から》

- 授業を観る視点や研究会の視点が明確になる
- 研究テーマ以外の部分でも他の先生方の授業の技を学ぶことができた
- 授業の基礎となる学級づくり等を見ることも勉強になった
- 技術的実践と反省的実践が相互に関連づいてこそ、トータルな授業の力量が向上すると考える
- 反省的実践がなかなか共通化・共有化されないという現状を考えると、二つの視点があることが有効であった
- 授業力量向上のためには、研究テーマのみならず、教材解釈力、授業の技術力、教材に対する又授業に対する教師の意欲が多大に関ると考える
- 従来は研究テーマに関係することと関係しないことが、ごちゃごちゃになりがちだった

## 《課題点にかかわる記述から》

- 境界領域の処理に問題を残す
- どれだけ深められたかということには、まだ課題が残る
- 反省的実践という語句はよくないと思う。もっとわかりやすいものを使った方がよいと思う
- 研究でそういう視点を意識することがなかった

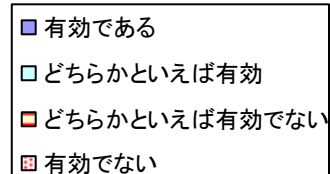
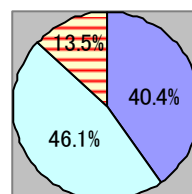
## 【「学校全体」と「教師個人」の二つの側面による研究推進の有効性についての回答状況】

## 【設問2】

全教職員による校内研究テーマの追究とともに、個人で「授業力アップ・ポートフォリオ」の取組を行ったことは、授業力量向上・授業改善を図るために有効であったか。

	人数 (%)
ア 有効である	21 (40.4%)
イ どちらかといえば有効である	24 (46.1%)
ウ どちらかといえば有効でない	7 (13.5%)
エ 有効でない	0 (0%)

※有効回答数=52



## 《プラス回答の自由記述から》

- 資料等をファイルに蓄積していくことで、自分の授業改善を図りやすくなったと思う
- ポイントを明確にして取り組むことで、自分の授業改善が図られる
- 自己課題を追究することで、授業に対しより真摯に臨むことができた
- 目標をもって毎日の授業に取り組むことが、授業を楽しいものにしていくと思うし、授業力アップにもつながると思う
- 研究や実践の記録は意識して行っていないと、せっかくの価値あるものも消えてなくなりがちである。ファイルにしておくことで改善点も見えるし、他職員他教科に広めることもできる
- 大局的・将来的に観たとき、これらの積み重ねこそが授業力向上・授業改善の糧になるのだと確信できる
- 研究会で学んだことや話し合ったことが、その都度途切れずに、次の日からの実践へとつながっていく

## 《課題点にかかわる記述から》

- 小サイクルでの計画・取組・反省が効果的であると思う
- 研究会としてシェアリングをする場の工夫が必要である
- 時間的に厳しく、取りためたものを見るという時間もなかなか取れないのではないかとも思う
- 普段から研究テーマに沿って学ぶことが多く、それ以上にというのは少し無理がある
- 蓄積したものの分析や活用という点においては全部を使いきれなかった
- うまく資料をファイルすることができなかった。活用も含めできなかった

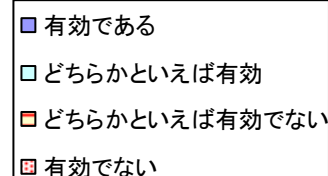
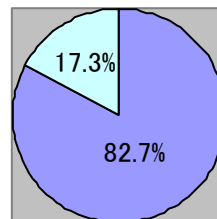
## 【ワークショップ型研究会の有効性についての回答状況】

## 【設問3】

「ワークショップ型研究会」は、授業研究を推進する上で有効な研究会の方式であったか。

	人数 (%)
ア 有効である	43 (82.7%)
イ どちらかといえば有効である	9 (17.3%)
ウ どちらかといえば有効でない	0 (0%)
エ 有効でない	0 (0%)

※有効回答数=52



《プラス回答の自由記述から》

- 今までよりも、自分が発言する機会、他の先生の発言を聞くことが増え、考えがより深まった
- 授業を見る力がついてきた
- 従来の方法だと、発言が一部のみに偏り、授業の見方が狭いまま研究会を終えることが多々あった。ワークショップ型研究会だと、全員に発言の機会があり、そのため授業を広く見ることができる
- 成果と課題が明確になる（視覚的にも）
- 全体の場では聞きにくい小さな疑問もワークショップの中で納得したり理解したりすることができた
- これまで以上に自分の意見をしっかりとって研究会に臨もうという意識が高まった
- 短時間で共通理解が図られる
- 事前研でのワークショップ型研究会も大変有効で、一人一人が教材理解を深めるとともに、部員で共通理解して教材解釈をすることができた
- 自分の担当教科以外の研究会にも、積極的に話し合いに参加できた

《課題点にかかわる記述から》

- 授業者の思い・考えが届きにくい
- 自分が疑問に思っていた点や聞きたい指導法などについては、思うように聞けない部分があるのではないか
- 話し合いが平板になっているような気がする
- 少数派の考えが取り入れられないことがある

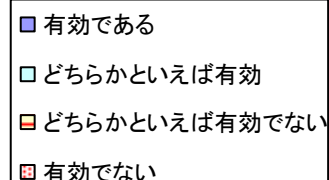
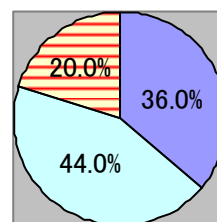
## 【ガイドブックの有効性についての回答状況】

## 【設問4】

校内授業研究を推進する上で、「校内授業研究の進め方ガイドブック（試案）」は、役立ったか。

	人数 (%)
ア 有効である	18 (36.0%)
イ どちらかといえば有効である	22 (44.0%)
ウ どちらかといえば有効でない	10 (20.0%)
エ 有効でない	0 (0%)

※有効回答数=50



《プラス回答の自由記述から》

- 必要なときに必要な観点や内容を活用できる資料である
- 細かい所まで書いている。ここから取捨選択するのであるから、さらに細かくてもよい
- シートの実物がある
- 研究を進める上で、基本的な流れを確認することができた
- 具体例が示されており、実践に結びつける手立てが分かりやすくまとめられていた
- 場面ごとのポイントがきちんと示されていて読み易い
- 授業研究では進め方など悩んでいたが、一つの方法・方向性を示していただき参考にさせていただいた
- 学校としての研究の進め方だけでなく、個人の授業力を上げる方法等について知ることができた

《課題点にかかわる記述から》

- 冊子に目を通す暇がなかった
- 「小学校用」「中学校用」「高校用」と段階別に内容に違いを持たせてはいかがか
- 校内の実践と対応したときには役立つが、すべてが役立つとは言えない
- よく読んでいない
- 対象が、研究主任や部会リーダー用なのか、学級担任用なのか分かりづらい

## 【ガイドブックの修正・改善点についての記述】

- ◆コンパクトにすると活用しやすい
- ◆「簡略版」「詳細版」のようにすればよい
- ◆何で困っているとき、どの項目を読めばいいのかわかるとよい
- ◆センターのホームページに、ワークショップ型研究会の様子が解説つきでビデオモジュールという形で紹介されているとよいのではないか
- ◆段階をおったステップがあってもよい  
(たとえば、ワークショップ型研究会初期段階の在り方、中期段階、後期など)
- ◆見やすさ(一目でポイントがわかる)がもう少し工夫されるとよい
- ◆授業場をイメージした具体的な言葉が入るとよい

## 【授業研究による変容の対象及びその内容についての回答状況】

## 【設問6】

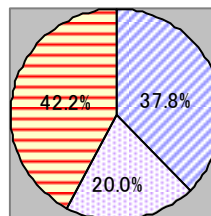
本年度の授業研究をとおして、自分自身や子ども、教職員集団などで変化が見られたことがあるか。

	人数 (%)
ア ある	53 (100%)
イ ない	0 (0%)

※有効回答数=53

「ア ある」と回答した場合、それは、何の変化か。(複数回答可)

	人数 (%)
ア 自分自身の変化	34 (37.8%)
イ 子どもの変化	17 (20.0%)
ウ 教職員集団の変化	37 (42.2%)
エ その他	0 (0%)



■ 自分自身
□ 子ども
■ 教職員集団
■ その他

## 《変化にかかわる自由記述から》

変容の対象	具体的な変容の内容
自分自身	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識を強くもち、研究授業に参加するようになった</li> <li>・研究会で考えを言いやすくなった</li> <li>・指導観が明確になった</li> <li>・同僚の考えを聞く機会が増えた</li> <li>・授業の組み立て方や授業の見方が深まった</li> <li>・授業研究に対して主体に取り組むようになった</li> <li>・以前の研究会には何となく緊張して参加するイメージがあったが、ワークショップ型研究会にはリラックスして参加しているように感じる</li> </ul>
子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相互、教師と児童が学びを深め合って行く姿が現れてきた</li> <li>・研究会の手法を生かし、授業にワークショップを取り入れ、子どもの主体的な学びを促している</li> <li>・算数の授業の高め合いの部分に、新しい試み(学級内ワークショップ)を取り入れたことにより、子どもの発言力が伸びた</li> <li>・研究成果を生かし、発問や資料の精選をしたことにより、明らかに反応が違う。多様な見方・考え方ができる児童が増えた</li> <li>・学習意欲が向上した</li> <li>・安易に回答を探すのではなく、考えて発問に答える姿勢が見られるようになった</li> </ul>
教職員集団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベテラン中心の研究会だったのが、中堅・若手の活躍も目立つようになった</li> <li>・研究会の活性化が図られるとともに、成果と課題を共有化できるようになった</li> <li>・研究内容に深まりが見られるようになった</li> <li>・共通理解が進み、今後、研究内容の深まり、教師自身の変化、ひいては子どもに力をつけることにつながるかと考える</li> <li>・コミュニケーションの機会が増えた</li> </ul>



## <おわりに>

このガイドブックを作成するに当たり、下記の研究協力校・研究協力員の先生方に多大なるご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

- 【研究協力校】 奥州市立水沢小学校  
紫波町立紫波第三中学校
- 【研究協力員】 北上市立鬼柳小学校 教諭 松本 祥子  
一関市中里小学校 教諭 叶内 博行  
紫波町立紫波第三中学校 教諭 熊谷 啓子  
県立釜石南高等学校 教諭 目時 一哉 (敬称略)

## 【参考文献】

- 伊藤功一 (1990), 『教師が変わる 授業が変わる 校内研修』, 国土社
- 稲垣忠彦・佐藤学 (1996), 『子どもと教育 授業研究入門』, 岩波書店
- 岩崎奈緒美 (2004), 『授業改善につながる授業研究をー「教師による授業評価」に焦点を当ててー』, 滋賀県総合教育センター
- 岩手県教育委員会 (2006), 『授業カブラッシュアッププラン授業改善シート』
- 岡山県教育センター (2006), 『教育活動の改善に役立つ校内研究の手法に関する一提案』
- 尾木和英編著 (1999), 『新版 校内授業研究事典』, ぎょうせい
- 神奈川県立総合教育センター (2005), 『校内研修ハンドブック』
- 木原俊行 (2004), 『授業研究と教師の成長』, 日本文教出版
- 佐藤学 (2006), 『学校の挑戦 学びの共同体を創る』, 小学館
- 千々布敏弥 (2005), 『日本の教師再生戦略』, 教育出版
- 千々布敏弥 (2005), 『教師の暗黙知の獲得戦略に関する考察ー米国における優秀教員認定制度に注目してー』, 国立教育政策研究所紀要
- 東京都教育委員会 (2004), 『東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会報告書』
- ドナルド・ショーン／佐藤学・秋田喜代美訳 (2001), 『専門家の智慧 反省的実践家は行為しながら考える』, ゆるみ出版
- 広島県教育委員会 (2002), 『授業改善のための校内研修ハンドブック』
- マイケル・ポランニー／佐藤敬三訳 (1980), 『暗黙知の次元』, 紀伊国屋書店
- 村川雅弘編著 (2005), 『授業にいかす教師がいきる ワークショップ型研修のすすめ』, ぎょうせい
- 横浜市教育センター (2005), 『授業力向上の鍵ー横浜の新たな授業研究ー』
- 吉崎静夫 (1997), 『デザイナーとしての教師 アクターとしての教師』, 金子書房